

2023年度 スポーツ科学部 履修要項



この冊子は卒業まで使用します。
大切に保管してください。

この冊子は履修・学修を進めるにあたっての基本事項を
まとめたものです。次年度以降の配布はありませんので、
大切に扱ってください。

※記載内容を変更する場合がありますので、
「UNIVERSAL PASSPORT」等で確認してください。



学校法人 桐蔭学園
桐蔭横浜大学

2023年度

桐蔭横浜大学で学ぶ

桐蔭横浜大学で学ぶ

1 はじめに 4

- 1 生涯スポーツ社会を支える人材に 4
- 2 大学での学びへ 5
 - (1) 自分の4年間のイメージを創る 5
 - (2) 大学の授業で学ぶ 7
 - (3) 教員とコミュニケーションをとる 7
 - (4) 情報は自らつかむ 9

2 教育の基本と仕組み 10

- 1 スポーツ科学部の教育の基本 10
 - (1) 教育の基本理念・目的 10
 - (2) 学科の特色 10
- 2 学修に関する基本事項 13
 - (1) 修学年限と在学年限 13
 - (2) 学年、学期 13
 - (3) 授業時間割 13
 - (4) クラスおよびクラス担任について 13
 - (5) 学 位 13

履 修 要 項

1 履修の手引き 16

- 1 カリキュラムを理解するために 16
 - (1) カリキュラムの基本構成 16
 - (2) 単位制度 17
 - (3) 単位算定の基準 17
 - (4) 学年制度 17
 - (5) 卒業に必要な単位数 18
 - (6) 履修上の留意点 18
- 2 授業科目一覧 19
 - 1) スポーツ教育学科教育課程表
(一般教育科目) 19
 - 2) スポーツ教育学科教育課程表
(専門科目) 21
 - 3) スポーツ健康科学科教育課程表
(一般教育科目) 24
 - 4) スポーツ健康科学科教育課程表
(専門科目) 26

履修上の諸注意

- (1) 履修計画を立てる前に知っておきましょう 29
- (2) 留年しないために 30
- (3) 卒業見込み証明書発行基準 31
- (4) 履修科目を登録する(履修申告) 31
- (5) 学部外で修得した単位の認定 33

2 授業・試験・成績評価 35

1 授業	35
(1) 授業時間	35
(2) 受講上の心得	35
(3) 実技科目受講上の注意	36
(4) 授業の欠席について	36
(5) 公共交通機関の遅延等について	37
(6) 休講と補講	38
(7) 緊急時の授業の取り扱い	38
2 試験	39
(1) 定期試験と授業内試験	39
(2) 追試験	39
(3) 再試験	39
(4) 試験に関する注意事項	40
(5) レポートの書式と提出ルール	40
3 成績評価	41
(1) 成績評価の方法	41
(2) 成績の通知	41
(3) 成績照会	41
(4) GPA制度	41
4 卒業延期制度	42
(1) 申請条件	42
(2) 期間	42
(3) 卒業時期	42
(4) 身分	42
(5) 授業科目の履修	42
(6) 納付金	42

3 実習と特別プログラム 43

1 学校インターンシップ実習	44
2 国際コミュニケーション実習Ⅰ～Ⅲ	44
3 学校体験実習(中・高)	47
4 シーズンスポーツ論Ⅰ・Ⅱ(演習を含む)	48
5 スポーツプロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ	49
6 自然活動論Ⅰ・Ⅱ(演習を含む)	50
7 学校体験実習(小)	51
8 スポーツインターンシップ実習	52
9 スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ	53
10 スポーツ現場実習Ⅰ～Ⅴ	53

4 専門演習(ゼミ)の選択から卒業まで 54

(1) 「専門演習(ゼミ)」について	54
(2) 専門演習から卒業研究へ	54
(3) 卒業研究への流れ	55
(4) 卒業研究テーマ	55

5 免許・資格を取得する 56

1 教育職員免許状(教員免許)	56
2 その他の免許・資格	57
(1) 「スポーツ指導者」資格 講習・試験免除適応コース	58
(2) 「健康運動実践指導者」資格	59
(3) 「パラスポーツ指導者」資格 (初級パラスポーツ指導員)	60
(4) JATI認定トレーニング指導者資格 (JATI-ATI)	61
(5) JPSUスポーツトレーナー資格 (JPSU-ST)	61
(9) Certified Strength and Conditioning Specialist (NSCA-CSCS)	62

教職課程の手引き	63
----------	----

資料編 83

校舎平面図	84
キャンパスマップ	102

スポーツ科学部 教員連絡先一覧	104
スポーツ科学部 レポート提出用カバーシート	105

1 はじめに

- **スポーツ科学部は**
「スポーツ」と「健康」を学際的に追究する。

1 生涯スポーツ社会を支える人材に

スポーツ基本法では「スポーツは世界共通の人類の文化」とであると謳われています。

スポーツは人々に大きな感動・夢・楽しみ・活力などをもたらすものであり、文化的で豊かな生活はもとより心身の健全な発達にとっても不可欠なものです。また、人々のスポーツへのかかわり方も、自らの力量に応じて楽しみ文化としてのスポーツを享受する「するスポーツ」、自らの感覚を駆使してスポーツを楽しむ「見るスポーツ」、行うのではなくスポーツ環境を整えたり支援したりする「支えるスポーツ」など多様となっています。今や、我が国には、多年代の人々が各自の興味・関心等に基づいてスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」が到来したと言っても過言ではありません。

生涯スポーツ社会の到来に伴うスポーツ人口の増大は、スポーツ指導者の充実、スポーツ施設設備の整備、スポーツ産業の発達、スポーツメディアの発達、行政などでのスポーツ専門家の活用などをもたらしました。スポーツを専門に学んだ者の活躍の場は今後ますます拡がりを見せていくことでしょう。今後、最新の知見を身につけたスポーツ専門家の需要はさらに増えていくことでしょう。

このような情勢にあって、スポーツ科学部の大きな役割は、“スポーツという分野の確かな専門知識を持ちながら多様な分野の他者と協働し、融合することで新たな知見を生み出すことのできるスポーツ専門家を養成する”ことです。そのため、スポーツ科学部は、「スポーツ」と「健康科学」に関する多彩な講義や実験・実習科目を提供します。そこでの学びは、必ず皆さんの未来を切り拓いていく原動力になります。

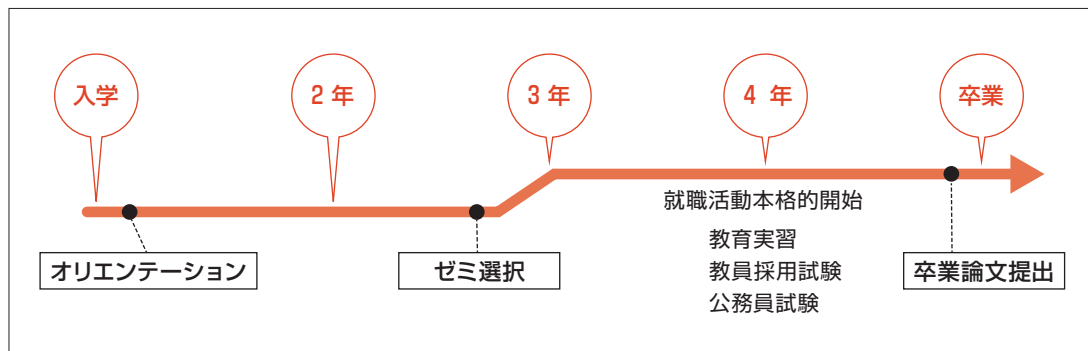
スポーツ科学部での総合的な学びを通して、皆さんには各界で活躍できるスポーツ専門家に育って欲しいと願っています。

1 自分の4年間のイメージを創る

大学での学びは、与えられた時間割にそって勉強するといった高等学校までの学びとは大きく異なります。どんな授業をとるのか、どのようなことを中心に学ぶのか、こういった資格取得を目指すのかといったことはすべて自分で決めることができます。

社会で通用する主体的な行動がとれる力を養うために、この大学での4年間で、ぜひ中身の濃い時間にしてください。そのためにも、しっかりとしたスタートを切ってください。

■ 大学4年間のイメージ



オリエンテーションには、「方位を確認する」という意味があります。自分の立ち位置を確認して、大学4年間の生き方の方向性を定める重要な出発点です。オリエンテーションの期間中に、次の二つのことを進めながら、「大学生」「大人」としての行動へ自分自身を切り替えていきましょう。

1. 大学での学びのしくみを理解し、4年間の学生生活を大まかにイメージする。
2. カリキュラムの特色や制度、ルールを理解し、1年間の具体的な時間割を作成する。



「必修」以外は、1人1人自分用の時間割（スケジュール表）を生み出す。

「国際人」への第一歩

スポーツ科学部の学生は、**ぜひパスポートを取得してください**。異なる世界、人、考え方にふれることが自分の視野を広げ、自己を理解する第一歩となるでしょう。

パスポート取得手続きには、必要書類がそろっていても、申請から約1週間かかります。必要書類をそろえる時間を考えると、取得には結構時間がかかるもの。入学したらずぐにパスポート取得準備にかかり、海外で活動するチャンスなどがめぐってきたときには、いつでも気軽にその一歩が踏み出せるようにしておきましょう。

■ パスポートの取得方法

詳細は [外務省HP : http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/index.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/index.html)

パスポート取得のためには、以下のことを知ってください。

<p>未成年者は5年のパスポート</p>	<p>パスポートには5年旅券と10年旅券がありますが、未成年者（申請日現在20歳未満で未婚者）は5年旅券のみ発給されます。（申請については下欄参照）</p>
<p>どこで申請する？</p>	<p>自分が住民登録をしている都道府県の旅券課に申請します。各都道府県によって申請書類に若干の違いがあるので、詳細はHPなどで必ず確認してください。</p>
<p>申請に必要な書類</p>	<p>① 一般旅券発給申請書 1枚 申請書はパスポート申請窓口で入手できます。</p> <p>② 戸籍抄本または戸籍謄本 1通 申請日前6カ月以内に作成されたもの</p> <p>③ 住民票の写し 1通 住民基本台帳（住基）ネットワークシステムで確認可能な人については原則不要です。</p> <p>④ 写真 1葉</p> <ul style="list-style-type: none"> 縦45mm×横35mmの縁なし、無背景の写真 申請日前6カ月以内に撮影されたもの（現在の容貌と著しく異なる場合、撮り直しを要求されることもあるので注意！） 無帽で正面を向いたもの。頭頂からあごまでが34±2mmであるもの。 写真の裏面には申請者の氏名を記入する。その際、記入のインクがにじまないよう、また凸凹が出ないように注意する。 <p>⑤ 本人確認のための書類 下記の書類で申請者の氏名が記載された有効なものが必要です（コピーは不可）。原則として本人確認のための書類は、氏名、生年月日、性別、住所等が申請書の内容と一致している必要があります。</p> <p>(1) 1点で良い書類（一部省略） 運転免許証、写真付き住基カードなど。</p> <p>(2) 2点必要な書類 〈(1)の書類がない場合。AとBの各1点、又はAから2点を提示する。〉 A：健康保険証、国民健康保険証、印鑑登録証明書（登録した印鑑も必要です）など。 B：次の内、写真が貼ってあるもの 学生証、公の機関が発行した資格証明書など。</p> <p>上記の書類をそろえ、住民登録をしている都道府県のパスポート申請窓口で申請してください。 申請から受領までには通常1週間程度（土・日・休日を除く）かかります。</p>
<p>未成年者（20歳未満の未婚者）が申請する場合</p>	<p>申請書裏面の「法定代理人署名」欄に親権者（父母又はそのいずれか一方）又は後見人が必ず署名するようにしてください。 親権者又は後見人が遠隔地に在住し、申請書に署名ができない場合には、親権者本人又は後見人の署名のある同意書を提出してください（親権者又は後見人の署名を得ることができない事情がある場合には、都道府県旅券事務所に相談）。</p>
<p>パスポートの受け取り</p>	<p>次のものを持って、本人が必ず交付（申請）窓口に行くこと。</p> <p>① 申請の時に渡された受理票（受領証）</p> <p>② 手数料（必要額の収入証紙及び収入印紙を受領証に貼付してください） 10年旅券 16,000円（収入印紙 14,000円、収入証紙 2,000円） 5年旅券 11,000円（収入印紙 9,000円、収入証紙 2,000円）</p>

参考情報！

国際学生証（ISICカード：International Student Identity Card）

国際的に統一された学生身分証明書。日本の学生証に代って世界各国で通用するので、海外留学や海外旅行をするときには国際学生証があると便利。これもできれば取得しておくといいですね。

国際学生証の取得については右のHPを参照 <http://www.isic.jp/shutoku.html>

自分の時間割（スケジュール表）をつくり、 自分自身で責任をもって学び、動くために

1) 出 欠

高等学校とは異なり、欠席しても個別に注意されることはほとんどありません。

これは「休んでもかまわない」という意味ではなく、出席・欠席といったこともすべて自分で判断しなければならないという意味です。大学では自らが主体的に行動することが求められているのですから、欠席による不利益も自らが負うこととなります。たとえ、最終的に単位がとれない結果となっても、それは本人の責任でしかありません。

また、大学では、授業の時間に教室に座っているだけでは単位はとれません。大学の講義では、授業と同じ時間分の予習と復習が求められています。したがって、出席していても、自ら積極的に学びその科目の試験に合格しなければ、単位をとることはできません。

2) 授業のすすめかた

高等学校とは違って、教科書を使わない科目が多くあります。授業中にプリント、資料を配付したり、プロジェクタを用いたり、と教員ごとに授業のすすめかたはさまざまです。また、多くの参考図書を読むことが求められる授業もあります。

黒板での板書のしかたも教員によってさまざまです。たとえば、「重要なことはプリントに書いたのでわざわざ板書しない」といった場合もあるのです。板書をただうつすのではなく、耳や目からはいった情報の重要性を自らが判断し「ノートにとる力」（「メモ力」「ノート力」）が求められます。

3) いろいろなタイプの授業

① 講 義	<ul style="list-style-type: none">• 教え方はさまざまだが、基本的には教員が講義するタイプ。• 個人やグループでの作業や、話し合いなどが行われることもあります。
② 実技、実習、実験	<ul style="list-style-type: none">• 自らのからだを動かし、実践を通して学ぶタイプ。
③ 演 習	<ul style="list-style-type: none">• 自分の専門性を高め、自分自身で「問い」への「答え」を追究していきます。• 演習のメンバーで討論をしたり、調べたり、実験を重ねたりしながら、実践力を徹底的に鍛えます。• 教員は、アドバイザーとして、専門的な立場からあなたの活動をサポートします。

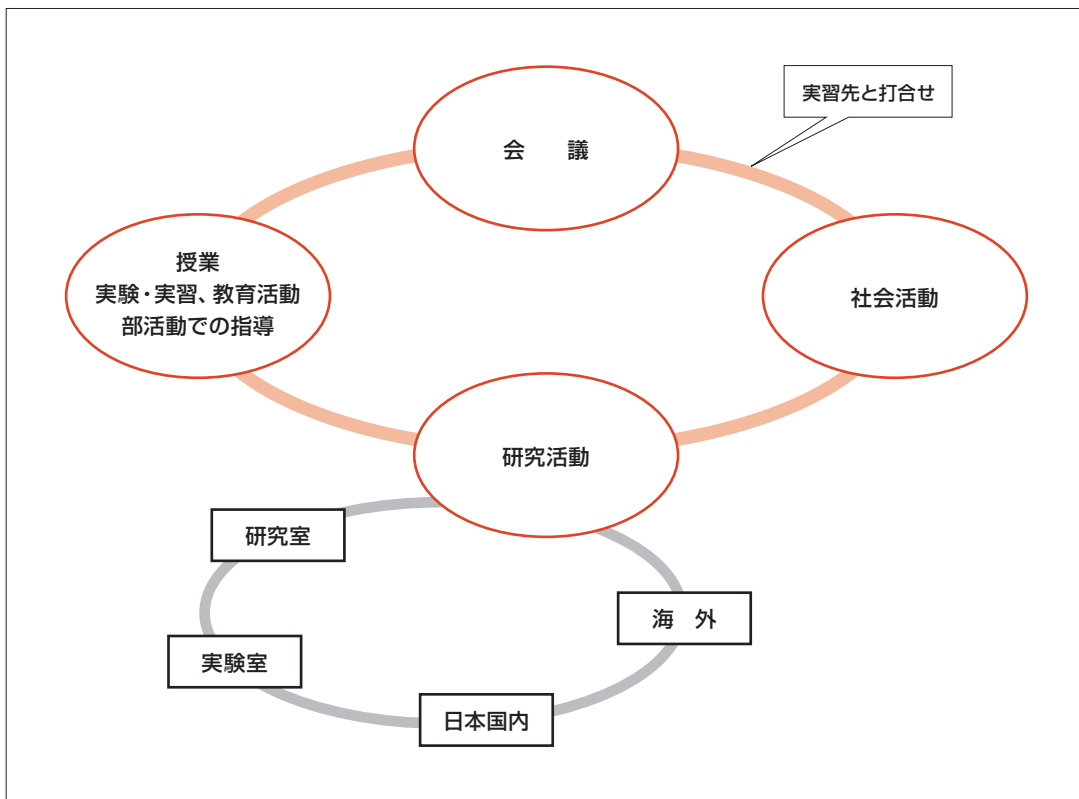
3 教員とコミュニケーションをとる

1) 教員とコミュニケーションをとることの重要性

本学での学びの実践は、大学のなかだけでなく、社会でも積むことができるように構成されています。あなたは、大学と実社会を飛び回りながら学ぶプロセスで、さまざまな課題に直面することになるでしょう。そのなかには、人生についての悩みから、実力をどうつけていくかなど多岐にわたる課題が含まれることでしょう。教員は、授業で教えるだけでなく、総合的にあなたをサポートします。

2) 教員の活動は授業だけではない

■ 教員の活動内容



3) 教員とコミュニケーションをとる初歩的技術

何か聞いてみよう、話をしようと思いついてふらっと研究室を訪ねても、いろいろな活動をしている教員に会えないこともあります。「いつも先生はいない…」ということにならないように、**会う時間をあらかじめ約束する** (=アポイントをとる) よう心がけてください。

■ 教員とのアポイントのとり方

アポイントのとりかた	<ul style="list-style-type: none"> • 授業後に用件を伝え、会う約束をする。 • メールで用件を伝え、教員の都合のいい時間をさく。
メールを使う際の注意	<ul style="list-style-type: none"> • 教員はパソコンでメールを受けているので、返事がかえってくるまでに時間が必要。 • 表題をしっかりと書かないと、メールをみてもらえない可能性がある。 • 自分の名前、学籍番号を必ず書く。誰のメールか分からない場合、教員は返事を書くことができない可能性がある。 • 携帯電話、スマートフォンは、PCからのメールを受信できるように設定しておく。 • 急ぎの用件以外は、大学のアドレスでやりとりをする。大学のアドレスへのメールを携帯電話、スマートフォンや自宅のパソコンに転送するように設定しておくとい。

毎日、必ず掲示板的チェック！

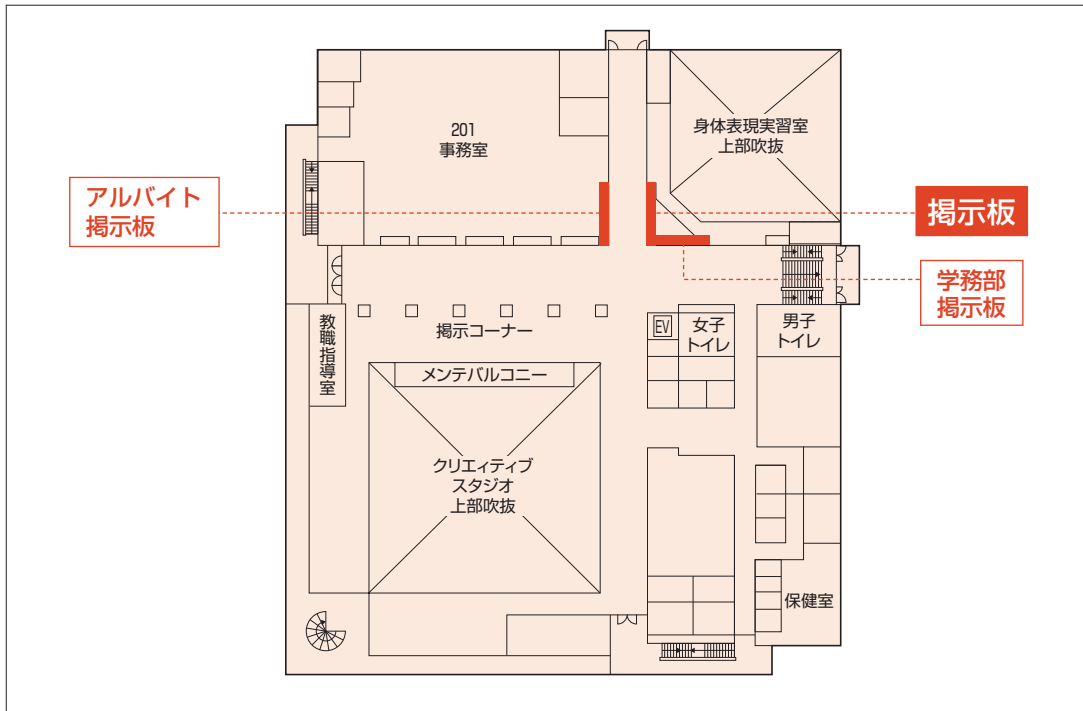
休講、補講、教室変更、試験日程など、授業に関連した連絡や、特定の学生に対する呼び出し・連絡等は、すべて掲示板を通じて行われます。登校したら、まず掲示板を見る習慣をつけましょう。掲示されている内容に疑問があれば、学務部もしくは担当教員に問い合わせてください。

掲示内容の一部は大学のホームページ（桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ））でも見ることができますが、呼び出しや授業連絡、レポート提出等については大学構内の掲示板でしか知ることのできない内容も多いので、必ず毎日掲示板を確認してください。

掲示板 <https://unipa.toin.ac.jp/uprx/>

【掲示板設置場所】

■ I号館2階



※この他、I号館1階（全体向け）にも掲示板があります。

2 スポーツ科学部における 教育の基本と仕組み

- スポーツ科学部と2つの学科の教育に関わる考え方について、基本的な理解しておいてほしいことをまとめています。

1 スポーツ科学部の教育の基本

1 教育の基本理念・目的

スポーツ科学部の理念は、「桐蔭学園の建学の精神に則って、主体的・自発的に学び続ける学生を育成する」ということです。

この理念のもとに、既成のスポーツ学や健康科学の研究成果を基盤としつつ、それらの知見を応用してさらに昇華すべく、新たなスポーツ科学あるいは、スポーツ文化について教育・研究することによって、我が国の「スポーツ」と「健康」の発展に貢献できる有為な人材を養成することを学部目的としています。

「**スポーツ科学**」の学士修得に当たっては、スポーツ教育、スポーツコーチング、スポーツ医学、スポーツマネジメントに関する知識や技能を学ぶことはもとより、これらに関連付けて横断的に学ぶことにより、「スポーツ」、「健康」、「マネジメント」に関する幅広い専門性を身につけることを目指します。

2 学科の特色

スポーツ教育学科

この学科は、スポーツや健康に関する専門的な知識・技能を身に付け、かつ今日的な教育課題の解決に応えることのできる小学校、中学校、高等学校の教員や、我が国が迎える生涯スポーツ社会において活躍することのできるスポーツ指導者を養成することを目的としています。3年次には初等教育コース（7ゼミ）あるいは中高体育専科コース（6ゼミ）に所属します。

現在の学校教育は、Society 5.0 にみられる知識基盤社会の到来、グローバル化、少子・高齢化、情報化などの社会構造の急激な変化に対応することが求められています。加えて、社会性やコミュニ

ケーション能力の不足、基本的な生活習慣の乱れ、体力低下、不登校、いじめ、小1プロブレム、中1ギャップなどの児童生徒を巡る課題、適正なICT教育の推進、教員の指導力や家庭・地域との連携など多様な課題を抱えています。これら多くの課題の解決に向けて、魅力ある実践的指導力を有する教員を養成することが求められています。

魅力ある実践的指導力を有する教員とは、「教育の専門家としての確かな力量」、「教師の仕事に対する強い情熱」、「総合的な人間力」などの資質能力を身に付けた教員といえますが、この学科では、教員に求められるこれらの資質能力を身に付けることのできる履修科目と、それを専門的に教育指導できる経験豊かな教授等を揃えています。

また、この学科は、**スポーツ系学部でありながら小学校1種免許を取得できる**という全国的にもユニークな存在でもあります。前述の今日の教育課題のかなりの部分は、義務教育の初期の段階から対応することで解決が図られるものと思われます。学科の理念を踏まえるとともに、スポーツや健康に関する専門的な知識・技能を生かして、教育現場が抱える課題の解決に先導的な役割を果たしてほしいと願っています。

2018年度から教職センターを強化し、「実践的指導力」を有する教員養成を充実させています。基礎となる教職教養、専門教育を確実に身につけた上で、演習や実習を通して資質の向上が図られるよう多様で体系的にカリキュラムを見直し、2023年度から新たなカリキュラムがスタートしました。

一方、スポーツは世界共通の人類の文化といわれるように、人々の生活を豊かにする素晴らしい文化です。昨今、国や地方自治体を問わずスポーツ政策が積極的に推進されていますので、当然のことながらスポーツについて深く学修し、専門的な知見に基づいた指導のできるスポーツ専門家が求められています。この学科ではそのような人材の育成にも力を注いでいます。

また、国のスポーツ政策は、すべての住民にスポーツサービスを提供できる総合型地域スポーツクラブを全国の市区町村に展開していくことを強力に推進しており、成人の3人に2人がスポーツを継続的かつ主体的に実践するという具体的な目標も掲げています。**この学科の重要な使命の1つとして、いつでも、どこでも、誰でも楽しくスポーツに親しめる地域社会の推進を通して、共生社会の実現に貢献できる人材を養成していくことがあげられますが、「する・みる・支える」といった多様なスポーツの推進を目指す国や地方自治体のスポーツ政策の実現にも貢献できるものです。**

この学科で、教員やスポーツ指導者に求められる専門性、指導力、人間性などを高めるための研鑽を積んでください。

スポーツ健康科学科

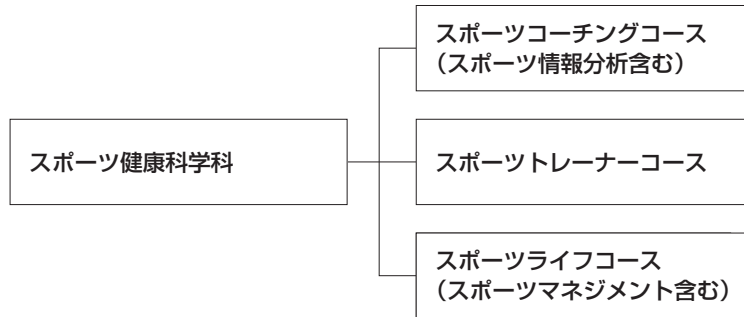
この学科は、**スポーツを科学的にとらえ、理論と実践の両面からスポーツ活動を支援できる人材の養成をめざしており、トレーニングに関する専門的な知識・技能に加え、技術、戦術、心理、チームワークなどについて学び、さらにスポーツ科学、情報学、医学などの知識や技術と結びつけ、スポーツデータの解析や分析方法なども学びます。**

スポーツ技術の習得・指導を合理的かつ効果的なものにするためには、その身体動作や戦術について観察・分析する力が必要になります。また、ベストパフォーマンスを引き出すためにはより良いトレーニングにより得られる身体機能が重要であり、スポーツ障害・外傷の予防も重要となる。これらの視点は、今後学校体育をはじめとする教育現場はもちろん、プロ・アマに関わらずあらゆるスポーツ指導の現場においても求められることになるでしょう。

学科で用意されているカリキュラムは、あくまで「料理の材料」。それらを組み合わせたり、より広く深く追求したりし、どのようにして自分の将来に役立てるかはその腕次第です（漠然と「こなす」だけの4年間にならないよう願っています）。「スポーツが好き」「からだを動かすことが得意」というステージから一歩進めて、この学科のカリキュラムを通して「多様なニーズに応え、健康づくりの支援ができる」、「科学的な根拠に基づいた運動プログラムを立て、コーチングができる」、「目的に合った測定機器を選択し、効率的に扱える」、「取得した映像やデータを記録・解析できる」という、

新たな武器を手にして、これまでスポーツ場面において様々な情報や科学技術の恩恵を受け、スポーツを楽しんできた側から、4年後にはぜひそれらを提供する側として社会貢献できる人になってほしいと願っています。

この学科では、**自分が選んで学ぶことのできる講義や実技、つまり選択科目を多く用意しています。**その選択に際して一つの目安となるように、また、カリキュラムの特徴から以下の2つのコースに分け、更にその下に3つの専攻を設定しました。合わせて具体的専攻の必修科目及び推奨科目を設けています。**いずれのコースも卒業に必要な単位に加えて、教職関連の単位を取得すれば、中学校および高等学校の保健体育1種免許状を取得できます。**



(1) スポーツコーチングコース (スポーツ情報分析含む)

スポーツの意義や価値を正しく理解し、発達段階や技能レベルに応じて適切なコーチングを行うことができるコーチ・指導者育成を行います。各種競技の指導法やコーチング論、スポーツ医・科学などを学び「スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ」で実践力を磨きます。これにより、コーチングに関わる「理念・哲学」「基礎的能力（人間力）」「専門的能力（指導力）」をバランスよく備えることを目指します。

また、これからのスポーツ指導やコーチングには、ICT（Information and Communication Technology）の活用が必須です。プロスポーツで使用しているスポーツパフォーマンス分析、戦術分析等のソフトを利用し、競技から得られる情報を分析して競技力向上や戦術に活かすことのできるスポーツ指導者・教員の養成を行います。

(2) スポーツトレーナーコース

トップアスリートからレクリエーション、そして健康維持・増進のためのスポーツなど、あらゆるレベルの競技者をサポートできる、実践的スポーツトレーナーの育成を目指します。具体的には、スポーツ医・科学などの基礎を学び、トレーニング、テーピング、コンディショニングなどの実技科目を習得し、実践の場としての「現場実習」で総合的な判断能力や人間力を養います。

また、各種トレーナーに関連する資格（JATI、NSCA-CSCS、JPSU-STなど）取得のため、科学的根拠にもとづく適切な運動プログラム、トレーニング、リハビリテーションなどの基礎的知識の獲得を行います。

(3) スポーツライフコース (スポーツマネジメント含む)

スポーツや健康を軸に現代社会との関わりを学び、生涯スポーツを通じて、疾病予防や心身の健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる人材を育成します。具体的にはスポーツ心理学、生涯スポーツ論、健康教育学、障害者スポーツ論等を学び、関連資格である「健康運動実践指導者」「障がい者スポーツ指導者（初級）」等の資格取得を目指します。

また、スポーツマネジメントやスポーツビジネス関連の学習を展開し、スポーツチームやスポーツ関連団体等で「スポーツインターンシップ実習」を行い実践力を養います。

国際関係や社会福祉など視野を広げる分野を学び、留学や青年海外協力隊への参加も可能です。

※コース選択は、2学年進級時に行います。

2 学修に関する基本事項

1 修学年限と在学年限

本学の修学年限は4年が基本です。

また、本学には6年を超えて在学することはできません。しっかりと履修計画を立てて授業に臨んでください。なお、編入学、転入学、再入学した場合の在学年限については、別に定めます。

2 学年、学期

学年は毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終了します。また、3学期制を採用しており、第1学期（4月上旬～7月下旬）と第2学期（9月上旬～12月下旬）は13週間授業、第3学期はインテンシブ・アクティブラーニング・ターム（IALターム）と呼び、1月～2月に特定の科目を集中して学ぶ期間となります。

前期	第1学期：4月～7月（夏期集中8月）
後期	第2学期：9月～12月
	第3学期（IALターム）：1月～2月

3 授業時間割

授業は、学期ごとに週単位で決められた授業時間割によって行われます。授業時間割には、曜日と時限によって、授業科目名、担当教員名および授業の場所が一覧表になって記載してあります。

授業時間割の授業時間の基準は、次のとおりです。

時限	1	2	3	4	5
月～土の時間	8：50 } 10：35	10：45 } 12：30	13：00 } 14：45	14：55 } 16：40	16：50 } 18：35

4 クラスおよびクラス担任について

クラス及び担任は、スポーツ科学部入学後、掲示により発表されます。

履修方法や試験など学習に関することはもちろん、課外活動、その他日常生活上のことなど、分からないことや相談したいことがあれば、担任の先生に相談してみてください。

5 学位

この学部を卒業した人は、「学士（スポーツ科学）」の学位が授与されます。

2023年度

履修要項

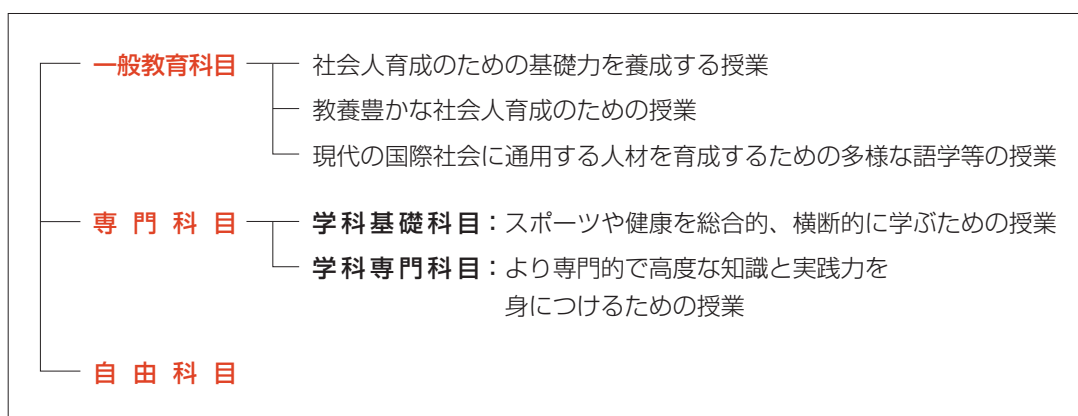
1 履修の手引き

- 授業科目、単位数、開講年次などを体系的に編成したものを「カリキュラム」（教育課程）と呼びます。
- スポーツ科学部のカリキュラムをもとに、自分自身の4年間の学生生活をデザインすることが、履修計画です。
- 大まかに4年間のイメージを描きながら、1年ごとの自分の時間割をつくりましょう。（履修計画の作成）

1 カリキュラムを理解するために 履修前の基本です！

1 カリキュラムの基本構成

本学部のカリキュラムは、スポーツや健康に関する専門的な学問領域にとどまらず、社会人として各界で活躍する際に必要な幅広い知識や教養を身につけることのできるように編成されています。大きくは、**一般教育科目**、**専門科目**、**自由科目**という枠組みに分けられており、専門科目は学科基礎科目と学科専門科目で編成されています。



授業科目には「必修科目」「選択科目」「選択必修科目」の3種類があります。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択科目	指定された科目群の中から、自由に選択して修得する科目
選択必修科目	選択科目のうち、一定の科目群の中から所定の方法で選択し、必ず修得しなければならない科目

2 単位制度

単位制度とは、4－6年の在学期間中に、必要な単位数を修得することによって、最終的に卒業が認められる制度です。

高等学校のように、勉強する科目が指定されていて、多くの人が同じ科目を勉強して卒業するのではなく、必修の科目以外は、所定の単位数に必要な分の授業科目を自分で選び、履修登録を行います。「一般教育科目」「学科基礎科目」「学科専門科目」など、それぞれの科目区分ごとに必要な単位数が定められています。計算をしながら自分の学びたい科目を選択してください。そして、その科目を履修し、試験等の成績評価によって「合格」すれば、単位修得となります。

この修得した単位数が、卒業に必要な単位数を満たすと卒業が認められることとなります。

3 単位算定の基準

授業の形態に応じて、1単位は、次表のように定められています。いずれも、予習・復習等を含めて45時間の学修をもって1単位とされています。

授業形態	1単位の授業時間数
講義、演習、外国語	15時間
実習、実技	30時間

各授業科目に与えられている単位数は基本的に以下の基準で算定します。

講義科目	$1 \text{ コマ (105分)} \times 1 \text{ 回/週} \times 1 \text{ 学期 (半年)} = 2 \text{ 単位}$
実習、実技科目	$1 \text{ コマ (105分)} \times 1 \text{ 回/週} \times 1 \text{ 学期 (半年)} = 1 \text{ 単位}$
演習	$1 \text{ コマ (105分)} \times 1 \text{ 回/週} \times 2 \text{ 学期 (通年)} = 2 \text{ 単位}$

本学部の授業には、通年の演習科目や、講義と実技の組み合わせ科目等の例外もありますので、これらの単位についてはカリキュラム表を参照してください。

4 学年制度

4月1日から3月31日までが1学年度です。1年次から4年次まで1学年度ごとに進級していきます。ただし、2年次修了までに50単位を修得できなかった場合は、3年次への進級が停止されます(30ページの「2 留年しないために」参照)。

2年次留年した場合は、合計修得単位数が50に達した翌期より3年次に進級する。

5 卒業に必要な単位数

卒業するためには、次表の区分に基づいて、126単位以上を修得することが必要です。

学 科	科目区分	単 位 数		
		必 修	選 択	計
スポーツ教育学科	一般教育科目	10単位	2単位	12単位以上
	学科基礎科目	18単位	28単位以上	46単位以上
	学科専門科目	16単位	28単位以上	44単位以上
	計	44単位	58単位以上	126単位以上
スポーツ健康科学科	一般教育科目	10単位	2単位	12単位以上
	学科基礎科目	18単位	28単位以上	46単位以上
	学科専門科目	14単位	30単位以上	44単位以上
	計	42単位	60単位以上	126単位以上

6 履修上の留意点

- あなたが所属する学科以外で開講されている科目を履修した場合、授業に出席し試験に合格すれば、単位を修得することができます。しかし、卒業に必要な単位 (=卒業要件単位) には算入されません。
- スポーツ健康科学科の学生は、2年次から3つの専攻に分かれます。そして、各学生は選択した専攻で推奨される科目を含めて授業科目を履修します。詳細は2年生のオリエンテーションで説明があります。

卒業に必要な単位の修得数を計算する際には、以上の点によく留意してください。

1 スポーツ教育学科教育課程表（一般教育科目）

大学共通科目（MAST）

●…必修 ○…選択

△…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）

☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

MAST A

	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考	
								小学校	中・高体育		
一般教育科目	MAST A	桐蔭キャリアゲート	必 2	講義	●						
		桐蔭スキルゲート	必 2	講義	●			●	●		
		データコミュニケーション入門	必 2	講義	●				○	○	
		英語コミュニケーションⅠ	必 2	講義	●				●	●	
		英語コミュニケーションⅡ	必 2	講義	●						
		英語コミュニケーションⅢ	2	講義		○					
		英語コミュニケーションⅣ	2	講義		○					

MAST B/C

	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考		
								小学校	中・高体育			
一般教育科目	地域創成コンポ	MAST B	地域の科学	2	講義	○					注1	
			サステナブル社会学	2	講義	○						
			地域における健康課題	2	講義	○						
			コミュニティ・ファシリテーション	2	講義	○						
	MAST C	地域政治論	2	講義		○						
		地域観光事業論	2	講義		○						
		横浜地域学	2	講義		○						
		実践地域創成学	2	講義		○						
	ビジネス・インテグレーションコンポ	MAST B	ビジネスの科学	2	講義	○						注1
			マーケティング各論	2	講義	○						
			アントレプレナーシップ	2	講義	○						
			デジタル産業論	2	講義	○						
	MAST C	マーケティング・リサーチ	2	講義		○						
		ウェブ・コミュニケーション	2	講義		○						
		現代ビジネス論	2	講義		○						
		ビジネスアイデアデザイン	2	講義		○						
	異文化スタディコンポ	MAST B	異文化の科学	2	講義	○						注1
			言語文化論	2	講義	○						
			表現とコミュニケーション	2	講義	○						
			視覚文化論	2	講義	○						
	MAST C	異文化リサーチ	2	講義		○						
		ファッション文化論	2	講義		○						
		フード文化論	2	講義		○						
		若者文化論	2	講義		○						
	現代心理コンポ	MAST B	心の科学	2	講義	○						注1
			健康と心理学	2	講義	○						
			こころの世界	2	講義	○						
			青年と心理学	2	講義	○						
MAST C	集団と心理学	2	講義		○							
	幸せと心理学	2	講義		○							
	意思決定と心理学	2	講義		○							
	自己調整と心理学	2	講義		○							
地球環境コンポ	MAST B	地球環境の科学	2	講義	○						注1	
		科学技術の未来	2	講義	○							
		地球と環境	2	講義	○							
		持続可能な開発と法	2	講義	○							
プロジェクト科目	プロジェクト	プロジェクト入門	2	演習	○						注2	
		分野横断型プロジェクト	3	演習		○						

注1：一般教育科目の選択必修単位として、「地域の科学」、「ビジネスの科学」、「異文化の科学」、「心の科学」、「地球環境の科学」の5科目のうちから1科目を必ず履修しなければいけません。

注2：プロジェクト入門は5つのコンポとキャリアプログラムがテーマを設定し、それぞれに授業が開講されます（年度によって開講される授業は異なります）。詳細は、開講科目表または授業時間割を確認してください。

- …必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

キャリアプログラム

	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考	
								小学校	中・高体育		
一般教育科目	ジヨブ・キャリアプログラム	ことばのスキル	2	講義	○						
		ソーシャルコミュニケーション	2	講義	○						
		キャリアトランジション	2	講義		○					
		キャリアセミナーⅠ	2	講義		○					
		キャリアセミナーⅡ	2	講義		○					
		キャリアセミナーⅢ	2	講義			○				
		インターンシップ	2	実験・実習		○					
	アスリート・キャリアプログラム	アスリートの科学	2	講義	○						
		大学スポーツ論	2	講義	○						
		アスリートキャリア	2	講義	○						
		アスリート・クロス	2	講義		○					
		リーダーシップ教育	2	講義		○					
		ライフスキル	2	講義		○					

健康とスポーツ

	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考
								小学校	中・高体育	
一般教育科目	体育実技Ⅰ	1	実験・実習	○						
	体育実技Ⅱ	1	実験・実習	○						

オフキャンパスプログラム

	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考
								小学校	中・高体育	
一般教育科目	ボランティア論	2	講義	○						
	ボランティア実習	2	実験・実習	○						注3
	海外実習	2	実験・実習		○					注4

MAST特別講義

	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考
								小学校	中・高体育	
一般教育科目	MAST特別実習	1	実験・実習	○						注5
	MAST特別講義	2	講義	○						注5

注3：「ボランティア実習」の履修を希望する場合には、「ボランティア論」の単位を修得していなければなりません。（単位修得見込み者も含む）。「ボランティア実習」は実習先が異なる場合には、複数回の履修が可能ですが、修得可能な単位数の上限は6です。詳しくは、「ボランティア論」の担当教員に確認をしてください。

注4：個人で参加する留学について、単位認定を申請できる場合があります。詳しくは、p.46の「4. 留学制度について」の「3 個人による留学について」を参照してください。

注5：年度によって開講される科目が異なります。詳細は、各年度の授業時間割を確認してください。

2 スポーツ教育学科教育課程表（専門科目）①

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年 (予定)	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考		
								小学校	中・高体育			
専 門 基 礎 科 目	必修	身体の仕組みと働き	2	講義	●				●			
		障害者スポーツ論	2	講義		●			○	○		
		学部キャリアセミナー	2	講義			●					
	選択必修	スポーツ史	2	講義	○					●		
		スポーツ社会学	2	講義	○					●		
		スポーツ情報処理論	2	講義	○							
		衛生学・公衆衛生学	2	講義	○					●		
		スポーツ心理学	2	講義		○				●		
		スポーツバイオメカニクス	2	講義		○				●	※1	
		バレーボール	1	演習	○						△	
		バスケットボール	1	演習	○						□	
		サッカー	1	演習		○					□	
		ラグビー	1	演習		○					□	
		ソフトボール・野球	1	演習		○					△	
		ハンドボール	1	演習		○					□	
		テニス	1	演習		○					△	
		バドミントン	1	演習		○					△	
		陸上競技	1	演習	○					●	●	
		水泳	1	演習	○						●	
		ダンス	1	演習	○						●	
		柔道	1	演習	○						○	※2
		剣道	1	演習	○						○	※2
		器械運動	1	演習	○						●	
		ボディワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	演習	○					●	●	
		エアロビクス (演習を含む)	1	演習			○					
		ゼミナール	専門演習Ⅰ	2	演習			●				
			専門演習Ⅱ	2	演習			●				
			専門演習Ⅲ	2	演習				●			
			専門演習Ⅳ	2	演習				●			
			卒業研究	4	演習				●			
	国際	国際コミュニケーション実習Ⅰ	4	実験・実習	○							
		国際コミュニケーション実習Ⅱ	4	実験・実習	○							
		国際コミュニケーション実習Ⅲ	4	実験・実習	○							
	教養	法学	2	講義	○				●	●		
		教育学	2	講義	○							
		数学概論Ⅰ	2	講義	○							
		数学概論Ⅱ	2	講義	○							
		統計入門	2	講義	○							
	スポーツ科学の基礎	スポーツ文化論	2	講義	○							
		生涯スポーツ論	2	講義	○				○	○		
		スポーツイベント施設論	2	講義	○							
		発育発達老化論	2	講義	○							
シーズンスポーツ論Ⅰ (演習を含む)		2	演習	○								
シーズンスポーツ論Ⅱ (演習を含む)		2	演習	○								
スポーツ人類学		2	講義	○								
スポーツプロジェクト研究Ⅰ		2	講義	○								
スポーツプロジェクト研究Ⅱ		2	講義	○								
スポーツ哲学		2	講義		○					●		
インクルーシブスポーツ論		2	講義		○							
ヘルスプロモーション論		2	講義		○							
運動部活動論		2	講義		○					○		
スポーツ医学Ⅰ		2	講義		○							

※1：スポーツバイオメカニクスまたは機能解剖学Ⅰより1科目選択
 ※2：柔道または剣道より1科目選択

2 スポーツ教育学科教育課程表（専門科目）②

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年 (予定)	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考
								小学校	中・高体育	
専 門 科 目	学 科 必 修 科 目	学科基礎セミナーⅠ	2	講義	●					
		学科基礎セミナーⅡ	2	講義	●					
		小学体育Ⅰ	1	講義	●				●	
		小学体育Ⅱ	1	講義	●				●	
		教師論（初等を含む）	2	講義	●				●	●
		教育心理学（初等を含む）	2	講義	●				●	●
		自然活動論Ⅰ（演習を含む）	2	演習	●					
		教育方法論（初等を含む）	2	講義		●			●	●
		スポーツ教育学	2	講義		●			○	○
	教 育 ・ 現 場 の 理 解	教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	講義		○			●	●
		教育社会論（初等および学校安全を含む）	2	講義		○			●	●
		学校体験実習（小学校）	1	実験・実習		○			○	
		学校体験実習（中・高）	1	実験・実習		○				○
		学校インターンシップ実習	1	実験・実習				○	○	○
		ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	2	講義			○		●	●
	教 科 総 論 ・ 概 論	学校保健・学校安全	2	講義			○			●
		人文科学系教科総論	2	講義		○			●	
		社会科学系教科総論	2	講義		○			●	
		自然科学系教科総論	2	講義		○			●	
		国語概論（書写を含む）	1	講義			○		●	
		算数概論	1	講義			○		●	
		理科概論	1	講義			○		●	
		社会科概論	1	講義			○		●	
		外国語概論	1	講義			○		●	
		家庭概論	1	講義			○		●	
		生活概論	1	講義			○		●	
		図画工作概論	1	講義			○		●	
		音楽概論	2	講義		○			●	
		小学体育Ⅲ	2	講義		○			●	
		教 科 指 導 法	教科指導法（国語）	1	講義			○		●
	教科指導法（算数）		1	講義			○		●	
	教科指導法（理科）		1	講義			○		●	
	教科指導法（社会）		1	講義			○		●	
	教科指導法（外国語）		2	講義			○		●	
	教科指導法（家庭）		1	講義			○		●	
	教科指導法（生活）		1	講義			○		●	
	教科指導法（図画工作）		1	講義			○		●	
	教科指導法（音楽）		2	講義			○		●	
	教科指導法（体育）		2	講義			○		●	
	児 童 生 徒 の 指 導	特別支援教育指導論（初等を含む）	2	講義		○			●	●
		教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	2	講義		○			●	●
		児童生徒指導論	2	講義		○			●	●
道徳教育指導論（初等を含む）		2	講義		○			●	●	
特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む）		2	講義			○		●	●	
体づくり運動指導法		2	講義			○			○	
小・中のみ										
保 健 ・ 体 育 の 指 導	体育科教育法	2	講義		○			●		
	保健科教育法	2	講義		○			●		
	器械運動指導法・コーチング論	2	講義			○			○	
	陸上競技指導法・コーチング論	2	講義			○			☆	
	水泳指導法・コーチング論	2	講義			○			○	
	ゴール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○			○	
	ネット型球技指導法・コーチング論	2	講義			○			☆	
	ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○			☆	
	武道指導法・コーチング論	2	講義			○			☆	
	ダンス指導法・コーチング論	2	講義			○			☆	
	保健体育授業演習Ⅰ	2	演習		○				○	
	保健体育授業演習Ⅱ	2	演習			○			○	
保健体育授業演習Ⅲ	2	演習			○			○		

2 スポーツ教育学科教育課程表（専門科目）③

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年 (予定)	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許		備考		
								小学校	中・高体育			
専門科目	学科専門科目 関連知識の理解	テーピング論（演習を含む）	2	演習	○							
		幼児スポーツ論（演習を含む）	2	演習		○						
		自然活動論Ⅱ（演習を含む）	2	演習		○						
		スポーツ政策論	2	講義	○							
		スポーツマーケティング論	2	講義	○						●	
		スポーツマネジメント論	2	講義	○				○	○		
		機能解剖学Ⅰ	2	講義	○					○		※1
		レクリエーション論	2	講義		○						
		文章表現論	2	講義			○					
		身近な数学	2	講義			○					
		「スポーツ人物史」の研究	2	講義			○					
		評価測定学（演習を含む）	2	演習			○					
		コーチング学	2	講義			○				○	
高齢者活動支援論（演習を含む）	2	演習			○							
教職科目	教育の実践	教育実習（初等）	4	実験・実習			○	●				
		教育実習（中学校）	4	実験・実習			○		●		※3	
		教育実習（高校）	2	実験・実習			○				※4	
		事前・事後指導（初等）	1	講義			○	●				
		事前・事後指導（中・高）	1	講義			○		●			
		教職実践演習（初等を含む）	2	演習			○	●	●			

※1：スポーツバイオメカニクスまたは機能解剖学Ⅰより1科目選択

※3：中・高両方取得の場合

※4：高校免許のみ取得の場合

注) 各年度によって、科目の前後期配当が変わる場合があります。その際は、学年が開始される前に別途お知らせします。

3 スポーツ健康科学科教育課程表（一般教育科目）

大学共通科目（MAST）

●…必修 ○…選択

△…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）

MAST A

☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考	
一般教育科目	MAST A	桐蔭キャリアゲート	必 2	講義	●						
		桐蔭スキルゲート	必 2	講義	●				●		
		データコミュニケーション入門	必 2	講義	●					○	
		英語コミュニケーションⅠ	必 2	講義	●					●	
		英語コミュニケーションⅡ	必 2	講義	●						
		英語コミュニケーションⅢ	2	講義			○				
		英語コミュニケーションⅣ	2	講義			○				

MAST B/C

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考		
一般教育科目	地域創成コンポ	MAST B	地域の科学	2	講義	○					注1	
		サスティナブル社会学	2	講義	○							
		地域における健康課題	2	講義	○							
		コミュニティ・ファシリテーション	2	講義	○							
	MAST C	地域政治論	2	講義		○						
		地域観光事業論	2	講義		○						
		横浜地域学	2	講義		○						
		実践地域創成学	2	講義		○						
	ビジネス・イノベーションコンポ	MAST B	ビジネスの科学	2	講義	○						注1
		マーケティング各論	2	講義	○							
		アントレプレナーシップ	2	講義	○							
		デジタル産業論	2	講義	○							
		MAST C	マーケティング・リサーチ	2	講義		○					
		ウェブ・コミュニケーション	2	講義		○						
	異文化スタディコンポ	MAST B	現代ビジネス論	2	講義		○					
		ビジネスアイデアデザイン	2	講義		○						
		異文化の科学	2	講義	○							注1
		言語文化論	2	講義	○							
		表現とコミュニケーション	2	講義	○							
		視覚文化論	2	講義	○							
		MAST C	異文化リサーチ	2	講義		○					
		ファッション文化論	2	講義		○						
	現代心理コンポ	MAST B	フード文化論	2	講義		○					
		若者文化論	2	講義		○						
		心の科学	2	講義	○							注1
		健康と心理学	2	講義	○							
		こころの世界	2	講義	○							
		青年と心理学	2	講義	○							
MAST C		集団と心理学	2	講義		○						
幸せと心理学		2	講義		○							
地球環境コンポ	MAST B	意思決定と心理学	2	講義		○						
	自己調整と心理学	2	講義		○							
	地球環境の科学	2	講義	○							注1	
	科学技術の未来	2	講義	○								
プロジェクト科目	MAST B	地球と環境	2	講義	○							
	持続可能な開発と法	2	講義	○								
	プロジェクト入門	2	演習	○							注2	
	分野横断型プロジェクト	3	演習		○							

注1：一般教育科目の選択必修単位として、「地域の科学」、「ビジネスの科学」、「異文化の科学」、「心の科学」、「地球環境の科学」の5科目のうちから1科目を必ず履修しなければいけません。

注2：プロジェクト入門は5つのコンポとキャリアプログラムがテーマを設定し、それぞれに授業が開講されます（年度によって開講される授業は異なります）。詳細は、授業時間割を確認してください。

●…必修 ○…選択

△…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）

☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

キャリアプログラム

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
一般教育科目	ジョブ・キャリアプログラム	ことばのスキル	2	講義	○					
		ソーシャルコミュニケーション	2	講義	○					
		キャリアトランジション	2	講義		○				
		キャリアセミナーⅠ	2	講義		○				
		キャリアセミナーⅡ	2	講義		○				
		キャリアセミナーⅢ	2	講義			○			
	インターンシップ	2	実験・実習		○					
	アスリート・キャリアプログラム	アスリートの科学	2	講義	○					
		大学スポーツ論	2	講義	○					
		アスリートキャリア	2	講義	○					
		アスリート・クロス	2	講義		○				
		リーダーシップ教育	2	講義		○				
ライフスキル		2	講義		○					

健康とスポーツ

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
一般教育科目	体育実技Ⅰ	1	実験・実習	○						
	体育実技Ⅱ	1	実験・実習	○						

オフキャンパスプログラム

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
一般教育科目	ボランティア論	2	講義	○						
	ボランティア実習	2	実験・実習	○						注3
	海外実習	2	実験・実習		○					注4

MAST特別講義

		授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
一般教育科目	MAST特別実習	1	実験・実習	○						注5
	MAST特別講義	2	講義	○						注5

注3：「ボランティア実習」の履修を希望する場合には、「ボランティア論」の単位を修得していなければいけません（単位修得見込み者も含む）。「ボランティア実習」は実習先が異なる場合には、複数回の履修が可能です。修得可能な単位数の上限は6です。詳しくは、「ボランティア論」の担当教員に確認をしてください。

注4：個人で参加する留学について、単位認定を申請できる場合があります。詳しくは、p.46の「4. 留学制度について」の「3 個人による留学について」を参照してください。

注5：年度によって開講される科目が異なります。詳細は、各年度の授業時間割を確認してください。

4 スポーツ健康科学科教育課程表（専門科目）①

- …必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年 (予定)	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考	
専 門 科 目	必修	身体の仕組みと働き	2	講義	●			●		
		障害者スポーツ論	2	講義		●		○		
		学部キャリアセミナー	2	講義			●			
	選択必修	スポーツ史	2	講義	○				●	
		スポーツ社会学	2	講義	○				●	
		スポーツ情報処理論	2	講義	○				●	
		衛生学・公衆衛生学	2	講義	○				●	
		スポーツ心理学	2	講義		○			●	
		スポーツバイオメカニクス	2	講義		○			●	※1
		バレーボール	1	演習	○				△	
		バスケットボール	1	演習	○				□	
		サッカー	1	演習		○			□	
		ラグビー	1	演習		○			□	
		ソフトボール・野球	1	演習		○			△	
		ハンドボール	1	演習		○			□	
		テニス	1	演習		○			△	
		バドミントン	1	演習		○			△	
		陸上競技	1	演習	○				●	
		水泳	1	演習	○				●	
		ダンス	1	演習	○				●	
		柔道	1	演習	○				○	※2
		剣道	1	演習	○				○	※2
		器械運動	1	演習	○				●	
	ポティワーク2(体操・体づくり運動、集団行動)	1	演習	○				●		
	エアロビクス(演習を含む)	1	演習			○				
	ゼミナール	専門演習Ⅰ	2	演習			●			
		専門演習Ⅱ	2	演習			●			
		専門演習Ⅲ	2	演習				●		
		専門演習Ⅳ	2	演習				●		
	卒業研究	4	演習				●			
	国際	国際コミュニケーション実習Ⅰ	4	実験・実習	○					
		国際コミュニケーション実習Ⅱ	4	実験・実習	○					
		国際コミュニケーション実習Ⅲ	4	実験・実習	○					
	教養	法学	2	講義	○				●	
		教育学	2	講義	○					
		数学概論Ⅰ	2	講義	○					
		数学概論Ⅱ	2	講義	○					
		統計入門	2	講義	○					
		スポーツ文化論	2	講義	○					
	スポーツ科学の基礎	生涯スポーツ論	2	講義	○				○	
		スポーツイベント施設論	2	講義	○					
		発育発達老化論	2	講義	○					
シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む)		2	演習	○						
シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む)		2	演習	○						
スポーツ人類学		2	講義	○						
スポーツプロジェクト研究Ⅰ		2	講義	○						
スポーツプロジェクト研究Ⅱ		2	講義	○						
スポーツ哲学		2	講義		○			●		
インクルーシブスポーツ論		2	講義		○					
ヘルスプロモーション論		2	講義		○					
運動部活動論		2	講義		○			○		
スポーツ医学Ⅰ		2	講義		○					
学 科 専 門 科 目	学科必修科目	学科基礎セミナーⅠ	2	講義	●					
		学科基礎セミナーⅡ	2	講義	●					
		機能解剖学Ⅰ	2	講義	●				○	※1
		救急処置論(演習を含む)	2	演習	●					
		運動処方論	2	講義	●					
		トレーニング論(演習を含む)	2	演習	●					
		スポーツ栄養学Ⅰ	2	講義		●				

※1：スポーツバイオメカニクスまたは機能解剖学Ⅰより1科目選択
 ※2：柔道または剣道より1科目選択

4 スポーツ健康科学科教育課程表（専門科目）②

●…必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年 (予定)	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
専 門 科 目	ス ポ ー ツ 情 報 分 析	測定機器の操作	2	講義		○			
		スポーツ映像分析論	2	講義			○		
		スポーツデータ解析	2	講義	○				
		スポーツ情報戦略論	2	講義		○			
		動作分析論	2	講義			○		
		検査・測定と評価	2	講義			○		
		評価測定学（演習を含む）	2	演習			○		
		スポーツ指導者論	2	講義	○				
		スポーツ技術・戦術論	2	講義		○			
		健康教育学	2	講義		○			
	ス ポ ー ツ コ ー チ ン グ	スポーツ教育学	2	講義		○			○
		コーチング学	2	講義			○		○
		メンタルトレーニング論	2	講義			○		
		チャンピオンシップスポーツコーチング論	2	講義			○		
		ジュニアスポーツコーチング論	2	講義			○		
		陸上競技指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		水泳指導法・コーチング論	2	講義			○		○
		武道指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		ダンス指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		器械運動指導法・コーチング論	2	講義			○		○
		ゴール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○		○
		ネット型球技指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	講義			○		☆
		スポーツコーチング実習Ⅰ	1	実験・実習			○		
		スポーツコーチング実習Ⅱ	1	実験・実習			○		
	ス ポ ー ツ ト レ ー ナ ー	アスレティックトレーナーの役割	2	講義	○				
		健康医学入門	2	講義	○				
		テーピング論（演習を含む）	2	演習	○				
		運動生理学	2	講義		○			
		機能解剖学Ⅱ	2	講義		○			
		リハビリテーション論	2	講義		○			
		スポーツ栄養学Ⅱ（演習を含む）	2	演習		○			
		トレーニング学（演習を含む）	2	演習			○		
		健康管理とスポーツ医学	2	講義			○		
		スポーツ医学Ⅱ	2	講義			○		
		体づくり運動指導法	2	講義			○		
		ストレッチング論（演習を含む）	2	演習	○				
		予防とコンディショニングⅠ（演習を含む）	2	演習	○				
		予防とコンディショニングⅡ（演習を含む）	2	演習		○			
		予防とコンディショニングⅢ（演習を含む）	2	演習			○		
	ス ポ ー ツ ラ イ フ	アスレティックリハビリテーションⅠ（演習を含む）	2	演習		○			
		アスレティックリハビリテーションⅡ（演習を含む）	2	演習			○		
		アスレティックリハビリテーションⅢ（演習を含む）	2	演習				○	
		スポーツ政策論	2	講義	○				
		スポーツマーケティング論	2	講義	○				●
		スポーツマネジメント論	2	講義	○				○
		スポーツジャーナリズム論	2	講義	○				
		幼児スポーツ論（演習を含む）	2	演習		○			
		「スポーツ人物史」の研究	2	講義			○		
		日本伝統の身体表現	2	講義		○			
障害概論（演習を含む）		2	演習		○				
国際交流論		2	講義		○				
レクリエーション論		2	講義		○				
高齢者活動支援論（演習を含む）		2	演習			○			
スポーツ現場実習Ⅰ		1	実験・実習	○					
スポーツ現場実習Ⅱ	1	実験・実習		○					
スポーツ現場実習Ⅲ	1	実験・実習			○				
スポーツ現場実習Ⅳ	1	実験・実習			○				
スポーツ現場実習Ⅴ	2	実験・実習				○			
スポーツインターンシップ実習	1	実験・実習	○						

- …必修 ○…選択
 △…選択必修（1科目以上） □…選択必修（1科目以上）
 ☆…選択必修（中学のみ2科目以上）

4 スポーツ健康科学科教育課程表（専門科目）③

科目区分	授業科目の名称	単位	授業形態	1年	2年 (予定)	3年 (予定)	4年 (予定)	教員免許 (中・高体育)	備考
専門科目	学科専門科目 教育法等	体育科教育法	2	講義		○		●	
		保健科教育法	2	講義		○		●	
		学校保健・学校安全	2	講義			○		●
		教育方法論	2	講義		○			●
		ICT活用スキルの理論と実際	2	講義			○		●
		教師論	2	講義	○				●
		教育心理学	2	講義	○				●
		特別活動・総合的な学習の時間指導法	2	講義			○		●
		教育相談・キャリア教育指導論	2	講義		○			●
		道徳教育指導論	2	講義		○			●
		教育社会論（学校安全を含む）	2	講義	○				●
		教育原理・教育課程論	2	講義		○			●
		特別支援教育指導論	2	講義		○			●
		生徒指導論	2	講義			○		●
		保健体育授業演習Ⅰ	2	演習		○			○
保健体育授業演習Ⅱ	2	演習			○		○		
保健体育授業演習Ⅲ	2	演習			○		○		
教職科目	教育の実践	教育実習（中学校）	4	実験・実習			○	○	※3
		教育実習（高校）	2	実験・実習			○	○	※4
		事前・事後指導（中・高）	1	講義				○	●
		教職実践演習（中・高）	2	演習				○	●
		学校体験実習（中・高）	1	実験・実習		○			○
		学校インターンシップ実習	1	実験・実習				○	○

※3：中・高両方取得の場合

※4：高校免許のみ取得の場合

注) 各年度によって、科目の前後期配当が変わる場合があります。その際は、学年が開始される前に別途お知らせします。

履修上の諸注意

1 履修計画を立てる前に知っておきましょう

卒業するのに必要な単位は最低126単位です。ただし、必ず履修しなければならない科目があったり、各学期（セメスター）で履修登録できる単位数に上限があったりするなど、履修計画を立てるうえで知っておかなければならないことがあります。以下をよく理解して履修計画を立てましょう。

1) CAP制度（それぞれの学期で登録できる単位数には上限があります）

履修する授業科目をよく選び、その科目に十分な時間をかけて深く学修することができるよう、各学期に履修登録できる単位数に上限があります。原則として各学期に履修登録できる単位数は24単位までです。

学 年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
単位登録の上限	前 期	24単位	24単位	24単位	24単位
	後 期	24単位	24単位	24単位	24単位

ただし、累積GPAが3.0以上の者は、30単位まで登録できます（GPA制度については41ページを参照）。

履修登録できる単位数の上限を超えていないかどうか計算をするときに、以下の科目は除いて計算してください。

- (1) 履修申告期間外に登録する科目（自然活動論、他）および集中講義科目
- (2) 「自由科目」のカテゴリーに入っている科目
- (3) 学期当たりの単位数が1単位の科目
- (4) 日本語【留学生科目】（日本語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢB）
- (5) 演習科目
- (6) 大学間等の単位互換制度によって修得する単位

上記のほか、次ページの科目がCAP制度から除外されます。

■ CAP制度から除外される科目

教師論
教師論（初等を含む）
教育原理・教育課程論
教育原理・教育課程論（初等を含む）
教育心理学
教育心理学（初等を含む）
教育社会論（学校安全を含む）
教育社会論（学校安全を含む）（初等を含む）
道徳教育指導論
道徳教育指導論（初等を含む）
特別活動・総合的な学習の時間指導論
特別活動・総合的な学習の時間指導論（初等を含む）
教育方法論
教育方法論（初等を含む）
生徒指導論
児童生徒指導論
教育相談・キャリア教育指導論
教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）
ICT活用スキルの理論と実際
ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）

2) 履修上、配慮を必要とする科目

(1) 専門演習・卒業研究（全員 必修）

専門演習Ⅰ、Ⅱを3年次で履修し、専門演習Ⅲ、Ⅳを4年次で履修します。専門演習は、セメスター（学期）ごとにⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修し、1つのセメスター内で複数の専門演習を同時に履修することはできません。たとえば、3年前期に専門演習Ⅰの単位が修得できなかった場合、3年後期では専門演習Ⅱを履修できません。

卒業研究は通年科目です。通年科目は4月のみ登録可能です。したがって、卒業研究ほか通年科目を残している場合、9月卒業はできません。

2 留年しないために（4年で卒業するにはこの条件をクリアすべし）

スポーツ科学部では、2年次が終わるまでに修得した合計修得単位数が50単位未満の場合、3年次に進級することができません。3年次に進級できないと、3年次以上に配当されている開講科目を履修することができません。

次の学期に進む際に、修得した卒業要件単位数が次表に示してある単位数に満たない場合には、保証人宛に「警告」あるいは「注意」の文書が送られることになっています。

		1年次	2年次	3年次	4年次
警告基準	前期末	10	35	70	110
	後期末	20	50	90	—
注意基準	前期末	15	45	80	—
	後期末	30	60	100	—

3 卒業見込み証明書発行基準

下記の基準を満たした者に、卒業見込み証明書が発行されます。

- (1) 4年次に進級したものの
- (2) 「専門演習Ⅰ」の単位を取得済みであること
- (3) 4年次前期においては、(3年次後期末までに) 90単位以上の卒業要件単位を取得していること
- (4) 4年次後期においては、(4年次前期末までに) 110単位以上の卒業要件単位を取得していること

4 履修科目を登録する(履修申告)

履修する科目を登録することを「履修申告」と言います。履修申告していない授業科目は、授業に出席しても試験を受けることができず、単位も修得できません。下記の手続きに従って、決められた期間内に履修申告をしてください。履修申告は、特別の場合を除き、すべてインターネット履修申告システムによる登録です。

1) インターネット履修申告システムによる登録

個人のIDとパスワードを使ってパソコンで履修申告を行う制度です。インターネットが利用できれば、自宅からでも履修申告を行うことができます。許可されない科目を登録したり、単位数の上限を超えて申告した場合等には、画面上にエラーや警告メッセージが表示される「リアルタイム・チェック機能」があり、履修申告の結果もオンラインで確認することができます。

間違いなど後で修正が必要になることがあるので、**必ずプリントアウトしておきます。**

2) 履修申告の際の留意点

- (1) 履修科目を登録するときは、次のことによく注意してください。
 - ① 同じ時間帯の授業科目は重複して登録できない
 - ② クラスが指定されている授業科目については、指定クラス以外で登録できない
(特別な事情と認められる場合には、指定クラス以外での登録が認められることがあります。
詳しくは、学務部に相談してください)
 - ③ 単位をすでに修得している授業科目は再登録できない
 - ④ 上位学年に指定されている授業科目は登録できない
 - ⑤ 各学期の登録単位数の上限を超えては登録できない(29ページ「1-1) CAP制度」参照)
- (2) 他学部・他学科で開講されている科目および指定されたクラス以外のクラスを登録する場合は、インターネット履修申告システムでの登録はできません。下記の手続きが必要です。
 - ① 学務部で、「他学部・他学科科目等履修希望届」を受けとる
 - ② 授業担当教員の許可を得て、サインをもらう
 - ③ 学務委員長に承認のサインをもらう
 - ④ 履修登録期間中に、学務部へ書類を提出する

履修申告の流れ

履修登録に間違いがないように十分注意し、申告してください。
不明点の問い合わせは学務部までお願いします。

1 学期始めのガイダンス

- ① 前の学期までの修得単位数を確認。
- ② 履修申告期間を確認。
- ③ シラバス等を参考に、当該学期の履修計画を練る。

2 計画ができれば、インターネット履修申告システムにアクセス

- ① 自分のIDとパスワードを使ってログインし、画面で履修申告を行ってください。
- ② 疑問や質問があるときは、学務部に問い合わせてください（電話やメールでの問い合わせはできません。窓口での対応になります）。
- ③ 申告内容を修正したい場合、**履修申告期間内であれば、何度でも修正できます。**
- ④ 「他学部・他学科科目等履修届」は、授業担当教員および教務委員長のサインをもらう必要があります（インターネット履修申告システムでは履修申告できません）。

病気その他のやむを得ない事情で、定められた期間内に手続きができない場合は、履修申告締切の前日までに学務部に連絡してください。

事前の連絡なく、履修申告期限に遅れると履修ができなくなります。

住所不明の者（学生本人、保証人）、提出書類に不備がある学生は、登録画面に「時間割は登録できません」のメッセージが表示され、履修申告ができません。
必ず学務部の窓口で所定の手続きを済ませてから履修申告をしてください。

定期健康診断未受診者は、身体活動を伴う実技・実習科目等は履修できません。
未受診者は、各自医療機関で受診し、結果を保健室へ提出してください。

3 時間割の確認

- ① 自分の時間割の登録内容に間違いがないかどうかを確認してください。

4 履修申告期間内に登録を完了し、必ずプリントアウト

- ① **各自、必ずプリントアウトして履修登録できていることを確認してください。**
- ② 履修申告期間終了後に、何らかのミスが見つかったり、訂正が必要となった場合、プリントアウトした時間割がないと確認することができません。

これで履修登録完了！

履修申告のその他の注意事項

■ 履修申告期間が過ぎてから履修登録を変更する時

- ① 追加で科目を履修申告したい、または履修申告をした科目の履修を取り消したい場合、履修申告期限後の履修申告訂正期間に学務部に申請すれば、それぞれ **4科目まで**追加または取り消しができます。
- ② 履修申告訂正期間の履修取り消し等の手続きは、インターネットではなく、学務部に置いてある「履修申告用紙」で行ってください。

■ 履修申告期間外の登録（集中講義など）

以下の科目は、通常の履修申告期間以外に、インターネット、もしくは「履修申告用紙」により履修申告を行います。

- ① 集中講義として開講される科目
- ② 自然活動論など通常の授業期間外に開講される科目
- ③ 実習は、各実習のガイダンス等で、日程や登録の仕方を確認してください。
- ④ 教育実習の登録は、別途手続きをします。

5 学部外で修得した単位の認定

スポーツ科学部の学生は、基本的に、本学部で開講されている科目を履修して、卒業に必要な単位を修得してください。ただし、下記のケースに限り、学部外で修得した単位を本学部の単位として認定することがあります。

1) 1年次入学生の入学前修得単位の認定

1年次に入学した学生が、本学に入学する前に他の教育機関等で修得した単位の一部を、**16単位を限度**として本学部の卒業要件単位として認めることがあります。認定を希望する学生は、前期（第1 Semester）の履修申告期間の開始までに、学務部に相談してください。

2) 外国人留学生の日本語授業の受講免除と単位認定

外国人留学生は、日本語のプレースメントテストの成績により、日本語授業の受講を免除し単位を認めることがあります。外国人留学生は、必ず「日本語」の第1回目の授業で行われるプレースメントテストを受験してください。

3) 放送大学の授業科目の単位認定

放送大学で修得した単位は、10単位を上限として本学部の「一般教育科目」の単位として認定されますので、卒業要件単位に算入されることとなります。放送大学で履修できる授業科目は定められたものに限ります。放送大学の授業の受講にかかる費用は自己負担です。受講の申し込みは年に2回、学務部を通して行います。詳細は学務部に相談してください。

4) 横浜市内大学間単位互換協定による単位認定

この協定に参加している大学で修得した単位は、「一般教育科目」として卒業単位に認定します。但し、履修希望者は、事前に履修指導を受けなければなりません。また、以下の規定がありますので十分注意してください。

- ① 履修できる科目は加盟大学の開講科目のみとする。
- ② 1年次生、4年次生（卒業に必要な単位を全て修得した者を除く）は履修することができない。
- ③ 成績評価と単位認定は、本学の評価基準に従って行う。

5) 留学先機関で修得した単位の認定

「留学」が認められ、海外の大学等教育機関で単位を修得した場合、**30単位を上限**として本学部の卒業要件単位として認められることがあります。「留学」をする際は、必ず事前に学務部に相談してください。

6) 英語科目の到達目標と単位認定

英検、TOEIC[®]、TOEFL[®]、IELTS[™]において、所定の級、点数を取得した者は、以下の基準でMAST科目として開講される英語コミュニケーションを除く、英語関連の講義・演習科目の単位として認定します。当該年度の対象科目については、学務部に確認をしてください。

すでに到達しているレベルに加算される形で、上限を8として単位が認定されます。科目でレベル2までの4単位を修得した後に、英検2級（レベル2）を取得した場合には、追加で単位は認定されませんが、英検準1級（レベル3）を取得した場合には、2単位分が認定されます。

ただし、入学後に受験した試験に限ります。

■卒業までの最低到達目標

英検準2級、TOEIC[®]400点、TOEFL[®] (PBT) 400点、TOEFL[®] (iBT) 40点、IELTS[™] 4

■単位認定の基準

レベル	認定単位数	英検	TOEIC [®]	TOEFL [®] (iBT)	IELTS [™]
4	2	1級	860~990	80~120	6.5~9
3	2	準1級	630~855	67~79	5.5~6
2	2	2級	500~625	56~66	5
1	2	準2級	400~495	40~52	4~4.5

2 授業・試験・成績評価

- 授業や試験、成績評価についての基本的なルールと注意事項です。
- 試験に関するルールなどは、違反すると進級や卒業ができなくなる場合もあるので「知らなかった……」にならないように。

1 授業

1 授業時間

一般の授業	
時限	時間
第1時限	8:50～10:35
第2時限	10:45～12:30
第3時限	13:00～14:45
第4時限	14:55～16:40
第5時限	16:50～18:35

2 受講上の心得

- (1) 授業は時間割に基づいて行われます。時間割や教室等に変更がある場合は、掲示板を通じて連絡されます。
- (2) 単位を修得するには、少なくとも授業回数の**3分の2以上**の出席が必要です。

3 実技科目受講上の注意

- (1) 定期健康診断未受診者は身体活動を伴う実技・実習科目等は履修できません。
- (2) 運動靴は「体育館専用」のものと、「屋外専用」のものを必ず別々に用意してください。また、「体育館専用」の運動靴の靴紐は、売店で販売している赤色の靴紐を使用することが必要です。
- (3) 学内の体育施設へ、自転車やバイク等で移動することは禁止です。
- (4) 原則として屋外施設を含む、桐蔭学園内の体育施設内は、水分補給の為に飲料を除き、飲食禁止とします。
- (5) 更衣は必ずロッカー室を使用してください。

4 授業の欠席について

授業はすべて出席することが原則です。

1) 欠席する場合（感染症は 2）、忌引きは 3）を参照

病気や怪我、その他の理由によりやむなく授業を欠席し、以下の事由に該当した場合は、「欠席届」等を授業担当教員に提示し報告することができます。

「欠席届」、「忌引届」、「感染症罹患届」、「診断・登校許可証明書」の書式は、桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ）からダウンロードしてください。ただし、この「欠席届」は**欠席理由を明示するものであって、欠席が出席になるわけではありません**。扱いについては授業担当教員の判断に委ねられています。

「欠席届」を提出することができる事由

- 学会発表（発表者のみ）
- 学生会公認団体の試合等
- 大学行事等
- 国または都道府県の諸行事や大学代表として派遣される場合
- 通学中、授業中、公認団体での活動中の傷害
- 病気にかかった場合（「2）感染症にかかった場合」も参照）

いずれの場合も大会要項、医師の診断書等、欠席理由・欠席期間を証明する書類を添付すること

（手続方法）

- ① 桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ）から「欠席届」をダウンロードして印刷し、必要事項を記入する。
- ② 記入した「欠席届」を顧問等の教員に提出し、署名および捺印をいただく。
- ③ 欠席した授業の担当教員に「欠席届」を提示して説明する。
※授業担当教員から欠席届の提出を求められたときは適宜コピーをとること。

2) 感染症にかかった場合

- (1) 学校保健安全法に定められた感染症にかかっていると疑われる場合は通学を見合わせ、速やかに医師の診療を受けてください。診断の結果、感染症にかかっていると診断された場合は直ちに学務部（045-971-1415）に電話で連絡をしてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。
- (2) 医師が治癒したものと診断し通学を許可した場合、医師の署名捺印を受けた「診断・登校許可証明書」を添えて「感染症罹患届」を学務部に提出してください。

■ 病名と出席停止の期間

	病名	期間
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群 ^{※1} 、中東呼吸器症候群 ^{※2} 、特定鳥インフルエンザ ^{※3} 、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症	治癒するまで
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで
	百日咳	特有の咳がなくなるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	熱が下がって3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘（水ぼうそう）	すべての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで
第3種	結核、髄膜炎菌髄膜炎	
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症など） ^{※4}	病状により、学校医・その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで

※1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る

※2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る

※3 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に規定する特定鳥インフルエンザをいう

※4 第3種その他の感染症については学校医・大学の判断で出席停止となる場合があります

3) 忌引きの場合

忌引により欠席する場合、次の続柄の親族が亡くなった場合は「忌引届」を提出することができますので学務部に申し出てください。提出の際、欠席日を確認できる「会葬御礼」または死亡を確認できる「公的証明書」の写しが必要です。なお、忌引日数は次のとおりです。

父 母	7日以内	※日数には、土日・祝日を含む連続する期間とします。
祖父母・兄弟姉妹	3日以内	
伯（叔）父母	1日	

5 公共交通機関の遅延等について

通学中、電車やバスが何らかの理由により運行できない、もしくは遅延して授業に遅刻・欠席せざるをえない場合は、遅延証明書を駅やバス営業所等からもらい、授業担当教員に自分で報告してください。ただし、遅延証明書を提出しても遅刻が取り消しになったり、欠席が出席になるわけではありません。すべて授業担当教員の判断に委ねられています。

遅延等に備えてあらかじめ迂回路を考えておくといよいでしょう。

6 休講と補講

- (1) 授業が休講になる場合は、掲示板に休講情報が掲示されます。
- (2) 休講等で所定の授業回数が不足している場合、その他やむをえない事情がある場合には補講を行うことがあります。補講情報は掲示板に掲示されます。
- (3) 休講情報、補講情報は桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニパ）でも確認できます（補講情報も含まれます）。

パソコン <https://unipa.toin.ac.jp/uprx/>

7 緊急時の授業の取り扱い

1) 台風等

台風接近等により、神奈川県全域または神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に『大雪警報』『特別警報』『暴風警報』または『暴風雪警報』が発令された場合は、次のとおりとします。

- (1) 当日午前6時までに警報が解除された場合…… 平常どおり授業を行う。
- (2) 当日午前10時までに警報が解除された場合…… 午前中の授業を休講とし、午後から授業を行う。
- (3) 当日午前10時までに警報が解除されない場合…… 授業を終日休講とする。

また、授業中に警報が発令があった場合は、指示に従ってください。その他、不測の事態が発生した場合は学長の判断によります。

なお、定期試験についても上記に準じます。

2) 地震

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想されるときは、「地震防災対策強化地域判定会」（以下「判定会」）が招集され、状況によって内閣総理大臣より「警戒宣言」が発令されます。大学では「判定会」が招集されたことがテレビ・ラジオ等で確認された時点で休校とします。

- (1) 在宅中および通学途中においては、各自の判断で行動してください。
- (2) 在校中においては、大学からの指示に従ってください。
- (3) 「判定会」が解散されたとき、または「警戒宣言」が解除されたときの授業再開は、
 - ① 午前6時より前の場合は、当日の平常授業を行います。
 - ② 午前6時を過ぎている場合は休校とし、翌日より平常授業を行います。

※ 常日頃からの防災……『学生便覧』P46参照（13 防災について）

3) 交通機関の運休について

東急田園都市線（渋谷-中央林間）及び小田急小田原線（新宿-小田原）が**両線とも**、災害、停電、事故等により運休した場合。

- ① 午前6時に両線とも運休している場合は、午前の授業等を休講とする。
- ② 午前11時に両線とも運休している場合は、午後の授業等を休講とする。

※東急田園都市線及び小田急線以外の交通機関が不通になった場合は、全学休講措置はとりませんが、授業担当者が出校不能で休講となることがあります。

また、代替交通機関が利用できず登校できない場合は、各交通機関で発行している遅延証明書を受け取り、授業に間に合う場合は遅延証明書を授業担当者に渡してください。授業に間に合わない場合は、遅延証明書及び学生証を持参の上、後日学務部窓口に来てください。

1 定期試験と授業内試験

定期試験：前期末と後期末に、それぞれ一定の期間を定めて行われる試験

授業内試験：授業担当教員が、必要に応じて授業時間内に行う試験

(受験資格)

- (1) 受験する科目の履修申告をしていること
- (2) 出席回数が、授業回数の3分の2以上あること
- (3) 当該学期の学費、およびその他の納付金を滞納していないこと

2 追試験

病気その他やむを得ない理由により、**定期試験を受けることができなかった者で、授業科目担当教員が適当であると認め、次の事項に該当する場合**に行います。

- (1) 病気（診断書または本学指定の診断（登校許可）書添付）
伝染病の場合は伝染病罹患届も提出すること
- (2) 不慮の事故及び災害（事故証明添付）
- (3) 2親等までの親族の死亡（保証人の届出書または忌引届添付）
- (4) 就職試験および公的な資格取得試験、放送大学の定期試験等（試験日等を証明する書類添付）
- (5) その他やむを得ない理由と認められるとき

(手続方法)

- ① 該当の添付書類を持参し、学務部で1科目につき1枚追試験願を受け取る。
- ② 必要事項を記入し、学務部に提出する。
- ③ 追試験の実施の有無、実施日時等が学務部から連絡がある。
(連絡は、大学が発行しているアドレスに入ります。受信メールがすぐ確認できるように事前に準備しましょう)
- ④ 追試験実施日まで、学務部に追試験許可通知書を受け取りに行く。

3 再試験

定期試験または追試験で不合格になった者に対し、**授業科目担当教員が特に必要と認めた場合に限り**行います。なお、1科目につき2,000円の再試験受験料が必要です。

(手順)

- ① 証明書自動発行機で再試験受験料2,000円を納める
- ② 納入後印刷された再試験願を再試験受験時に授業科目担当教員に提示する

4 試験に関する注意事項

1) 試験を受ける際の注意

- (1) 学生証を机の上に置いてください。学生証を忘れた場合は、証明書自動発行機で仮学生証発行料200円を支払い、学務部で「仮学生証」を発行してもらってから受験してください。
- (2) 試験場では、試験監督の指示に従ってください。指示に従わない場合、退出を命じることがあります。
- (3) スマートフォン、携帯電話等の電子機器類は電源を切ってください。時計としても使用できません。
- (4) 不正行為、または疑わしき行為があった場合、ただちに答案、関連する物品はとりあげられ、退場させられます。

2) 不正行為があった場合

当該学期（セメスター）の履修科目すべての単位が無効となり、かつ懲戒処分が行われます。

不正行為とは？

- (1) 身代わり受験、あるいはその依頼をすること。
- (2) あらかじめ机等に書き込みをしたり、カンニングペーパー等を持ち込むこと。
- (3) あらかじめ許可されたもの以外の資料等を持ち込むこと。
- (4) 試験開始の合図以前に解答を始めること。
- (5) 他の受験者の答案を見ること。
- (6) 他の受験者に答案を見せたり、他の受験者の答案を作成すること。
- (7) 言語、動作等で受験者相互に連絡をとること。（試験とは関係ない会話や、ちょっとした会話も不可。）
- (8) 許可なく席を離れ、または監督者の指示に反する行為をすること。
- (9) 試験中に物の貸し借りをすること。
- (10) 試験中、スマートフォンや携帯電話等電子機器類を使用すること。（時計として机に置くことも不可。）
- (11) 試験終了後に、筆記用具をもっていることや解答を記入すること。
- (12) その他、不正行為と疑われるような行為をすること。

5 レポートの書式と提出ルール

レポートは必ず所定のカバーシートをつけて提出！

レポートは原則としてA4サイズ用の紙で作成してください。提出するときは、必要事項を記載した「レポート提出用カバーシート」（このハンドブックの最後の頁に書式があります）をつけて、提出期限までに所定の提出先に提出すること。

1 成績評価の方法

- 成績評価は、試験、レポート、平素の成績等をもとに行われます。
- 採点は100点満点で行われ、成績評価は右表のように定められています。
- 成績評価はS、A、B、Cを合格とし、所定の単位が与えられます。
- 再試験の場合、成績評価は70点未満となります。

S	90点以上
A	80点以上90点未満
B	70点以上80点未満
C	60点以上70点未満
D	60点未満（不合格）

2 成績の通知

当該学期の成績および修得単位は、学期ごとにインターネット（桐蔭ユニバーサル・パスポート（桐蔭ユニバ））上で閲覧することができます。

3 成績照会

各学期の学期末に交付された成績表に記載された成績評価に疑義がある場合は、成績公開日から2週間以内に限り、成績評価を担当した教員に照会を求めることができます。照会を求める場合には、学務部窓口へ申し出て、所定の手続きを行ってください（桐蔭ユニバで案内されます）。

たとえば、出席やレポート、試験などにすべて対応したにもかかわらず、自身が考える評価とは異なる成績評価であった場合に、その成績評価について確認をしたいときには、「成績照会の申請書」を学務部に提出し確認を求めることができます。

成績照会制度は、成績評価について学生の言い分を聞き、評価の理由について説明を求める制度で、成績を変更してもらう制度ではありません。制度の趣旨を十分に理解したうえで利用してください。

成績照会請求の期限を過ぎてしまった場合、成績評価は、誤記などの特別の事情のない限り変更されることはありません。

4 GPA制度

（Grade Point Average、グレード・ポイント・アベレージによる評価）

学生の学修成果を評価し、履修指導に生かすためGPA制度を活用しています。

GPAは、たとえば特待生奨学生の選考基準の一つとなる（「学生便覧」参照）、累積GPA2.5以上が転学科応募条件の一つである、介護等体験には累積GPA2.2以上の必要がある、といったかたちで利用されます。また就職等に際して、GPA値が成績評価の基準として利用されることもあります。

GPA値は次の計算式により算出されます。
ただし、自由科目は除きます。

$$GPA = \frac{(GP \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修申告した単位数の総和}}$$

上記の計算式で用いるGP（Grade Point）は右表のとおりです。

成績評価	GP（評価点）
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

4

卒業延期制度

4年次生で、卒業に必要な要件を満たすものの、就職活動など正当な理由により、卒業を延期し、引き続き在学を希望する場合は、卒業延期制度を利用することができます。本制度を利用して卒業延期を希望する学生は学務部まで申し出てください。

1 申請条件

- (1) 卒業に必要な要件を満たす4年次生であること。
 - (2) 授業料等納付金を完納していること。
 - (3) 引き続き在学することにより在学期間が6年を超えないこと。
- ※以上の条件を満たしている場合、卒業延期願を提出することができ、その申請に基づき教授会が審査し、これを許可します。したがって、上記申請条件を満たしていても、卒業延期が認められない場合があります。

2 期間

- (1) 卒業に必要な要件を満たした学年の翌年度の1年間。ただし、1回に限り再延長可（最長2年間）。

3 卒業時期

- (1) 卒業の時期は延長後の在学期間が終了する年度の最終日とします。ただし、卒業延期による在学期間中に事情の変更により前期で卒業を希望する場合は、願い出により9月卒業をすることができます。再延長した場合も同様です。

4 身分

- (1) 4年次在學生として扱われます。
- (2) 卒業延期を許可された学生は、在學生として扱われます。よって、情報施設や図書館などの諸施設・設備利用、学生証の発行、及び学則に基づく懲戒処分についてもその対象になります。

5 授業科目の履修

- (1) 授業科目の履修を希望する場合は、年間10単位までの履修が認められます。
- (2) 履修した授業科目は、成績証明書に記載されます。

6 納付金

- (1) 在籍料10万円を納付期限までに一括で納付してください。
※年額一括納付ですので、事情の変更により前期卒業した場合も納付金は返還されません。
※別途学生グループ保険料が必要です。

3 実習と特別プログラム

- 「大学で学習したことを、現場でどのように生かせるのか」、「大学の学びは社会の動きとどうかかわっているのか」を考えながら学べるようにするのが、スポーツ科学部の実習と特別プログラムです。
- 大学の4年間は、実社会に出る前の“モラトリアム”でも、専門的職業訓練の場でもありません。「社会との接点を常に意識して、その現実を理解しながら知識を獲得する力」をつけることで、これまでに考えもしなかった職業、生き方（道）と自分を発見し、激動する社会の中で柔軟に生き抜いていく人間力が育ちます。

ここでは、スポーツ科学部が展開する以下の実習と特別プログラムを紹介します。
(教育実習については、「5-1 教育職員免許状」に記しています)

■ 実習の種類

全ての学科を対象とする実習	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校インターンシップ実習 2 国際コミュニケーション実習Ⅰ～Ⅲ 3 学校体験実習（中・高） 4 シーズンスポーツ論Ⅰ・Ⅱ（演習を含む） 5 スポーツプロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ
各学科の特色ある実習	<p>スポーツ教育学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 自然活動論Ⅰ・Ⅱ（演習を含む） 7 学校体験実習（小） <p>スポーツ健康科学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 8 スポーツインターンシップ実習 9 スポーツコーチング実習Ⅰ・Ⅱ 10 スポーツ現場実習Ⅰ～Ⅴ

■ ガイダンスへの出席

実習や特別プログラムでは、事前にガイダンスが行われるので、履修する人は必ず出席してください。履修にあたって特別に必要とされる手続き等を理解して、安全に、また意味のある実習にしていくためにも、まずはガイダンスから実習が始まる、と考えてください。それぞれの実習に関するガイダンスの情報は、桐蔭ユニバに掲出されます。

全ての学科を対象とする実習

1 学校インターンシップ実習

(全学科対象、4年次、選択科目)

教職課程カリキュラムの最終段階で、大学での学修成果を学校現場で生かす実践的指導力の確認及び、教育実習を通して明確となった採用後に自己が取り組むべき課題の解決に向けて、学校現場において学校行事や教師のサポート等に積極的に取り組む中で、学校における学び続ける教員としての素養を身に付けることをねらいとします。

学校インターンシップ実習とは、教職に関わる科目群に設定されている大学が独自に設定する科目の一つです。本科目は、教員免許を取得した後に、教壇に立つことを強く志す学生が、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の学校現場に出向き、教員としての知識や技能、学校運営活動の多岐にわたる業務内容について実践的に学習するものです。

単位認定条件

- ① 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校で30時間以上の活動を継続して行なう。
 - ② 活動記録として「活動記録（学校インターンシップ実習日誌）」を記入する。
 - ③ 「活動記録（学校インターンシップ実習日誌）」を本科目担当者に提出し、面談等を行なう。
- * 単位付与については、活動内容や活動時間数等を総合的に評価し、教職課程委員長および教職課程委員会にて審議し、決定する。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

本科目担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）等にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修者の選定には、履修希望者の教職関連科目等の単位修得状況（GPA含む）等が一定の基準に達していることを教職課程委員会にて確認の後、決定します。

2 国際コミュニケーション実習Ⅰ～Ⅲ

(全学科対象、1～4年次、選択科目)

1 国際コミュニケーション実習の目的

海外での短期語学研修と体験プログラムに参加することによって、国際交流や国際化している職場で必要とされるコミュニケーション能力や、現場で考え、自力で動く力を高めます。海外で外国語のコミュニケーション力を磨くチャンスですので、ぜひ積極的に参加してください。

同時にこの実習では、活動成果を作品にまとめる作業を通じて、現場で記録をとり、それをどのようにプレゼンテーションするかというトレーニングも行います。

2 履修申告

プログラムは夏期と冬期に実施します。

夏期のプログラム（韓国語）に参加する学生は4月下旬～5月頃に、冬期のプログラム（英語）に参加する学生は10月頃に参加申込み（履修申告）をします。通常の履修申告期間にはウェブ登録を行いません。

1) 研修先一覧（2018年度実績）

研修地域	研修先（大学）	所在地	研修時期
韓国	慶南大学	Kyungnam University 449 Wolyoung-dong, Masan, Gyeongnam 631-701, Korea	8月
アメリカ	ウエスト大学	University of the West 1409 Walnut Grove Ave. Rosemead, California 91770, U.S.A.	3月
オーストラリア	ボンド大学	Bond University Gold Coast, Queensland 4229, Australia	3月
イギリス	ウースター大学	University of Worcester St John's Campus, Henwick Grove, Worcester, WR2 6AJ, UK	3月

※研修地域・研修先・研修時期は変更・追加の可能性があります。

2) 研修期間

研修前後の授業（10回程度）＋研修先でのプログラム（2～3週間）＋実習報告会での発表

3) 参加要件

研修先で学習する言語を履修していることが望ましい。

4) 現地での体験プログラム

語学の授業以外に、伝統的な舞踊や武術、生活文化体験活動、セレブレーション、スポーツ活動などのアクティビティに参加します（国によって活動内容は異なります）。

5) 成績評価

(1) 研修先が発行する成績証明書、修了証明書

(2) 体験プログラムへの参加状況と活動成果の提出並びに発表

[写真、ビデオ、レポートなど何らかのかたちで公開することを前提に、実習先で作成した活動記録やそれらを編集した活動成果をまとめます。]

(3) 参加による修得単位数は4単位です。

3月に実施される実習に参加する場合は、翌年度に単位が付与されます。

6) 参加経費

旅費（航空チケット等）＋現地研修費＋滞在費（宿泊費、食費等）＋その他 雑費

韓国：20万円程度 アメリカ：50万円程度 オーストラリア：45万円程度

イギリス：39万円程度

（滞在期間、通貨レート変動等によって金額は変化します）

3 国際コミュニケーション実習実施前のガイダンス

夏期、冬期のプログラムともに、出発前に10回程度の事前ガイダンスを行います。このガイダンスは授業の一部ですので、欠席すると実習に参加できず、単位も認められなくなることがあります。

ガイダンスの実施予定は掲示板で告知します。

4 留学制度について

1) 短期留学（短期語学研修）について

スポーツ科学部では、「国際コミュニケーション実習」という授業科目にて実施しています。研修先は、慶南大学（韓国）、ウースター大学（英国ロンドン郊外）、ウエスト大学（米国ロサンゼルス）、ボンド大学（豪州ゴールドコースト）からの選択となります。

※渡航までに英語村での事前指導があります。

2) 本学協定大学等との交換留学（1年間または半年）

休学せずに、本学協定大学等に留学（交換留学）するものです。語学力はもちろん、コミュニケーション力が一回りも二回りも成長します。帰国後、留学先大学で修得した科目内容により単位を認定します。

【英語圏の大学】

ウースター大学（英国ロンドン郊外）との交換留学に申請することができます。これに申請するにはIELTSの高得点が求められます。また留学先大学の学費は免除されますが、その他の経費は自己負担になります（学部からの推薦が必要です）。

【中国語圏の大学】

法学部では西南政法大学や南京師範大学等中国語圏の大学との交換留学を行っています。これらの大学との協定では、本学へ納入した学費で相手校に留学できます。ただし旅費や滞在費は個人負担となります（学部からの推薦が必要です）。なお中国語を習得するための講義のみの履修でも可能であるため、医用工学部、スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部、現代教養学環の学生も留学の機会があります。

【韓国語圏の大学】

スポーツ健康政策学部・スポーツ科学部では慶南大学（韓国）との実績があります。法学部、医用工学部、現代教養学環の学生も応募可能です。大学間の協定によるものなので、本学へ納入した学費で相手校に留学できますが、旅費や滞在費は個人負担となります（学部からの推薦が必要です）。

3) 個人による留学について

夏休みや春休みを利用した個人参加による留学、または長期の留学を希望される場合、外部の留学プログラム等を紹介することが可能です。

単位認定を希望する場合には、渡航前に所定の様式をもって学務部にお問い合わせください。その後、各学部の国際交流担当の教員と面談を行います。帰国後に申請した通りの活動に従事したことを証明する書類を提出し、活動成果を報告・発表をすることで、単位（MAST科目「海外実習」、2単位）が認められる場合があります。

※授業期間中を含めた長期の留学をされる場合は、大学を休学する必要があります。

4) 学内の取組みについて

交流会館3階に「桐蔭英語村」があります。

ここには常に外国のネイティブスタッフが常駐し、毎日気軽にお喋りやゲームを楽しんだり、好きな時に好きなだけ英会話のレッスン、TOEIC®・文法・読解などの勉強をすることができます。ここは、楽しく、そして自然に英語を使う場として、さまざまな活動を提供しています。

3

学校体験実習（中・高）

（全学科対象、2年次、選択科目）

教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては、教職の基礎的な知識・技能の習得にとどまらず、それらを活用する機会や探求的に学ぶ機会の充実が求められています。本科目では、教職課程の学習をする早期の段階で、学校現場における学校行事や教師のサポート等の体験を通して、学校の実態及び教員の職務を学ぶ機会とします。

学校教育の現場は教師と生徒のみならず、保護者や地域社会をはじめとするさまざまな人々との関わり合いから成り立ちます。特に今日では、学校ボランティアの存在が極めて重要な役割を担いつつあります。本学でもボランティアをはじめとするさまざまな活動を通して、教育現場に関わることを推奨しています。学校体験実習（中・高）では、学生の皆さんが学校で行われるボランティア活動に参加した場合に、一定の条件を満たしていれば、一連の活動について単位（成績）を付与するものです。

単位認定条件

- ① 中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校で30時間以上の活動を継続して行う。
- ② 活動記録として「活動記録（学校体験実習（中・高）日誌）」を記入する。
- ③ 「活動記録（学校体験実習（中・高）日誌）」を本科目担当者に提出し、面談等を行う。

* 単位付与については、活動内容や活動時間数等を総合的に評価し、教職課程委員長および教職課程委員会にて審議し、決定する。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

本科目担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）等にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修者の選定には、履修希望者の教職関連科目等の単位修得状況（GPA含む）等が一定の基準に達していることを教職課程委員会にて確認の後、決定します。

（全学科対象、1年次、選択科目）

自然の中でさまざまなアウトドア活動を体験することを通して、自然の豊かさや厳しさを体験的に学び、自らの「からだ」への気づきを深めるとともに、アウトドア活動を実施する上で必要となる知識や技能を学ぶ。また、アウトドア活動を通して自然・環境・社会・自己の関係性を見直し、現代社会におけるアウトドア活動の文化・社会的意義を考えていくものとする。さらに、野外活動施設等の経営論などの学習を深める。

【シーズンスポーツ論Ⅰ（演習を含む）】

プログラム内容：カヤック、ヨット、シュノーケリング、SUP、カヌー、他

*本科目の履修者には参加費として1万円を徴収します。

【シーズンスポーツ論Ⅱ（演習を含む）】

プログラム内容：トレッキング、アドベンチャープログラム、テント設営（キャンプギア）、
野外炊事、ブッシュクラフト、他

*本科目の履修者には参加費として1万円を徴収します。

【履修登録およびガイダンス】

シーズンスポーツ論Ⅰ（演習を含む）、シーズンスポーツ論Ⅱ（演習を含む）は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

授業担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニバ）にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修希望者が多数の場合には抽選等にて履修者を選定します。

【注意】

上記の2科目は、宿泊を伴うプログラム内容となる場合もあります。

(全学科対象、1年次、選択科目)

学生が主体となって、文化スポーツに関連するさまざまな企画を立案し、その実現に向けて活動します。スポーツに関わる短い映像や番組をつくる、あるいはイベントを企画して実施するなど、学生自身が考えたアイデアや企画を具体的な「かたち」にしていくプロセスを通して、目的達成に向けて相互に協力し、コミュニケーションする力を身につけます。

1) 授業のすすめかた

学生は、個人もしくはグループで企画を立案し、プレゼンテーションと審査を経て、認められた企画を自主的に進めていきます。

企画の内容に応じて、その実現に必要な講習や、関連分野の講師を招いた講義等が本授業の一環として行われる場合もあります。

学期の中間に進捗状況の報告会があり、また学期終了時に最終発表会を行います。企画書、中間・最終報告、報告書に基づいて審査が行われ、単位（成績）が付与されます。

2) 履修申告とガイダンスについて

通常の履修申告期間には履修申告を行いません。ガイダンス日程は掲示板で告知します。

各学科の特色ある実習

6 自然活動論Ⅰ・Ⅱ（演習を含む）

（スポーツ教育学科対象、Ⅰ：1年次必修科目、Ⅱ：2年次以上選択科目）

「目的・ねらい」

「自然」が持つ力によって「人と自然」「人と人」の関わりを理解し、自然への畏敬の念と人への思いやりの心を育むことを目的とします。また、自然災害が多く発生する我が国において、児童・生徒を安全かつ迅速に誘導、避難させ、避難生活でも明るく、生きる力を育ませることのできる資質を持った指導者の育成を目的にしています。

また、自然活動論Ⅱでは、野外活動の専門的な知識、技能を習得し、野外活動から自然災害に対する安全管理と安全教育をしっかり習得した指導者の育成を目的にします。

自然活動論Ⅰ（1年次必修科目） 自然活動論Ⅱ（2年次以上選択科目）

期 日：2月中旬

実習場所：千葉県大房岬自然の家（千葉県南房総市）または神奈川県立愛川ふれあいの村

日 程：3泊4日

プログラム内容：講義、災害時対策、アドベンチャープログラム（ローエレメント）、
野外炊事、グループチャレンジワーク、ネイチャークラフト等

自然活動論Ⅰは、1年次の必修科目となります。事前指導に参加しないと実習に行くことはできません。事前指導の日時は掲示にて案内されます。

自然活動論Ⅱは、自然活動論Ⅰと同日程、同じ場所で行います。

期 日：2月中旬

実習場所：千葉県大房岬自然の家（千葉県南房総市）または神奈川県立愛川ふれあいの村

日 程：3泊4日

プログラム内容：アドベンチャープログラム（ハイエレメント）、ソロピバーク等

自然活動論Ⅰに参加している学生のリーダー、指導的立場で参加します。

※人数に余裕がある場合は、スポーツ教育学科以外の学生でも希望があれば参加できます（単位は認定されますが、卒業要件単位にはなりません）。

（スポーツ教育学科対象、2年次、選択科目）

教職の資質・能力に関する実践的指導力の育成に向けては、教職の基礎的な知識・技能の習得にとどまらず、それらを活用する機会や探求的に学ぶ機会の充実が求められています。本科目では、教職課程の学習をする早期の段階で、学校現場における学校行事や教師のサポート等の体験を通して、学校の実態及び教員の職務を学ぶ機会とします。

学校教育の現場は教師と児童のみならず、保護者や地域社会をはじめとする様々な人々との関わり合いから成り立ちます。特に今日では、学校ボランティアの存在が極めて重要な役割を担いつつあります。本学でもボランティアをはじめとするさまざまな活動を通して、教育現場に関わることを推奨しています。学校体験実習（小）では、学生の皆さんが学校で行われるボランティア活動に参加した場合に、一定の条件を満たしていれば、一連の活動について単位（成績）を付与するものです。

単位認定条件

- ① 幼稚園、小学校、義務教育学校、特別支援学校で30時間以上の活動を継続して行う。
- ② 活動記録として「活動記録（学校体験実習（小）日誌）」を記入する。
- ③ 「活動記録（学校体験実習（小）日誌）」を本科目担当者に提出し、面談等を行う。

* 単位付与については、活動内容や活動時間数等を総合的に評価し、教職課程委員長および教職課程委員会にて審議し、決定する。

【履修登録およびガイダンス】

本科目は、履修申告期間中に登録する授業科目ではありません。

本科目担当者がガイダンスの開催について桐蔭ユニバーサルパスポート（桐蔭ユニパ）等にて告知しますので、履修を希望する学生はガイダンスに参加してください。

なお、履修者の選定には、履修希望者の教職関連科目等の単位修得状況（GPA含む）等が一定の基準に達していることを教職課程委員会にて確認の後、決定します。

(スポーツ健康科学科対象、1年次、選択科目)

インターンシップ実習は、在学中に自分の興味・関心のある職業や職場での就業体験を通して、大学での様々な講義や実技・演習科目で学んだことへの理解を深めるとともに、将来進路を選択する際の視野を広げたり、選択する力を身につけることが目的で行うものです。また、この実習を体験した学生は、早くからビジネスマナーを身につけることができたり、社会人として自分が不足している点について自覚することができるなど、充実した学生生活や円滑な就職活動に結び付くという利点があります。

現在、インターンシップ実習生の受け入れは、民間企業だけでなく行政官庁や教育機関等でも行っています。夏期・春期の長期休暇を利用して、ぜひ体験してみることをおすすめします。

インターンシップ実習が以下の①～⑤すべての条件を満たしている場合には、単位として認められます。

なお、実習先は、(1)キャリア情報センター、(2)学部や学科を介したもののほか、(3)自己開拓でも構いません。

単位認定条件

- ① 学科基礎セミナーⅠ・Ⅱとも単位取得が済んでいること
(取得見込みでも可⇒担当教員に相談)
 - ② 事前の申請…実習開始前にキャリアセンターまで申請書提出⇒各学科の承認を得ること
 - ③ 一箇所でも40時間以上継続して行うこと
 - ④ 所定の実習記録と報告書の提出…実習内容や学びの記録ノートと報告書を提出すること
 - ⑤ 実習先所属長の評価…所定の用紙(実習先評価表)にて提出すること
 - ⑥ 評価については学科のインターンシップ担当教員が担当する
- ※各学期末を実習記録と実習先評価表の提出メ切とする

なお、スポーツインターンシップ実習は学科基礎セミナーⅠ・Ⅱの単位取得後は、いつでもインターンシップ実習に入ることができます。

(スポーツ健康科学科対象、3～4年次、スポーツコーチングコース推奨科目)

これまでの学修で身につけたコーチングやスポーツ医・科学に関わる基本的知識を、スポーツ指導の現場で応用、実践します。実習Ⅰでは、本学のスポーツ強化クラブにおいてコーチング実習を行います。また、実習Ⅱでは、履修生の母校となる中学校や高等学校の運動部、あるいは出身のクラブチーム等を実習先としてコーチング実習を行います。それぞれ10時間、40時間のコーチング実践を行うとともに、実習日誌を用いながら担当コーチや教員から継続的な指導を受けます。また、各実習とも事前・事後指導を行い、チームや選手と関わるための基本的なコミュニケーションスキルやマナー等を身につけます。さらに、実習後に履修者同士で振り返りを行うことで、実習の体験を学びに繋げ指導力を養います。

ガイダンスおよび履修申告

「チャンピオンシップスポーツコーチング論」あるいは「ジュニアスポーツコーチング論」の授業内で指示します。

(スポーツ健康科学科対象、1～4年次、選択科目)

スポーツ現場実習ではスポーツ・医療に関連した施設・団体において実習を行ない、現場でしか得られない経験や学びを通して行動力や対応力、発想力を身につけることを目的とします。以下の条件を満たしている場合には、単位（1単位 ただしスポーツ現場実習Ⅴは2単位）として認められます。内容は、スポーツ現場実習Ⅰ（見学実習）、スポーツ現場実習Ⅱ（検査・測定と評価実習）、スポーツ現場実習Ⅲ（スポーツ現場実習）、スポーツ現場実習Ⅳ（アスレティックトレーニング・アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習）、スポーツ現場実習Ⅴ（総合実習）を目安に実施します。

「スポーツ現場実習」単位認定条件

- ①実習先を事前に申請し、大学担当教員および学科の承認を得る。
- ②スポーツ現場実習を原則として1箇所です30時間以上（スポーツ現場実習Ⅴは60時間）行う。
- ③実習記録および報告書、実習先担当者の評価等の書類を提出する。

4 専門演習（ゼミ）の選択から卒業まで

専門演習（ゼミ）と卒業研究

- 卒業が認定され、「学士（スポーツ科学）」が授与されるためには、必要とされる授業科目の履修による所定の単位数の修得が求められます。
- この中には、3年次、4年次に皆さん全員が履修することになる「専門演習（ゼミ）」と「卒業研究」が含まれます。

1 「専門演習（ゼミ）」について

3年次【必修】「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次【必修】「専門演習Ⅲ・Ⅳ」「卒業研究」は、3、4年次の2年間の大学生活の中心となり、自分の問題意識や課題をつかみ、それを中心として学部での学びを深めていく時間です。1人の教員と10人程度の学生が活動の基本単位となり、文献の読み込み、資料収集や実験、調査、発表などを通して、「自分が設定した課題に取り組み、自分の、今の時点での答えを提示する力」を高めます。この専門演習をゼミナール【Seminar】、通称「ゼミ」と呼びます。

2 専門演習から卒業研究へ

2年次後半	専門演習（ゼミ）の選択
3年次	専門演習Ⅰ・Ⅱ（必修、半期2単位） * 専門演習Ⅰ・Ⅱを履修登録し、原則として3、4年を通じ同じ教員の専門演習に参加します。 * 専門演習Ⅱは、専門演習Ⅰの先修要件となりますので、同時履修はできません。
4年次	専門演習Ⅲ・Ⅳ（必修、半期2単位） + 卒業研究（必修、通年2単位） * 専門演習Ⅲは専門演習Ⅱ、および専門演習Ⅳは専門演習Ⅲのそれぞれが先修要件となりますので、同時履修はできません。

* 専門演習及び卒業研究は「学科基礎科目」です。

3 卒業研究への流れ（詳細は3年次に提示）

1 研究構想発表（ゼミ単位）	4年次 6月頃
2 中間発表（ゼミ単位）	10月頃
3 卒業研究提出（論文および要旨）	1月上旬
4 卒業研究発表会（合同ゼミ）	1月下旬～2月上旬
5 合否判定	

4 卒業研究テーマ

卒業研究の表現スタイルとして、大きく次の三つのタイプを設けています。どのタイプで卒業研究を進めるのかについては、ゼミの教員と相談して決定します。グループによる同じテーマの研究は可能ですが、視点や分担などの相違を明確に区別し、研究論文は学生一人一人が作成します。

タイプ		まとめ方
1	実験系	実験・計測・調査・開発を中心とする。実験・計測などの結果を、図表などに表し結果をまとめる。
2	非実験系	調査・検討・提案を中心とする。文章での論述表現を主とし、必要に応じて図表によるデータ、写真・スケッチなどを挿入しまとめる。
3	制作系	企画・演出・創造的パフォーマンスなどの映像・模型・教材の制作を中心とする。映像記録・作品・教材などを制作し、その説明を文章によって記述し、必要に応じて図・写真などを挿入しまとめる。

5 免許・資格を取得する

- 資格は、それがあれば就職できるという“パスポート”ではありません。将来の仕事のための“道具”、あるいは自分が身につけた力を示す、ひとつの“ものさし”のようなもの。仕事にふさわしい道具がなければ困りますが、道具があっても使いこなせなければ役には立ちません。
- ここでは、スポーツ科学部で取得できる資格を紹介します。自分が身につけたい力、取り組みたい仕事は何なのか。それをイメージしながら、そこに向かう最初のステップとして、積極的に活用してください。

1 教育職員免許状（教員免許）

学校の教員には志さえあれば誰もがなれるというわけではありません。正式な教員として学校の教壇に立つためには、文部科学省によって認定された教育職員免許状（以下、教員免許）のためのカリキュラムが設置された大学において、法律に定められた科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

スポーツ科学部の教職課程では、中学校教諭1種免許状（保健体育）、高等学校教諭1種免許状（保健体育）の教員免許を取得することができます。さらに、スポーツ教育学科では小学校教諭1種免許状を取得することができます。中学・高校で保健体育科教諭として勤めるためには、保健体育を深く教える能力が求められますし、小学校教諭として勤めるためには、小学校全教科に渡って広く学んでいなければなりません。

教員免許を取得して教員としての責任を果たすために、教職課程の履修にあたっては、法律で求められるすべての単位の修得と成績による参加条件、決められた手続きの厳守と説明会への出席、体験や実習にあたっての事前指導、事後指導への出席など、様々なハードルがあります。

教職課程に関する詳しい説明は、「教職課程の手引き」（63ページ）に掲載されています。教員免許を取得するにあたっての注意事項や参加条件、事務手続き方法、授業科目が掲載されていますので、よく読んで履修をしてください。

■ 資格取得に必要な科目

★印から1科目 ▲印から1科目 ●印から1科目 ▼印から1科目 ■印から1科目

科目名	配当年次	単位	スポーツ指導者 共通科目Ⅲ	健康運動実践指導者 資格	パラスポーツ 指導者資格 (初級パラスポーツ指導員)	JATI認定 トレーニング指導者資格 (JATI-ATI)	JPSU-ST スポーツトレーナー資格	NSCA-CSCS
身体の仕組みと働き	1	2	○	○	○	○		○
機能解剖学Ⅰ	1	2		○		○	○	○
トレーニング論 (演習を含む)	1	2	○	○		○	○	○
運動処方論	1	2	○	○		○		○
陸上競技	1	1		○			★	
水泳	1	1		○			★	
ボディワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	1		○				
救急処置論 (演習を含む)	1	2		○		○	○	○
ストレッチング論 (演習を含む)	1	2				○		
スポーツ情報処理論	1	2				○		
アスレティックトレーナーの役割	1	2					○	
バスケットボール	1	1					▲	
バレーボール	1	1					▲	
柔道	1	1					●	
剣道	1	1					●	
ダンス	1	1					■	
予防とコンディショニングⅠ	1	2					○	
ボランティア論	1	2			○			
スポーツイベント施設論	1	2				○		
健康教育学	2	2		○				
ヘルスプロモーション論	2	2			○			○
障害概論 (演習を含む)	2	2			○			
アスレティックリハビリテーションⅠ	2	2				○	○	
スポーツ栄養学Ⅰ	2	2		○		○		
スポーツ栄養学Ⅱ (演習を含む)	2	2	○				○	○
スポーツバイオメカニクス	2	2		○		○	○	○
スポーツ医学Ⅰ	2	2		○		○	○	
スポーツ心理学	2	2	○	○	○	○	○	
ハンドボール	2	1					▲	
予防とコンディショニングⅡ	2	1					○	
運動生理学	2	2					○	○
障害者スポーツ論	2	2	○		○			
測定機器の操作	2	2					○	
スポーツ政策論	2	2	○					
インクルーシブスポーツ論	2	2	○					
ジュニアスポーツコーチング論	3	2	○					
メンタルトレーニング論	3	2	○					
チャンピオンシップスポーツコーチング論	3	2	○					
測定評価学 (演習を含む)	3	2		○		○		
エアロビクス (演習を含む)	3	1		○				
学校保健・学校安全	3	2			○			
コーチング学	3	2				○	○	
体づくり運動指導法	3	2					■	
健康管理とスポーツ医学	3	2					○	
スポーツ現場実習Ⅳ	3	1						○
教育実習 (初等)・教育実習 (中学)	4	4					▼	
教育実習 (高校)	4	2					▼	

1 公益財団法人 日本スポーツ協会公認 「スポーツ指導者」資格 講習・試験免除適応コース

1) スポーツ指導者制度とは

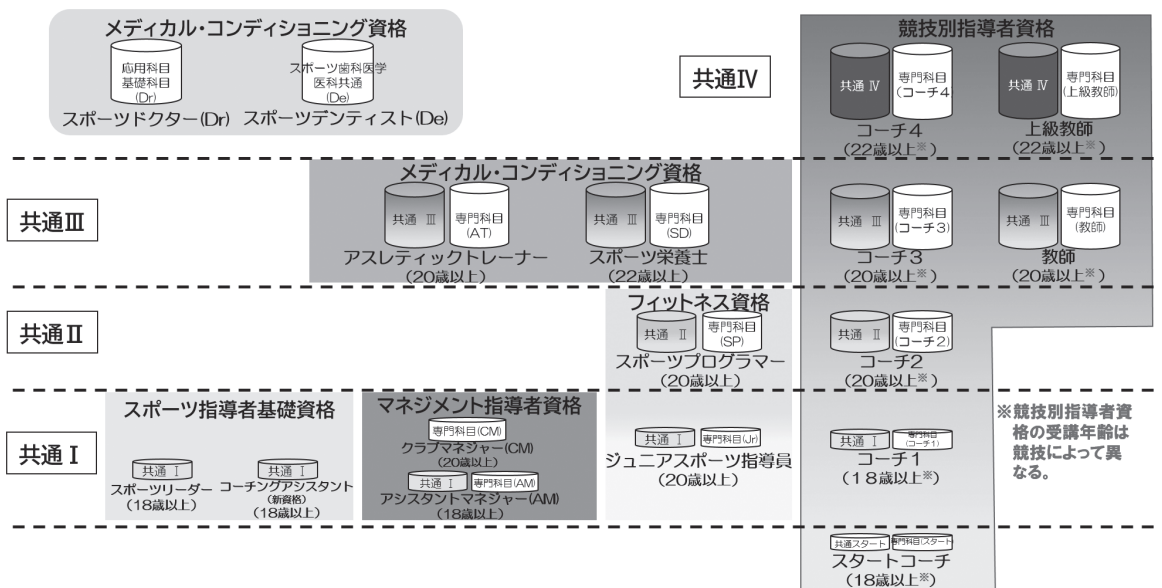
(公財)日本スポーツ協会(旧日本体育協会)では、生涯スポーツ社会の実現のため、各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図り、指導活動の促進と、指導体制の確立を目指し、(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度を制定しています。

2) どうしたら取得できる?

スポーツ指導者制度による、スポーツ指導者の資格を取得する場合には、各都道府県の体育協会や、各スポーツ競技団体が開催する講習会に参加し、「共通科目」及び「専門科目」を受講することが必要となりますが、必要単位を修得し、申請手続きをすることで、(公財)日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者資格を取得するために必要な、「共通科目Ⅲ」の講習及び試験が免除されます。

3) 各資格の概要・カリキュラム

公認スポーツ指導者資格のカリキュラムは、スポーツドクター・スポーツデンティストを除き「共通科目」と「専門科目」によって構成されています。スポーツ指導者資格の種類と役割については、日本スポーツ協会のHPでも確認ができます (<http://www.japan-sports.or.jp>)。



4) 申請費用

共通科目Ⅲ	11,000円
-------	---------

(申請費用は2022年度現在)

5) スポーツ指導者制度講習・試験免除適応コースのガイダンス

ガイダンスの日時等については学内の掲示(12月頃)でお知らせします。

2 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団認定 「健康運動実践指導者」資格

1) 健康運動実践指導者とは

健康づくりのための運動指導者に与えられる称号の一つで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて、実践指導を行うことができると認められた方に与えられる資格です。

近年増加しているメタボリック症候群などの生活習慣病に対し、国が本格的に対策を図るなか、安全で効果的な運動プログラムを作成し、実践指導ができる者として重要な役割を果たすものと期待されています。

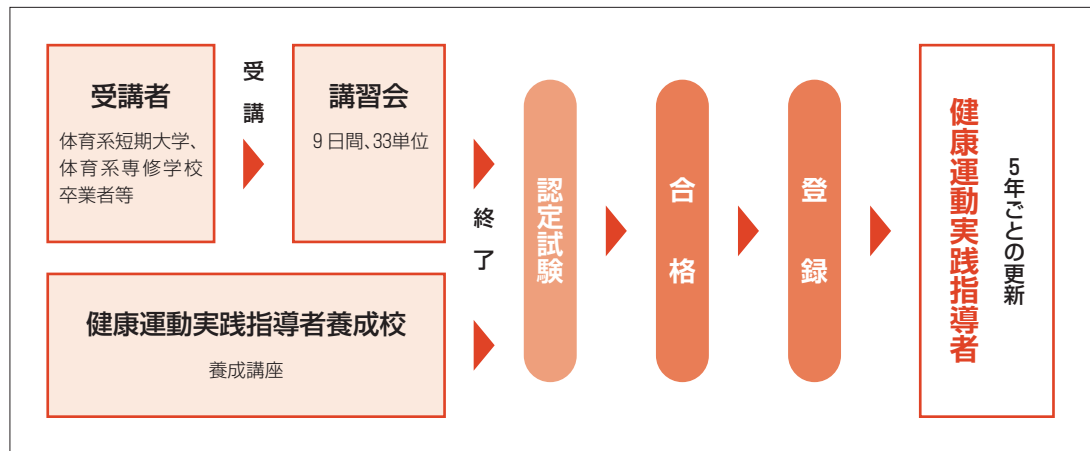
健康運動実践指導者として財団に登録されている方は、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等で活躍しています。

2) どうしたら取得できる?

「健康運動実践指導者」の資格を取得するには図のように健康運動実践指導者養成講習会を受講するか、または、健康運動実践指導者養成校の養成講座を修了して、健康運動実践指導者認定試験に合格し、健康運動実践指導者台帳に登録されなければなりません。

なお、合格・登録後は5年ごとの更新が必要となります。本学は、健康運動実践指導者養成認定校ですので、57ページの資格取得に必要な科目のすべての科目を履修し、単位を修得することで、受験資格を得ることができます。

■「健康運動実践指導者」の資格取得までの流れ



3) 試験・登録

新規の試験は在学中のみ可能です（注意：卒業すると受験資格が喪失します）。3年生の後期と4年生の後期に受験できます。なお、在学中に受験経験のある者は卒業後も受験することが可能です。

資格認定試験料は25,300円、その後、合格した学生は当財団の健康運動実践指導者台帳への登録資格を付与され、登録の申請22,000円が必要となります。なお、登録は5年間有効で、所定の講習会を受講することにより、更新することができます。（認定試験料・登録申請料は2022年度現在）

4) 説明会

資格の説明会を実施します。掲示をよく確認の上、出席してください。

3 公益財団法人 日本パラスポーツ協会公認 「パラスポーツ指導者」資格（初級パラスポーツ指導員）

1) パラスポーツ指導者とは

障がい者のスポーツ振興と競技力の向上にあたる指導者の資質と指導力を向上させるとともに、指導活動の促進と指導体制を確立するために、公益財団法人日本パラスポーツ協会によるパラスポーツ指導者制度があります。

初級 パラスポーツ指導員	地域で活動する指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。 【受講資格】 受講年度の4月1日現在で18歳以上の者。
中級 パラスポーツ指導員	地域における障がい者スポーツのリーダーとしての役割を持ち、指導現場で十分な知識・技術と経験に基づいた指導ができる者。 【受講資格】 初級パラスポーツ指導員資格を取得して、2年以上経過している者で、かつ80時間以上の活動経験を有する者。または、日本体育協会公認スポーツ指導員資格（スポーツリーダーを除く）を取得し、初期登録から3年以上の指導経験を有する者。
上級 パラスポーツ指導員	県レベルのリーダーとして、指導現場では障がい者スポーツの高度な専門的知識を有し、指導技術と豊富な経緯に基づいた指導と指導員を取りまとめる指導的立場になる者。 【受講資格】 中級パラスポーツ指導員資格を取得して、3年以上経過している者で、かつ120時間以上の活動経験を有する者。

2) 資格申請・登録料

申請・認定料	5,500円
登録料	年間 3,800円

（申請・認定料、登録料は2022年度現在）

※毎年、登録の更新が必要です。

3) どうしたら取得できる？

日本パラスポーツ協会が実施する指導員養成講習会、または、協会の指導で地方公共団体等が実施する指導員養成講習会を受講し、その後、資格取得申請を行います。

スポーツ科学部では、57ページの資格取得に必要な科目のすべての科目を履修することで講習の受講が免除されます。資格取得を希望する学生は、必ずガイダンスに出席してください。日程は掲示板で告知します。

4) 初級パラスポーツ指導員の役割

障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。地域の大会や教室など、スポーツ現場におけるサポートを行っております。資格取得後は、経験を積み講習会を受講することで、中級・上級指導員にステップアップできます。

4 特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会JATI JATI認定トレーニング指導者資格（JATI-ATI）

1) JATI認定トレーニング指導者資格とは

一般人からトップアスリートを対象とし、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導ができる専門家であることを証明する資格です。

2) どうしたら取得できる？

本学はJATIが認定するトレーニング指導者養成校・養成機関ですので、所定の科目を履修済みまたは受験年度中に履修することで受験資格を得ることができます。

合格後すみやかに入会することを条件に入会前の認定試験受験が認められます。

3) 受験料・入会費

受験料	30,000円+税（一般科目と専門科目の両方を含む）
個人正会員年会費	10,000円+税（受験合格後、入会することにより資格証を得ることができる）

（受験料、個人正会員年会費は2022年度現在）

5 一般社団法人 全国体育スポーツ系大学協議会JPSU JPSUスポーツトレーナー資格（JPSU-ST）

1) JPSU認定スポーツトレーナー資格とは

体育・スポーツ系大学の専門性を活かした学びのさまざまな知識・技術を駆使し、運動実践・指導、ケガの予防、救急処置ができる専門家であることを証明する資格です。

2) どうしたら取得できる？

JPSU認定スポーツトレーナー資格（JPSU-ST）を取得するためには、以下の4条件を満たす必要があります。

- (1) 57ページの資格取得に必要な科目の指定カリキュラム（講義・実技）に該当する単位を卒業までに取得すること（修了認定講習会時点では見込みでも可）
- (2) 資格授与時（卒業式）まで有効期限があるBLS資格を取得し、その証明書があること
- (3) 修了認定講習会の全ての講座を受講し、講習会時に行う認定試験に合格すること
- (4) 認定試験に合格し、学業成績証明書（卒業を明記）を提出した者にJPSUスポーツトレーナーの「認定証」を交付する

3) 受験料

受験料	20,000円（修了認定講習会受講料および検定料）
-----	---------------------------

（受験料は2022年度現在）

6 特定非営利活動法人 NSCAジャパン Certified Strength and Conditioning Specialist (NSCA-CSCS)

1) NSCA-CSCSとは

傷害予防とスポーツパフォーマンス向上を目的とした、安全で効果的なトレーニングプログラムを計画・実行する知識と技能を有する人材を認定する資格です。

指導対象は主にアスリート、スポーツチームです。筋力トレーニングや他の体力要素の指導だけでなく、施設を運営、管理することも重要な職務となります。また、栄養、ドーピング、生活習慣に関する指導など、教育者の側面も併せ持っています。

2) どうしたら取得できる？

本学はNSCA-CSCS認定校です。57ページの資格取得に必要な科目のカリキュラムを全て履修し単位を取得した場合あるいは取得見込の場合は、CSCS特別認定試験を受験することができます。

3) 受験料

認定校受験料	39,700円（税込み）
--------	--------------

※一般のCSCS認定試験受験料は、50,200円（税込み）。（認定校受験料は2022年度現在）

4) 以下は認定校の特典です。

- (1) 認定校生が、NSCAジャパン認定校CSCS特別認定試験を受験する場合は、出願前にNSCAジャパンに入会する必要がありません。
- (2) 認定校生が、在学中にCSCS特別認定試験を受験できなかった場合あるいは合格できなかった場合は、卒業後3年以内は、在籍した認定校のCSCS特別認定試験を、在校生と同じ条件で受験することができます。

教職課程の手引き

はじめに

教員免許を取得して将来教壇に立つためには、単に大学で授業を受けるだけではなく、免許取得に必要な科目を適切に選択し、教職課程に係るさまざまな手続きを滞りなく行う必要があります。また、教職課程を履修するためには単位数や成績、教員としてふさわしい生活態度などさまざまな条件を満たすことが求められます。これらをすべてクリアしていくためには、1年生の4月から4年生で卒業するまで、折に触れてこの教職課程の手引きを自分自身で確認し、教員免許取得に向けて自分が何をすべきなのか、しっかりと準備をしながら取り組むことが求められています。

あとから悔いを残すことがないように、最後までしっかり目を通してください。

1 教職課程について

1) 教職課程の意義と目的

あなたが将来正式な教員として学校の教壇に立つためには、教育職員免許状を取得しなければなりません。そのためには、文部科学省によって認定された教員免許取得のためのカリキュラムが設置された大学において、法律に定められた科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

法学部では、中学校教諭1種免許状（社会）と高等学校教諭1種免許状（公民）を取得することができます。

スポーツ科学部では、すべての学科において中学校教諭1種免許状（保健体育）と高等学校教諭1種免許状（保健体育）を、更にスポーツ教育学科では、小学校教諭1種免許状を取得することができます。

教員免許を取得するための科目は以下のカテゴリーに分かれます。

教科及び教科の指導法に関する科目	旧課程の「教科に関する科目」にあたる科目群です。 専門的知識・技能を習得するための科目が設定されています。 小学校であれば全ての科目、中学校・高等学校においては保健体育に該当する科目の知識、技能の習得を目指します。中学校・高等学校の場合は、設定されている科目のほとんどが実技や実習科目です。
教育の基礎的理解に関する科目	旧課程の「教職に関する科目」の一部にあたる科目群です。 教員として知っておかなければならない教育に関する基礎理論を修得するための科目が設定されています。また、旧課程とは違い特別支援教育の科目も追加され幅広い理論を学ぶこととなります。
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	旧課程の「教職に関する科目」の一部にあたる科目群です。 道徳教育、総合的な学習の時間、生徒指導などの指導法のほかカリキュラムや教育相談等に特化した基礎的科目が設定されています。
教育実践に関する科目	旧課程の「教職に関する科目」の一部に当たる科目群です。 実際に教育現場に出て実践的な学習を行います。 学校の教壇に立って授業を行う「教育実習」はこの科目に含まれます。
大学が独自に設定する科目	旧課程の「教科または教職に関する科目」にあたる科目群です。 旧課程と内容はほぼ同一で、各教科の専門領域に関する科目です。教育や発達にかかわる基礎的な知識を習得するための科目群となっています。 また、教育実践に関する科目に入る前の「学校体験実習」や、「学校インターンシップ」もこの科目に含まれます。

以上の各科目の履修を通じて、教員としてのごく基本的な知識・技能を習得することが教職課程の第一義です。しかし単に知識・技能の習得だけでなく、日々の授業の中で自らの教師としての適性を問い、教員を目指す意思を確かめることも教職課程の重要な目的の一つです。

教員には、担当する教科に関する専門的な知識・技能を習得しているのはもちろん、人間に対する洞察、社会についての幅広い理解、教育方法や技術、教育法規・教育制度に関する十分な知識等、様々な能力が求められます。皆さん自身が本学の教職課程において学ぶ中で、人を育てることの意義深さと魅力に気がつき、自ら立派な教員となることができるよう自分自身を磨き上げていく努力を惜しまぬことを強く希望します。

2) 本学が目指す教師像

本学教職課程は、児童・生徒に寄り添い、共に学びながら、子どもの学びへのモチベーションを高めることができる教師の養成を目指します。もう少し具体的にイメージするならば「子どもから相談される教師」です。

社会が激しく変化し、現代人の生活や労働のあり方も大きく変化する中で、子どもの生活・生育環境も大幅に変わりつつあります。そのような中、子どもの生活実態をつぶさに見てみると、日常生活において子どもが大人と接する機会はそれほど多くありません。

教師は親や保護者と並んで、日常的に子どもに接することができる数少ない大人なのです。そして子どもは、その大人を通して社会につながります。

教師は社会と子どもをつなぐ重要な接点でもあります。子どもが何か不安や悩み事を抱えたときに、それらを安心して相談できる大人が傍にいたら、どれほど心強いでしょうか。いつでも的確なアドバイスを示してくれたり、間違っていればきちんと叱ってくれる大人がいるということが、その子どもの自信を深めモチベーションを高めることにつながり、ひいては社会と未来への希望につながるものと考えます。

同時に、今日、学校教育や教師に対する社会の目は一段と厳しさを増しつつあります。教職に携わる者は子どもの人権を尊重しその安全を守り、高い倫理性を兼ね備えていなければなりません。また、保護者や地域社会に対する説明責任を果たす必要もあります。子どもからだけでなく、家庭や地域からの信頼をも得てこそ、学校教育はその効果を十分に発揮できるのです。そのためにも、本学教職課程における学習を通して教科に関する専門的知識や技能はもちろん、幅広い教養と人間性、適切な社会性と倫理性、そして行動力と協調性を兼ね備えた教師を養成したいと考えています。

3) 教職課程を履修するにあたっての心構え

理想的な教師とは、単に自分の専門とする教科についての知識に秀でているというだけではありません。教科についての専門的知識だけでなく、人間について深い理解があり、自然や歴史、社会に対する幅広く豊かな教養と経験があり、愛情豊かで、孤立せず、常に同僚・上司と明るく連携し問題解決に取り組むことが求められます。さらに、常に子どもの目線に立って行動を共にする中で彼らの将来を見据えた的確な指導ができる教師が理想と言えるでしょう。

しかし、皆さんがこのような教師をめざして教員免許を取得し、教員採用試験に合格すれば、それで一人前の教師として認められるということではありません。教師として教壇に立った時が本当のスタートラインになります。

「教師になったら勉強は終わり」ではなく、教師は常に学び続けていかなければならないのです。むしろ道を究めるための本当の学びは教師になったその日から始まると言えます。この点から言えば、教職課程も含めた大学4年間は教師になるためのトレーニングの場であると同時に、教師となった後も理想の教師を目指して自ら学び続けるための基礎的なスキルを身につける場でもあります。つまり、教材研究の方法、図書館の利用方法、本の探し方、レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの方法、PCの使い方等々、いわゆる「メタ学力」の向上を図る場でもあるのです。

教師になるための学びは、皆さん自身が「学ぶ」とはどういうことかについて十分な考えと心構えを持っていることがとても重要です。自ら学ばない者は、他の者を教えることなどできるはずはありません。「教えてもらう」という姿勢ではなく「自ら学ぶ」という姿勢こそが重要です。

4) 教員になるためには

(1) 教員免許状の取得

教員になるためにはまず、大学を卒業し学士号を取得します。しかしそれは基礎資格に過ぎません。教員免許状を取得するためには教職課程の科目を履修し、必要な単位を修得しなければなりません。

教員免許状の校種や免許教科によって授業科目は異なります。単位を修得すべき授業科目等は以下に記載されていますので熟読してください。修得できない単位が1単位でもあれば教員免許状を取得することはできません。

(2) “絶対に教員になる”という強い意志

さらに、教員免許状を取得してもまだ教員にはなれません。教員採用試験を受験しそれに合格しなければいけませんし、合格しても即採用ではありません。合格すると「採用予定候補者」として登録され、その後、学校や教育委員会の面接を経て採用となります。このように正規の教員として採用されるまでにはいくつものハードルを越えなければならないのです。そのためには“絶対に教員になる”という強い意志を持つ必要があります。

5) 本学で教育職員免許状を取得するための単位修得

教育職員免許状の取得には、以下の基礎資格ならびに教育職員免許法に基づき設置された科目の単位修得が必要です。

基礎資格等

免許状の種類	基礎資格	大学において修得することを必要とする 専門教育科目の最低単位数				
		教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等 に関する科目	教育実践 に関する 科目	大学が独 自に設定 する科目
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	30	10	10	7	2
中学校教諭一種免許状		28	10	10	7	4
高等学校教諭一種免許状		24	10	8	5	12

さらに、文部科学省令で定める科目（教育職員免許法施行規則第66条の6）についても単位修得が必要です（下表参照）。

免許法施行規則で定める科目及び単位	
科 目	単位数
日本国憲法	2
体育	2
外国語コミュニケーション	2
情報機器の操作	2

2 教職課程履修について

1) 教職課程履修の流れ

年次	時期	内容
1年	4月	教職課程履修オリエンテーション 教職課程仮登録
2年	4月	教職課程履修オリエンテーション 教職課程履修本登録 教職課程履修費納入
	11月	介護等の体験説明会 介護等の体験申込 介護等の体験費納入
	後期中	教育実習事務手続きに関する説明会
	2月～3年次5月	教育実習先訪問・決定
3年	4月	教職課程履修オリエンテーション 教職課程履修継続届の提出 教職課程履修費納入
	4月～	内諾依頼発行申請書提出
	7月～11月	介護等の体験事前指導
	7月～3月	介護等の体験 介護等の体験証明書提出
	3月～4月	教育実習事前指導
4年	4月	教職課程履修継続届提出 教職課程履修費納入
		教育実習履修手続きに関する説明会
	5月～	教育実習
	7月	公立学校 教員採用第一次試験
	7月～1月	教育実習事後指導
	10月	教員免許一括申請手続きに関する説明会
	12月	教員免許一括申請手数料納入
	3月	教員免許授与（卒業式当日）

※以上のスケジュールは変更される場合があります。

2) 教職課程履修オリエンテーション

教職課程を履修し、教育職員免許状の取得を希望する学生は、1年次に行うオリエンテーションに必ず出席してください。また、各学期ごとに行われる教職オリエンテーションに必ず出席してください。

3) 教職課程仮登録申込【1年次】

1年次では仮登録となり、オリエンテーションで配付する登録マニュアルを見て、Webで仮登録をしてください。仮登録をした学生に限り教職課程を履修することができます。

申込期間：前期履修申告期間の頃。(具体的日程は掲示にて連絡します。)
申込方法：Webで登録してください。

4) 教職課程登録申込・履修費納入【2年次】

1年次で仮登録をした学生のみ、2年次での本登録が可能です。2年次以降、教職課程の授業科目を履修するためには、教職課程履修費を納め、「教職課程登録申込」をWebでしなければなりません。この登録を行わない場合は、2年次以降、教職課程を履修することはできなくなりますので注意してください。

申込期間：前期履修申告期間の頃。(具体的日程は掲示にて連絡します。)
教職課程履修費：小学校と中学校または高等学校、もしくは3校種全ての免許状を取得する
為に教職課程を履修する場合…45,000円
(2年次15,000円、3年次15,000円、4年次15,000円)
小学校のみ、中学校のみ、高等学校のみ、中学校と高等学校の免許状を取得する
為に教職課程を履修する場合…30,000円
(2年次10,000円、3年次10,000円、4年次10,000円)
*一度納入した教職課程履修費は返還しません。
申込・納入方法：証明書自動発行機で教職課程履修費を納めた後、出力される用紙を見てWebで登録してください。

5) 3年次、4年次の教職課程の履修について

教職課程の履修を継続するには、3年次、4年次でそれぞれ定められた期日までに、証明書自動発行機で教職課程履修費を納め、「教職課程履修継続登録」をWebでしなければなりません。なお、教職課程履修費を納めず、「教職課程履修継続登録」をしなかった場合は教職課程を継続することができませんので注意してください。

納入期限：前期履修申告期間の頃。(具体的日程は掲示にて連絡します。)
納入方法：証明書自動発行機で教職課程履修費を納めた後、出力される用紙を見てWebで登録してください。

〈途中で取得希望免許の校種が変更になる場合の教職課程履修費納入例〉

- ① 2年次では“小学校”と“中学校”を希望して15,000円を納入。
3年次になり、“中学校”のみに変更した場合は3年次に10,000円、4年次にも10,000円納入しますが、差額5,000円の返金はしません。
4年次になって変更した場合も差額の10,000円は返金しません。
- ② 2年次では“中学校のみ”を希望して10,000円を納入。
3年次になり、“小学校”と“中学校”に変更した場合は3年次に15,000円と2年次に遡って不足分の5,000円の合わせて20,000円を納入し、4年次は15,000円を納入します。
4年次になって追加した場合は15,000円と不足分の10,000円の合計25,000円を納入しなければなりません。
つまり、3年次以降に小学校の免許を追加希望する場合でも、4年次までに45,000円納入しなければなりません。

6) 教職課程科目の履修

(1) 教職課程を履修するには

教職課程を履修するには前述の教職課程履修仮登録（1年次）、本登録申込手続き（2年次）、3年次以上は継続の登録をします（2年次以上は教職課程履修費が必要です）。
また、定められた履修申告期間内に、通常の授業とともに履修申告を行います。

(2) 教職課程に関わる履修申告上の注意

- ① 教職科目が自由科目である場合は履修上限単位に含まれない等、履修上の注意があります。学部・学科によって異なるので確認してください。法学部は教職に関する科目は履修上限単位に含まれません。
- ② 教職に関する科目については履修年次に従って履修し、単位を修得してください。履修登録を怠ったり、単位を落とすなどで標準の履修年次に単位を修得できない場合、授業時間割によっては4年間で免許を取得することができなくなります。
- ③ 介護等の体験は授業ではないので履修申告はありませんが、別途申込が必要です。手続きについては70ページ「3 介護等の体験について」を確認してください。
- ④ 集中講義で開講される科目もあるので、時間割を確認の上、履修申告をしてください。集中講義の履修申告は別に定めますから、掲示に注意してください。

(3) 教職課程の履修を開始する学生へ

免許状取得のための要件は「教育職員免許状取得要件」の通りですが、本学の教職課程は1年次より開講されています。教育実習参加資格、免許取得要件を満たすためには1年次から計画的に履修することが望まれます。しっかりと履修をして単位を修得してください。

(4) 介護等の体験・教育実習に参加する学生へ

介護等の体験、教育実習では、体験・実習先の児童または生徒や施設利用者の氏名など個人に関する情報を知ることがありますが、実習中はもちろんのこと、実習後も決して外部にもらすこと（SNSへの書き込み等を含む）の無いよう十分注意して、必ず指導教員の指示に従ってください。

7) 卒業後に教育職員免許状を取得する場合

卒業までに取得要件を満たせない場合や、卒業後に他学部、他学科の免許種の取得を希望する場合は、本学の科目等履修生（大学院に在籍していても可）として、あるいは他大学の通信課程等で不足する単位を修得すれば免許状を取得することができます。また、卒業時までに、免許取得要件を満たしている場合で卒業後に他学科の免許種を新たに取得希望する場合は、教員養成プログラムを受けることができます。詳細については学務部までお問い合わせください。

8) 取得希望の免許種を変更する場合

本登録・継続手続き時に取得希望免許種を選択していますが、そこから変更になった学生は変更届を提出する必要があります。

例1) 本登録時・継続時は「小学校、中学、高校」を希望していたが、後期から小学校免許をあきらめて「中学と高校」の2つにする場合

例2) 本登録時・継続時は「中学、高校」を希望していたが、介護等の体験を実施できなかったため「高校」のみにする場合

9) 教職課程の履修を途中で取り止めるとき

何らかの理由で教職課程の履修を中止するときは、教職課程担当教員と面談の上、「教職課程履修辞退届」を学務部に必ず提出してください。

10) 他学部で取得できる免許状を希望する場合

他学部履修によって他学部で取得できる免許状を取得するためには厳しい条件があります。また、在学する学部で取得できる免許状を取得せずに、他学部で取得できる免許状のみを取得することはできません。

教職の他学部履修を希望する場合は、学務部に申し出て相談してください。

3 介護等の体験について（小・中学校免許希望者のみ）

1) 介護等の体験とは

「介護等体験に関する特例法」（1998年4月施行）により、小学校・中学校教諭免許状を取得するために7日間の介護等の体験を行うことが義務付けられました。介護等の体験を行わないと、小学校・中学校の免許状を取得することはできません。

2) 対象学生

教職課程を履修していて、小学校・中学校の教育職員免許状取得を希望する学生

3) 対象年次

原則として3年次に行います。

4) 参加条件

介護等体験に参加するには次の前提条件を満たしている必要があります。

- ・ 2年次前期までのGPA2.2以上

ただし、介護等の体験資格の有無についての最終的な決定は、大学で行われるガイダンス、説明会の出席状況や態度、講義の受講態度など総合的に確認し教職課程委員会において判断します。その結果については掲示にて発表します。発表時期についても別途連絡します。

5) 申込時期

2年次の秋頃に介護等の体験に関する説明会を開催します。この時点で再度、自分はどの校種の免許を取得するのかよく考えてください。小学校・中学校の教諭免許状を取得すると決めた学生は、定められた期日までに体験費用を納め、申込書を学務部に提出してください。なお、説明会の日程については掲示でお知らせします。

申込期間	: 説明会で連絡
体験費	: 10,000円
申込・納入方法	: 証明書自動発行機で体験費を納めた後、出力される用紙を見てWebで登録してください。

6) 体験日数ならびに体験先

神奈川県内特別支援学校にて2日間、指定された社会福祉施設にて5日間、計7日間。

7) 体験期間

7月～3月の間で受入先の学校・施設等の指定する日。期間の決定次第、参加者に直接お知らせします。

8) 介護等の体験の内容

- (1) 高齢者、障害者に対する介護、介助の手助け
- (2) 児童に対する学習指導やスポーツの手助け
- (3) 散歩の付添いなどの交流等の体験
- (4) レクリエーションや運動会等の行事の手助け
- (5) 福祉施設の業務の手助けなどの体験

9) 事前指導

体験を行う前に申込者を対象に事前指導を行います。本学の教員ならびに学外の講師などから体験を行うにあたっての注意事項等、重要な指導があるので必ず出席して下さい。欠席した場合、介護等の体験に参加することができません。

事前指導の日程については掲示でお知らせします。

10) 介護等の体験証明書

体験先の神奈川県内特別支援学校及び社会福祉施設において記載事項の内容、捺印を確認の上、「介護等の体験証明書」を発行して頂いてください。但し、体験先の機関が直接本学に郵送する場合があります。この証明書は教育職員免許状一括申請時に必要となるので、体験終了後に体験先の機関から直接渡された場合は速やかに提出してください。紛失した場合は再発行できず免許申請が行えない可能性があります。

なお、介護等の体験証明書は卒業時に返却します。

11) 介護等の体験日誌について

体験時には忘れずに携帯し、全ての体験終了後は各自で大切に保管してください。体験日誌は「教職実践演習（小・中・高）」で使用します。

12) 介護等の体験の辞退・日程変更

申込後の日程変更はできません（クラブ活動・就職活動等の理由も含む）。やむを得ない事情により辞退する場合は直ちに申し出てください。辞退により受入先の学校や施設等に多大な迷惑がかかります。辞退することの無いよう、よく考えてから申し込みをしてください。

* 申込後辞退をした場合は、いかなる理由でも体験費用の返還はしません。

13) 介護等の体験期間中の授業欠席について

介護等の体験期間中は授業に出席することはできませんので、欠席する授業の教員に事情を説明して下さい（欠席届を提出することができます）。

14) 健康診断の受診ならびに麻疹等の予防について

介護等の体験に参加するにあたって、体験先によっては健康診断書の提出が求められる場合があります。また、麻疹等の流行の状況によっては、あらかじめ抗体検査の結果の提出や予防接種が求められる場合があります。掲示等での連絡に注意してください。

4 教育実習について

1) 教育実習とは

教育実習とは教育職員免許状取得に必要な要件であり、それまでに学んだ知識をもとに一定期間大学を離れ、実際に教壇に立ち、教員としての知識や技能を現場の学校長ならびに指導教員のもとで習得することを目指すものです。

2) 教育実習参加条件

教育実習を履修するためには、原則として「事前・事後指導」と「教育実習」と「教職実践演習」を除く、**教育職員免許状取得のための授業科目の未修得が3年次終了時点で1科目以下でなければなりません**。なお、**3年次前期までのGPA2.3以上**、さらに、**3年次終了時点で修得単位が卒業見込証明書発行基準に達している**ことが前提条件となります。

教育実習実施についての最終的な決定は、大学内でのガイダンス、説明会、講義の受講態度など総合的に確認し教職課程委員会において判断します。

なお、前提条件について3年次前期、後期の成績発表で必ず確認し、教育実習の辞退が必要な場合はすみやかに手続きを行ってください。

また、教育実習を履修する年には、「事前・事後指導」・「教職実践演習」も必ずセットで履修してください。

3) 教育実習校

原則として出身校で行います。但し、事情により出身校での実習が困難な場合は相談してください。また、一部の地域においては教育委員会が実習先を決定する場合があります。

4) 教育実習時期ならびに期間

教育実習は例年5月から6月に行うことが多いですが、秋に行う場合もあります。詳細については実習校の指示に従ってください。実習期間は以下の表のとおりです。

小学校の免許状を取得したい学生は**必ず小学校での教育実習を行います**。小学校と中学校または高等学校の免許状を取得したい場合は“小学校”と“中学校または高等学校”の2校において教育実習を行わなければなりません。

希望校種	期 間	対象学科
小学校のみ	小学校に4週間	スポーツ教育学科
小学校+中学校	小学校に4週間と 中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科
小学校+高等学校	小学校に4週間と 中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科
小学校+中学校+高等学校	小学校に4週間と 中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科
中学校+高等学校	中学校または高等学校で3週間以上	法学部法律学科 スポーツ教育学科 スポーツ健康科学科
中学校のみ	中学校または高等学校で3週間以上	法学部法律学科 スポーツ教育学科 スポーツ健康科学科
高等学校のみ	2週間以上	法学部法律学科
	中学校または高等学校で3週間以上	スポーツ教育学科 スポーツ健康科学科

(実習期間は実習校により変わることがあります。)

5) 2～3年次における教育実習へ向けての手続き

教育実習は4年次に行いますが、2・3年次より準備を開始する必要があります。この準備を怠ると教育実習先が決まらず、結果的に免許状を取得できないというケースに陥る可能性がありますので計画的に手続きを進めてください。

また、日ごろから出身校とコンタクトをとっておくとよいでしょう。

教育実習の手続きについては、2年次の後期定期試験終了後に実施するガイダンスにおいて資料を渡し、説明します。

6) 教育実習履修の手続き（4年次）

教育実習履修手続きに関する説明会を4年次初めに行います。前年度（3年次）に実習校から内諾をいただき、かつ、教職課程履修継続届（4年次）を提出している学生に対して、必要書類を配付します。

7) 教育実習の日程

3年次に実習校から内諾をいただいた場合、4年次の4月中旬ごろに本学より承諾の依頼を文書にて行い、承諾書が返送されてくると正式に教育実習先が決定したことになります。その時点で学務部より教育実習の日程や、実習校で行われる事前指導日などの連絡をします。

8) 教育実習用通学定期券について

自宅より教育実習先まで鉄道を利用する場合、実習用通学定期券を購入することができます。但し、通常の方法で購入することはできません。詳細については学生部で確認してください。

9) 教育実習中の注意事項

教育実習は実習校側の好意で受け入れていただいていることを忘れないようにして教育実習に集中してください。くれぐれも体調に気をつけて欠勤・遅刻・早退のないようにしてください。教育実習期間中の就職活動（就職試験や面接、就職説明会への参加）や大学のクラブ活動（練習・試合等）、アルバイトは厳禁です。また、携帯電話やインターネットのブログ、ツイッター、フェイスブック、LINE等で教育実習に関する情報を発信することは、守秘義務違反や個人情報保護違反となる可能性があります。これらの行為が見られた場合、実習中止処分となる場合があります。

10) 教育実習の辞退について

内々諾、内諾後に教育実習を辞退することになると、辞退により受け入れ先の実習校に多大な迷惑をかけることとなります。進路の変更、参加条件を満たすことができなかった、禁止される行為を行って中止となった場合など、やむを得ない理由で教育実習を辞退することになった場合、すみやかに教職課程委員会に報告してください。その後ゼミ指導担当教員にも報告し、教員より実習校に連絡し、すみやかに実習校へ謝罪訪問を行うとともに、「教育実習辞退願」を学務部に提出してください。

11) 教育実習日誌について

教育実習終了後、教育実習日誌を実習校から返却されたら、各自で大切に保管してください。実習日誌は「事前・事後指導」、「教職実践演習（小・中・高）」などの授業で使用します。

12) 教育実習中の授業欠席について

教育実習中は授業への出席はできないので、欠席する授業の教員に事情を説明してください（欠席届を提出することができます）。

13) 健康診断の受診ならびに麻疹の予防について

教育実習を行うには健康診断を受ける必要があります。

また、一部の学校等においては、教育実習開始までに医療機関で抗体検査を受けることを求められる場合があります。抗体が無いと診断された場合は予防接種を受けてください。その後、抗体があるということが証明できる書類または予防接種をしたことを証明する書類を提出してください。

5 教育職員免許状申請手続き

教育職員免許法で定められている教育職員免許状取得の所要資格を満たした場合は、神奈川県教育委員会に申請することにより、免許状を取得することができます。申請の方法は次の2つの方法がありますが、卒業式当日に免許状を取得するには一括申請をしなければなりません。

1) 一括申請

本学卒業（修了）予定者で、教育職員免許状取得の所要資格を有する見込がある場合は、在学中に免許状の授与申請をすることができます。

本学が神奈川県教育委員会に一括申請することによって、卒業式当日に免許状が交付されます。この一括申請の手続きを行わないと卒業式当日に免許状を取得することができません。

4年次の10月に教育職員免許状授与手続きについての説明会を開催します。その際、「教育職員免許状授与等申請書」を作成して頂きますので必ず出席してください。説明会の日程については掲示にて連絡します。

申請にあたり、手数料として1教科あたり3,300円必要です。納入方法や時期等は掲示にてお知らせします。

例：小学校＋中学校＋高等学校の免許状の申請は9,900円

2) 個人申請

一括申請をしなかった場合、もしくは一括申請の対象から外れた場合（要件単位を満たしていない、卒業できない等）は個人で申請をして頂きます。

個人申請は卒業年の4月以降の申請となります。

手続方法：各自で4月以降に、居住する都道府県の教育委員会へ申請

各教育委員会により手続きや提出書類が異なるので、必ず教育委員会へ問い合わせをしてください。

※免許状は各都道府県教育委員会が授与するものであり、本学が交付するものではありません。

うっかり紛失してしまった場合には再発行できませんので取扱には十分注意してください。（授与証明書を申請できますので教育委員会に問い合わせてください）

破損・汚損や火災などで焼失してしまった場合は再発行できることがありますので教育委員会に確認してください。

6 教員採用試験について

教員になるためには、教員免許状を取得するのに加えて、教員採用試験を受験し合格しなければなりません。但し、教員採用試験は教員免許状を取得する前の4年次夏に行われます。まずは、試験を受ける各自治体の試験科目や倍率などを把握しておきましょう。試験内容は各自治体によって異なりますが、教職教養、一般教養、論文、面接などはどの自治体でも行われています。

本学では教員採用試験対策講座を開講しています。くわしくは教職課程担当教員または教職指導室へ問い合わせをしてください。

尚、私立学校の場合は学校によって採用方法等が異なりますので、各自で確認してください。

大学推薦特別枠に関して

大学推薦とは、各自治体が大学に対しある一定の推薦基準を設け、それを満たしている学生を大学が推薦し、教員採用試験を受験する制度です。

この推薦は、3年次の2月下旬から3月中旬にかけて大学内にて選考（学科・面接）が実施されます。各自治体に設けられた推薦基準（成績等）を満たし、学内選考の結果を参考に推薦する学生が決定しますが、志願する前提条件として、3年次後期終了時に、事前・事後指導、教育実習、教職実践

演習を除く全ての教職に関係する単位を取り終えていること、並びに介護等の体験を実施していることが必須となります。

手続の詳細は、I号館2階の教職情報運営室にお問い合わせください。

7 教職科目一覧表

7-1. 小学校一種免許、中・高一種免許（保健体育）資格

基礎資格等

●…必修 ○…選択必修

免許状の種類		所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする 専門教育科目の最低単位数				
				教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総合 的な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	教育実践 に関する 科目	大学が独 自に設定 する科目
小学校教諭	一種免許状		学士の学位	30単位	10単位	10単位	7単位	2単位
保健体育	中学校教諭	一種免許状		28単位	10単位	10単位	7単位	4単位
	高等学校教諭	一種免許状		24単位	10単位	8単位	5単位	12単位

免許法施行規則で定める科目

免許法施行規則で定める 科目及び単位数		大学が定める 科目	対応する授業科目	単位数	備 考
科 目	単位数				
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ボディワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
外国語 コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーション I	2	
情報機器の操作	2	●	桐蔭スキルゲート	2	

■ 小学校一種免許

● … 必修 ○ … 選択必修

免許法施行規則で定める科目（必ず履修しなければなりません）					
科 目	必要 単位数	大学が定める 科目	対応する授業科目	単位数	修得チェック
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ポティワーク2（体操：体づくり運動、集団行動）	1	
外国語コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーション I	2	
情報機器の操作	2	●	桐蔭スキルゲート	2	

教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目（以下の科目全てを履修してください。）					
教職科目群	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科 目 名	単 位	修得チェック
教育の基礎的理解に 関する科目	10	●	教師論（初等を含む）	2	
		●	教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	
		●	教育心理学（初等を含む）	2	
		●	特別支援教育指導論（初等を含む）	2	
		●	教育社会論（初等および学校安全を含む）	2	
道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	12	●	道徳教育指導論（初等を含む）	2	
		●	特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む）	2	
		●	教育方法論（初等を含む）	2	
		●	ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	2	
		●	児童生徒指導論	2	
		●	教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	2	
教育実践に関する科目	5	●	事前・事後指導（初等）	1	
		●	教育実習（初等）	4	
	2	●	教職実践演習（初等を含む）	2	

教科及び教科の指導法に関する科目 (以下の科目全てを履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科 目 名	単 位	修得チェック
教科及び教科の指導法に関する科目	33	●	人文科学系教科総論	2	
		●	社会科学系教科総論	2	
		●	自然科学系教科総論	2	
		●	国語概論 (書写を含む)	1	
		●	教科指導法 (国語)	1	
		●	算数概論	1	
		●	教科指導法 (算数)	1	
		●	理科概論	1	
		●	教科指導法 (理科)	1	
		●	社会科概論	1	
		●	教科指導法 (社会)	1	
		●	生活概論	1	
		●	教科指導法 (生活)	1	
		●	外国語概論	1	
		●	教科指導法 (外国語)	2	
		●	音楽概論	2	
		●	教科指導法 (音楽)	2	
		●	図画工作概論	1	
		●	教科指導法 (図画工作)	1	
		●	家庭概論	1	
●	教科指導法 (家庭)	1			
●	小学体育 I	1			
●	小学体育 II	1			
●	小学体育 III	2			
●	教科指導法 (体育)	2			

*教科指導法の履修に際し各教科に該当する概論を履修済みであること。

大学が独自に設定する科目 (以下の科目から2単位以上になるように履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める 必要単位数	大学が定める 科目	科 目 名	単 位	修得チェック
大学が独自に設定する科目	2	○	生涯スポーツ論	2	
		○	障害者スポーツ論	2	
		○	スポーツ教育学	2	
		○	学校体験実習 (小学校)	1	
		○	学校インターンシップ実習	1	
		○	スポーツマネジメント論	2	

■ スポーツ教育学科 中・高一種免許（保健体育）

● … 必修 ○ … 選択必修

免許法施行規則で定める科目（必ず履修しなければなりません）					
科 目	必要単位数	大学が定める科目	対応する授業科目	単位数	修得チェック
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ボディーワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
外国語コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーションⅠ	2	
情報機器の操作	2	●	桐蔭スキルゲート	2	

教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目（以下の科目全てを履修してください。）					
教職科目群	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科 目 名	単 位	修得チェック
教育の基礎的理解に関する科目	10	●	教師論（初等を含む）	2	
		●	教育原理・教育課程論（初等を含む）	2	
		●	教育心理学（初等を含む）	2	
		●	特別支援教育指導論（初等を含む）	2	
		●	教育社会論 (初等および学校安全を含む)	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中 12 高 10	●	中学 ● 道徳教育指導論（初等を含む）	2	
		●	特別活動・総合的な学習の時間指導法 (初等を含む)	2	
		●	教育方法論（初等を含む）	2	
		●	ICT活用スキルの理論と実際 (初等を含む)	2	
		●	児童生徒指導論	2	
		●	教育相談・キャリア教育指導論 (初等を含む)	2	
教育実践に関する科目	中 5 高 3	●	事前・事後指導（中・高）	1	
		○	教育実習（中学校）※ ¹	4	
		○	教育実習（高校）※ ²	2	
	2	●	教職実践演習（初等を含む）	2	

教科及び教科の指導法に関する科目						
教職科目群（区分）	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科 目 名	単 位	修得チェック 中34/高30	
教科及び教科の指導法に関する科目	中 34 高 30	●	体育科教育法	2		
		●	保健科教育法	2		
		○	保健体育授業演習Ⅰ	2		
		○	保健体育授業演習Ⅱ	2		
		○	保健体育授業演習Ⅲ	2		
		●	ボディーワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1		
		●	陸上競技	1		
		●	器械運動	1		
		●	水泳	1		
		○ この4科目 より 1科目選択	○	サッカー	1	
			○	バスケットボール	1	
			○	ハンドボール	1	
			○	ラグビー	1	

※¹ 中・高両方取得の場合

※² 高校免許のみ取得の場合

●…必修 ○…選択必修

教科及び教科の指導法に関する科目					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック 中34/高30
教科及び教科の指導法に関する科目	中 34 高 30	○ この4科目 より 1科目選択	バレーボール	1	
			テニス	1	
			バドミントン	1	
			ソフトボール・野球	1	
		○ この2科目 より 1科目選択	剣道	1	
			柔道	1	
		●	ダンス	1	
		○	体づくり運動指導法	2	
		○	器械運動指導法・コーチング論	2	
		○	ゴール型球技指導法・コーチング論	2	
		○	水泳指導法・コーチング論	2	
		○ 中学校取得 希望者は、 2科目以上 選択	陸上競技指導法・コーチング論	2	
			ネット型球技指導法・コーチング論	2	
			ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	
			武道指導法・コーチング論	2	
		●	スポーツ哲学	2	
			スポーツ心理学	2	
			スポーツマーケティング論	2	
			スポーツ社会学	2	
			スポーツ史	2	
			○ この2科目 より 1科目選択	スポーツバイオメカニクス	2
		●	機能解剖学 I	2	
			身体の仕組みと働き	2	
衛生学・公衆衛生学	2				
学校保健・学校安全	2				

大学が独自に設定する科目 (以下の科目から中学校は4単位、高等学校は12単位履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック 中4/高12
大学が独自に設定する科目	中 4 高 12	○	運動部活動論	2	
		○	生涯スポーツ論	2	
		○	スポーツ教育学	2	
		○	障害者スポーツ論	2	
		○	コーチング学	2	
		高校 ●	道徳教育指導論 (初等を含む)	2	
		○	学校体験実習 (中・高)	1	
		○	学校インターンシップ実習	1	
		○	スポーツマネジメント論	2	

■ スポーツ健康科学科 中・高一種免許（保健体育）

● … 必修 ○ … 選択必修

免許法施行規則で定める科目（必ず履修しなければなりません）					
科 目	必要単位数	大学が定める科目	対応する授業科目	単位数	修得チェック
日本国憲法	2	●	法学	2	
体 育	2	●	陸上競技	1	
		●	ボディーワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1	
外国語コミュニケーション	2	●	英語コミュニケーション I	2	
情報機器の操作	2	●	桐蔭スキルゲート	2	

教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目（以下の科目全てを履修してください。）					
教職科目群	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科 目 名	単 位	修得チェック
教育の基礎的理解に関する科目	10	●	教師論	2	
		●	教育原理・教育課程論	2	
		●	教育心理学	2	
		●	特別支援教育指導論	2	
		●	教育社会論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中 12 高 10	中学 ●	道徳教育指導論	2	
		●	特別活動・総合的な学習の時間指導法	2	
		●	教育方法論	2	
		●	ICT活用スキルの理論と実際	2	
		●	生徒指導論	2	
		●	教育相談・キャリア教育指導論	2	
教育実践に関する科目	中 5 高 3	●	事前・事後指導（中・高）	1	
		○	教育実習（中学校）※ ¹	4	
		○	教育実習（高校）※ ²	2	
	2	●	教職実践演習	2	

教科及び教科の指導法に関する科目						
教職科目群（区分）	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科 目 名	単 位	修得チェック 中34/高30	
教科及び教科の指導法に関する科目	中 34 高 30	●	体育科教育法	2		
		●	保健科教育法	2		
		○	保健体育授業演習 I	2		
		○	保健体育授業演習 II	2		
		○	保健体育授業演習 III	2		
		●	ボディーワーク2 (体操：体づくり運動、集団行動)	1		
		●	陸上競技	1		
		●	器械運動	1		
		●	水泳	1		
		○ この4科目より 1科目選択	○	サッカー	1	
			○	バスケットボール	1	
			○	ハンドボール	1	
			○	ラグビー	1	

※¹ 中・高両方取得の場合

※² 高校免許のみ取得の場合

教科及び教科の指導法に関する科目					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック 中34/高30
教科及び教科の指導法に関する科目	中 34 高 30	○ この4科目 より 1科目選択	バレーボール	1	
			テニス	1	
			バドミントン	1	
			ソフトボール・野球	1	
		○ この2科目 より 1科目選択	剣道	1	
			柔道	1	
		●	ダンス	1	
		○	体づくり運動指導法	2	
		○	器械運動指導法・コーチング論	2	
		○	ゴール型球技指導法・コーチング論	2	
		○	水泳指導法・コーチング論	2	
		○ 中学校取得 希望者は、 2科目以上 選択	陸上競技指導法・コーチング論	2	
			ネット型球技指導法・コーチング論	2	
			ベースボール型球技指導法・コーチング論	2	
			武道指導法・コーチング論	2	
		●	スポーツ哲学	2	
			スポーツ心理学	2	
			スポーツマーケティング論	2	
			スポーツ社会学	2	
			スポーツ史	2	
			○ この2科目 より 1科目選択	スポーツバイオメカニクス	2
		●	機能解剖学 I	2	
			身体の仕組みと働き	2	
衛生学・公衆衛生学	2				
学校保健・学校安全	2				

大学が独自に設定する科目 (以下の科目から中学校は4単位、高等学校は12単位履修してください。)					
教職科目群 (区分)	大学が定める必要単位数	大学が定める科目	科目名	単位	修得チェック 中4/高12
大学が独自に設定する科目	中 4 高 12	○	運動部活動論	2	
		○	生涯スポーツ論	2	
		○	スポーツ教育学	2	
		○	障害者スポーツ論	2	
		○	コーチング学	2	
		高校 ●	道徳教育指導論	2	
		○	学校体験実習 (中・高)	1	
		○	学校インターンシップ実習	1	
		○	スポーツマネジメント論	2	

2023年度

資料編

校舎平面図

84

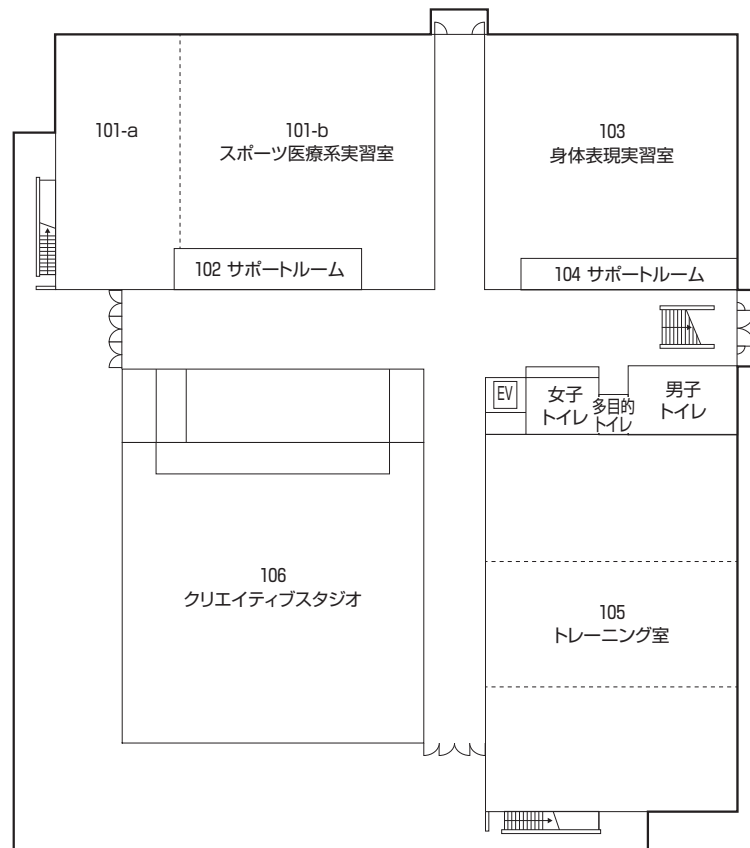
キャンパスマップ

102

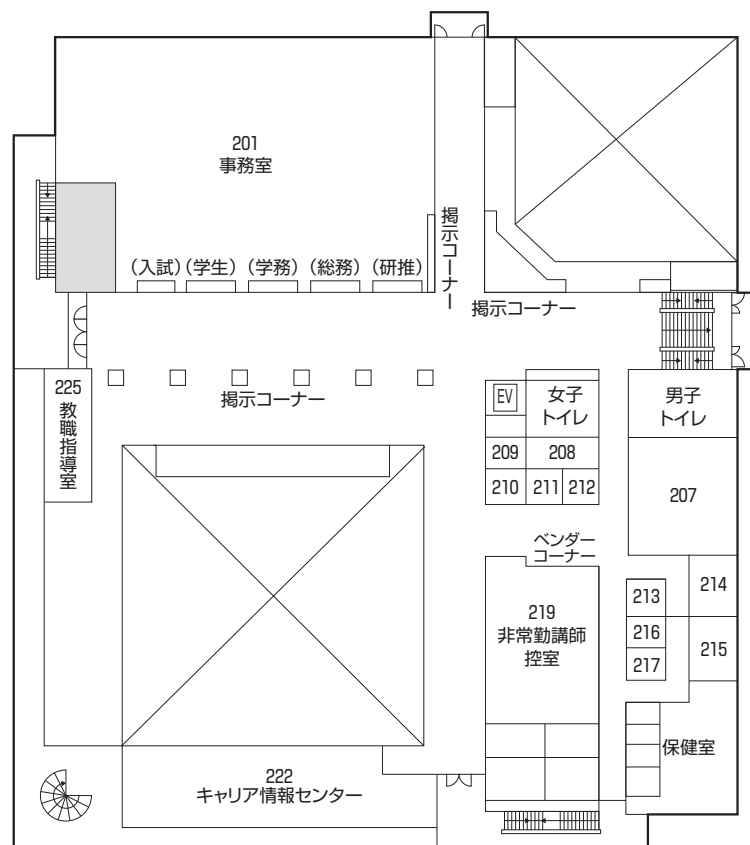
校舎平面図

I号館

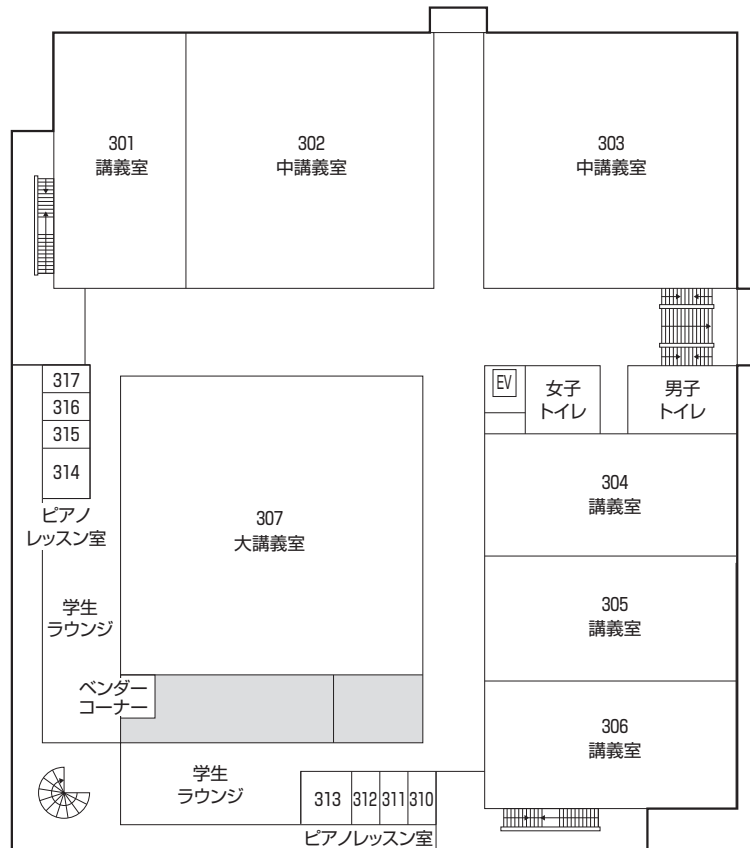
<1階>



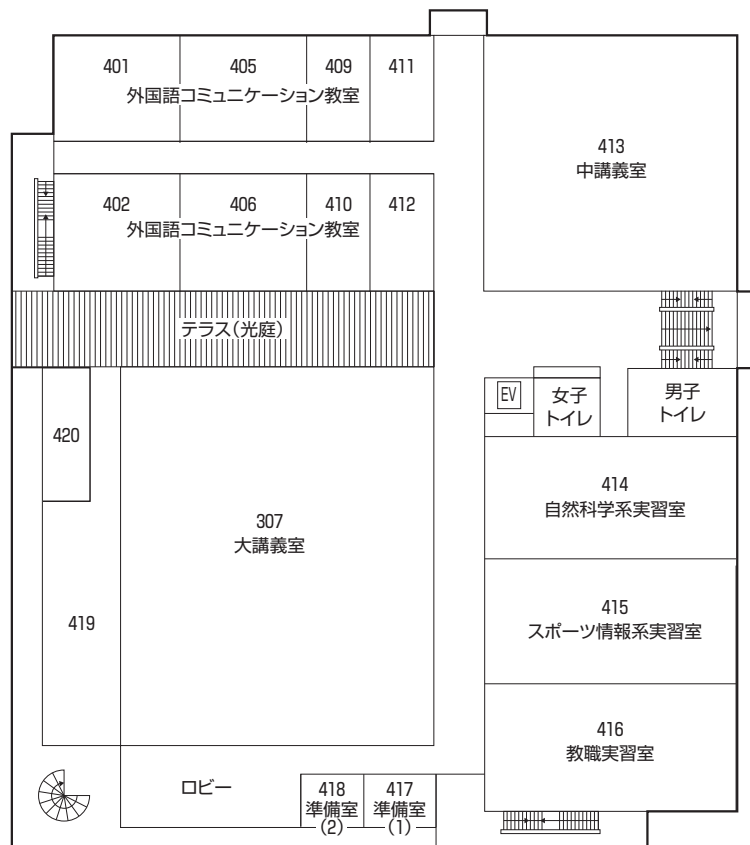
<2階>



〈3階〉

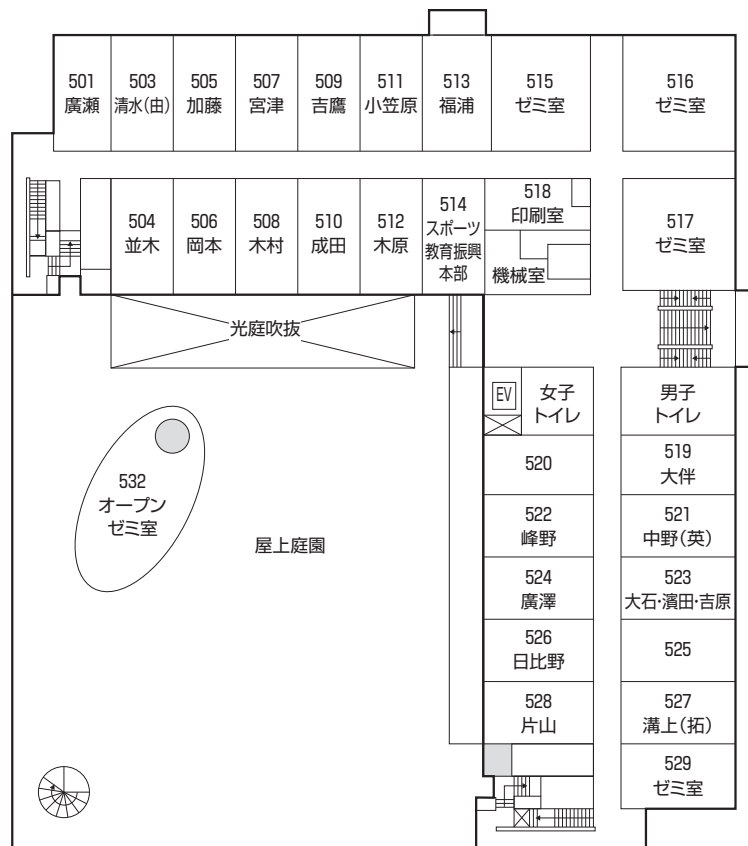


〈4階〉

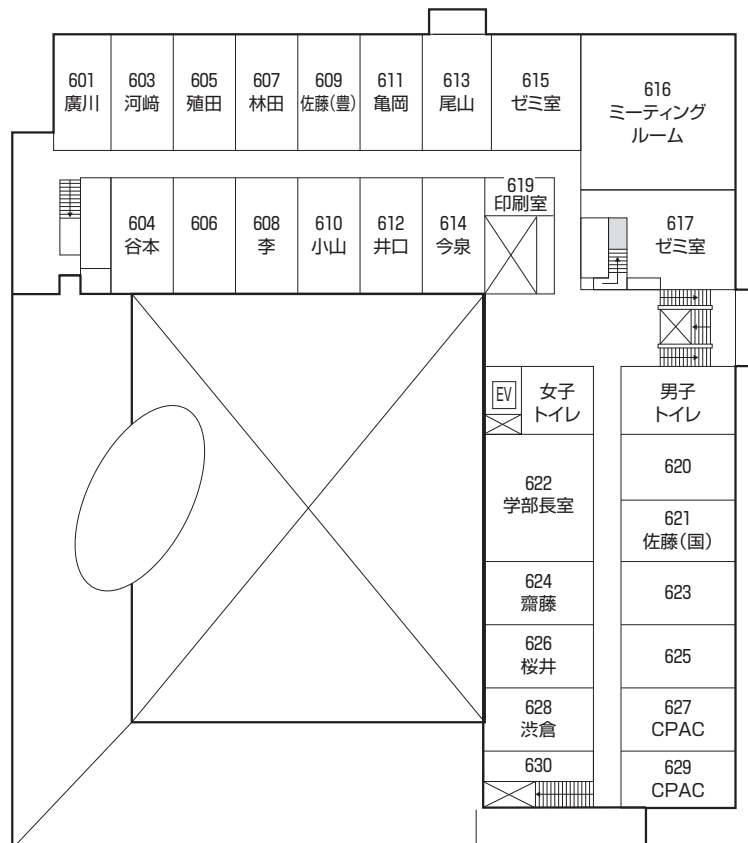


※学生が利用しない場所は
アミがけにしております。

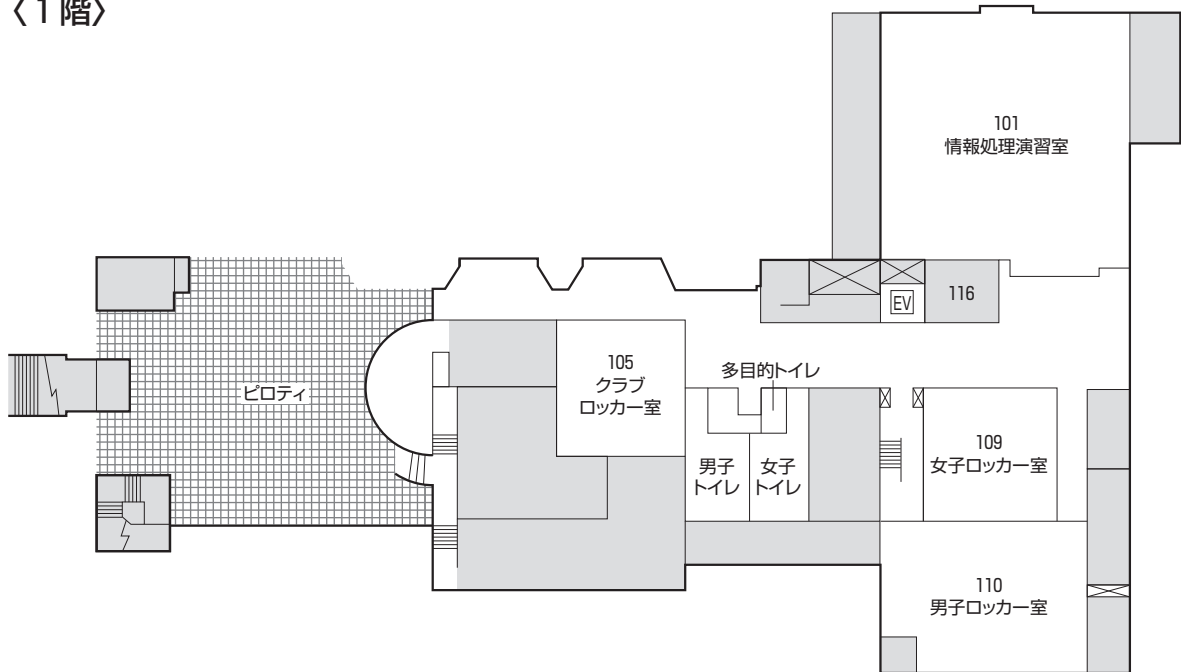
< 5階 >



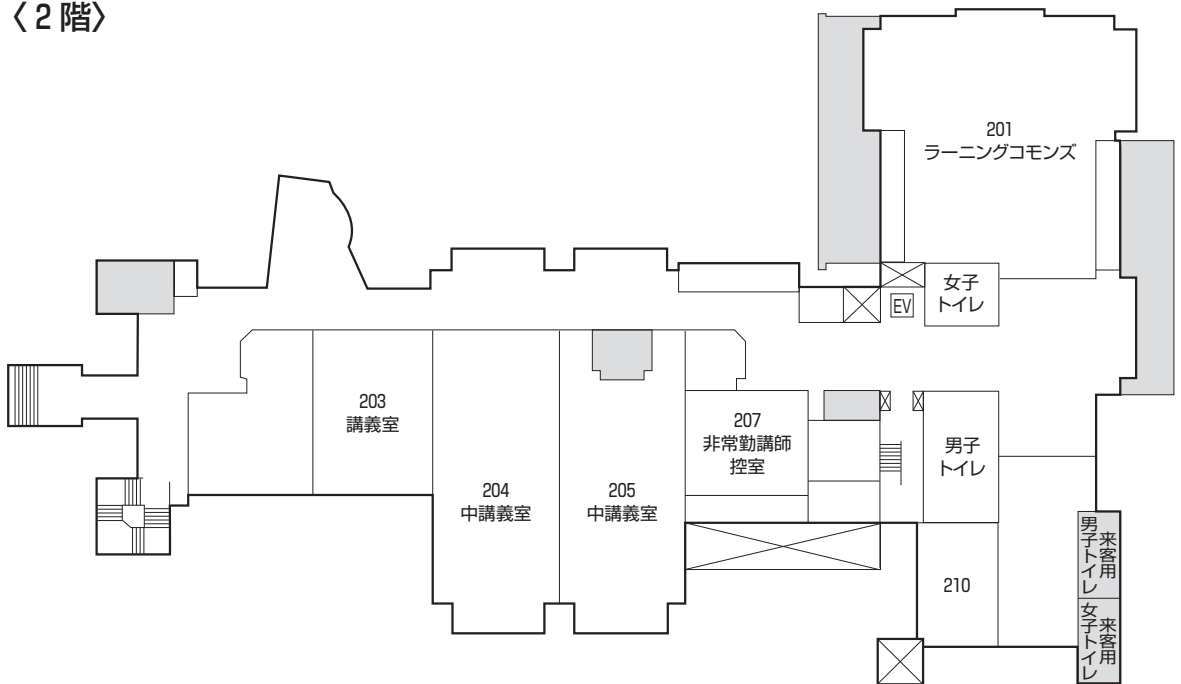
< 6階 >



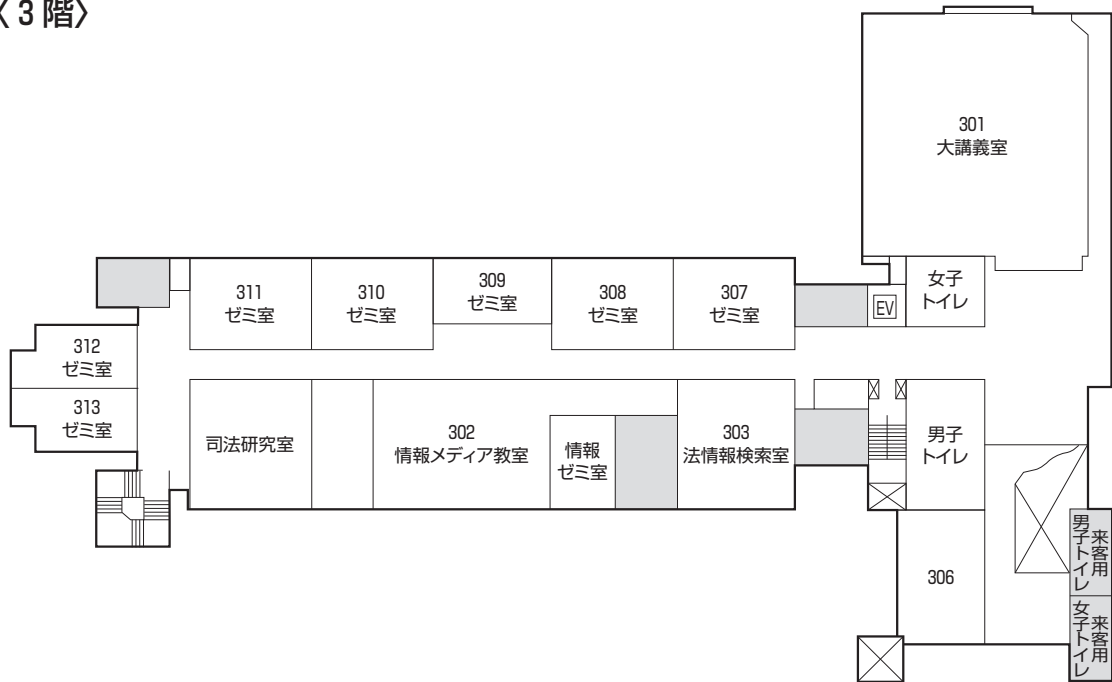
〈1階〉



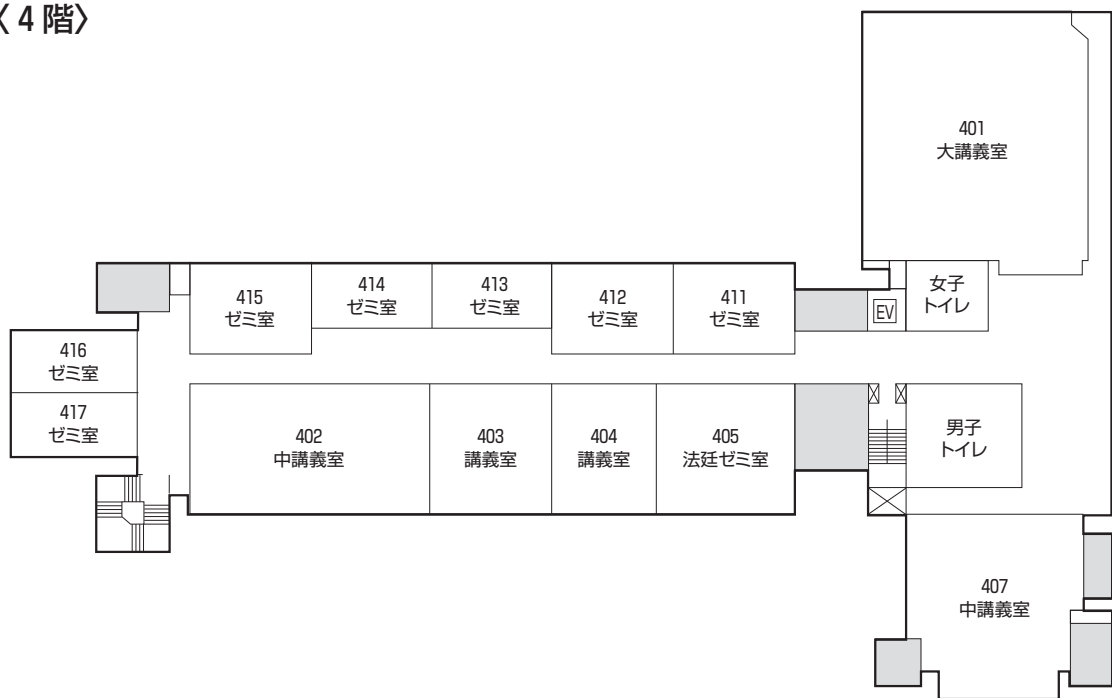
〈2階〉



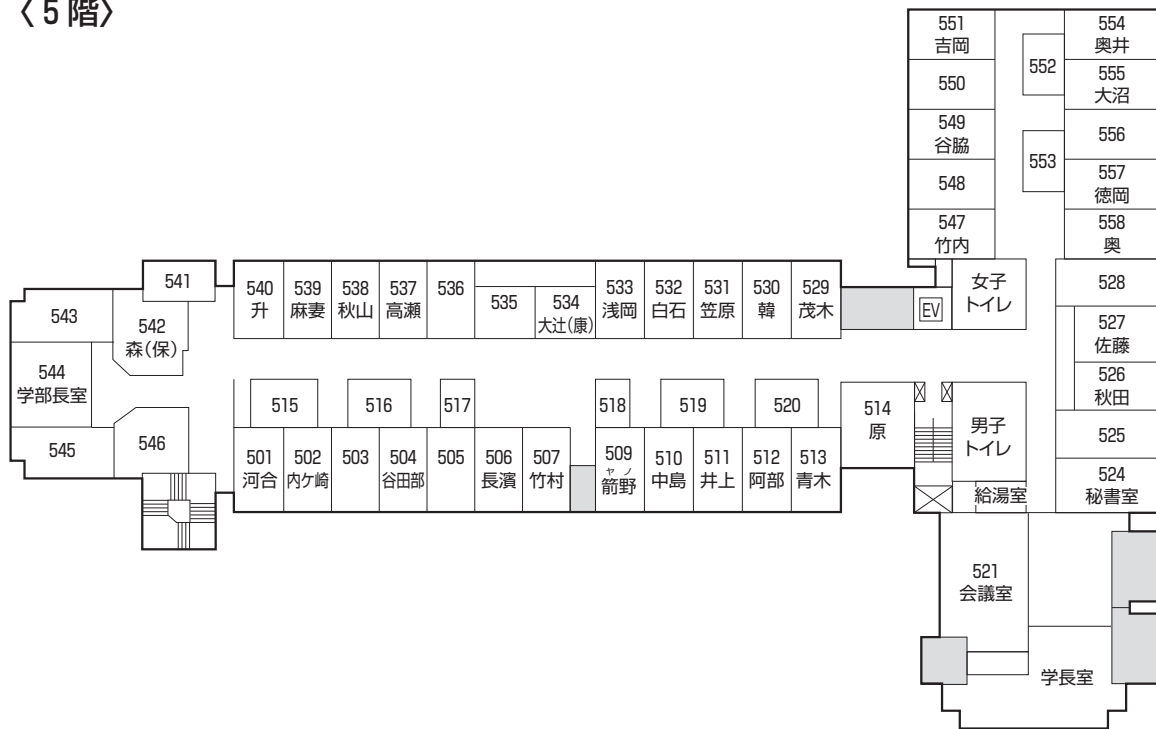
〈3階〉



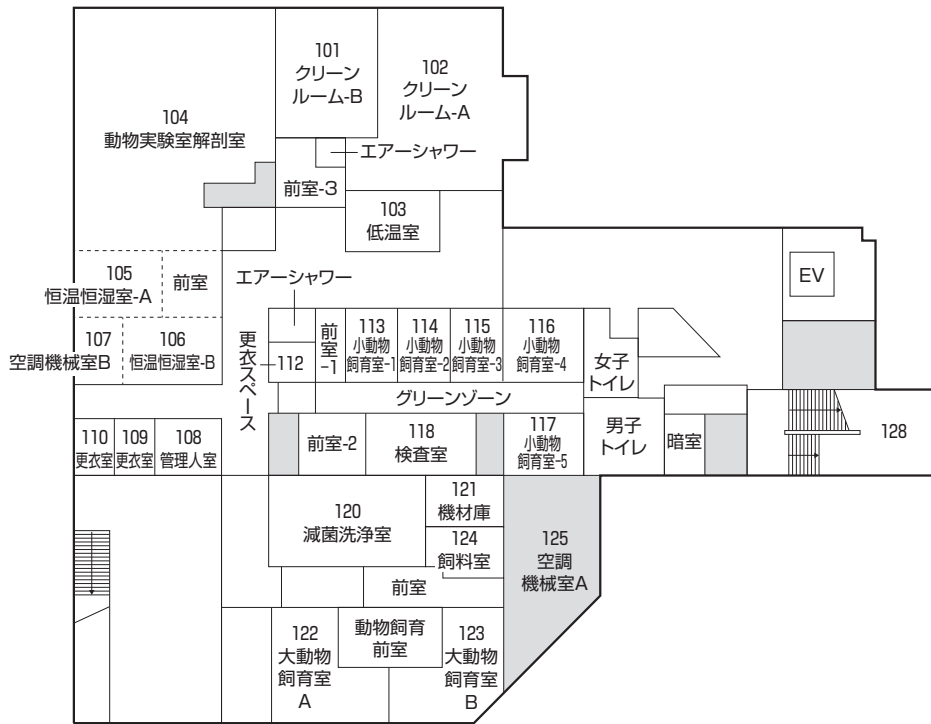
〈4階〉



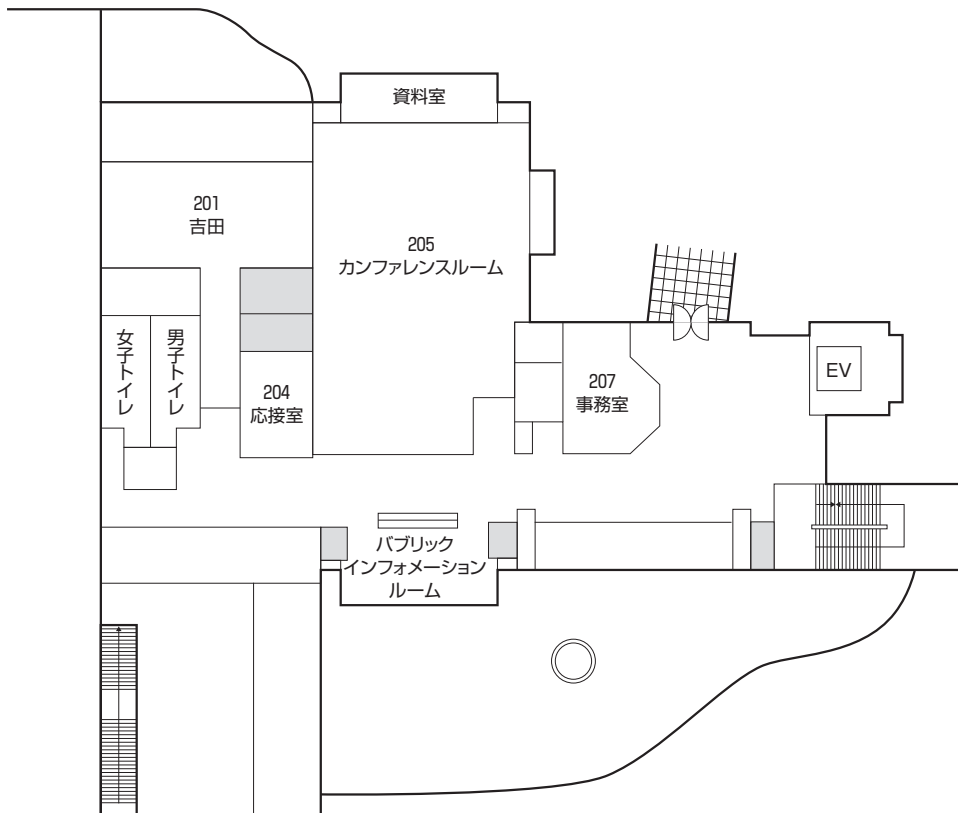
〈5階〉



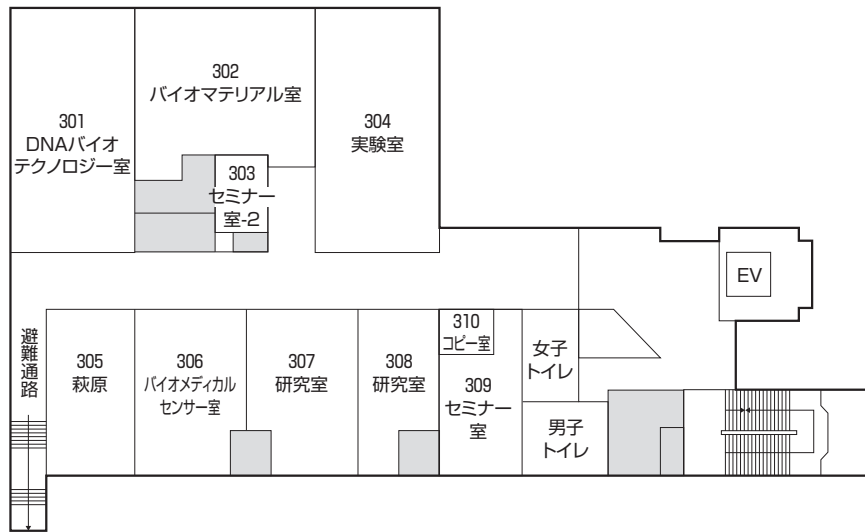
<1階>



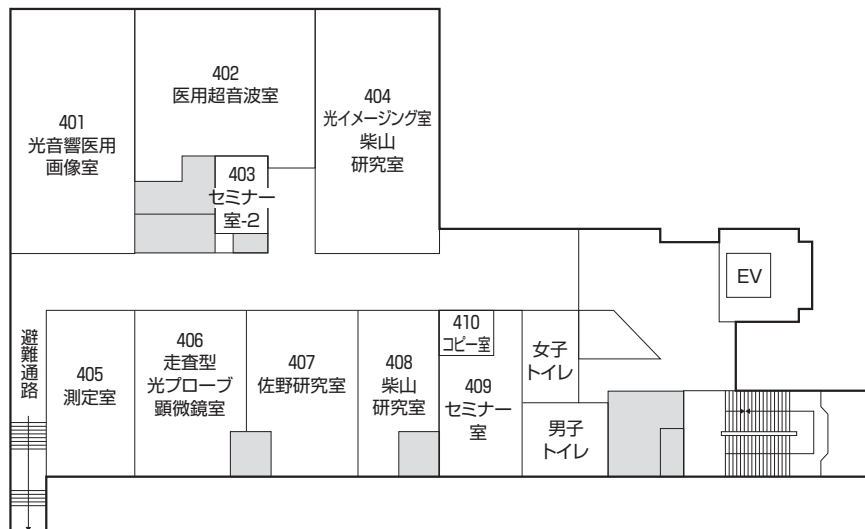
<2階>



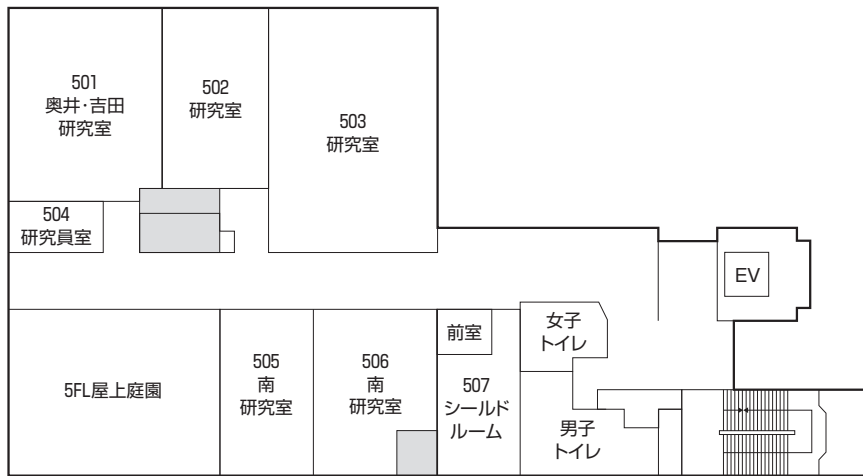
〈3階〉



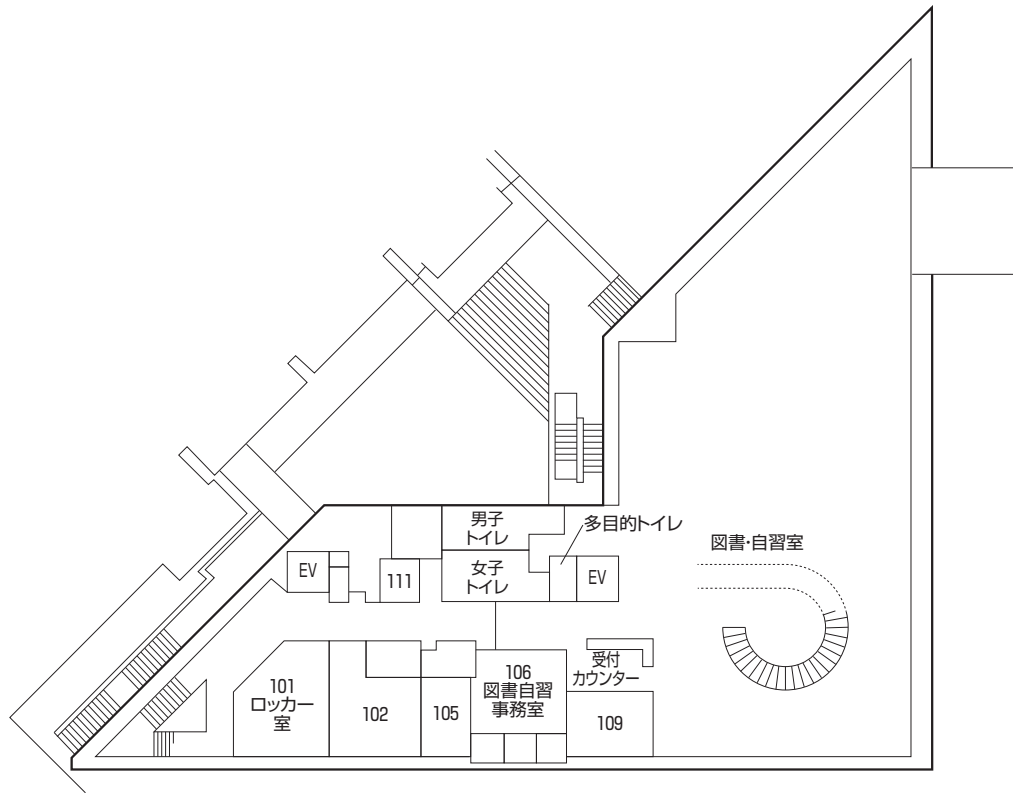
〈4階〉



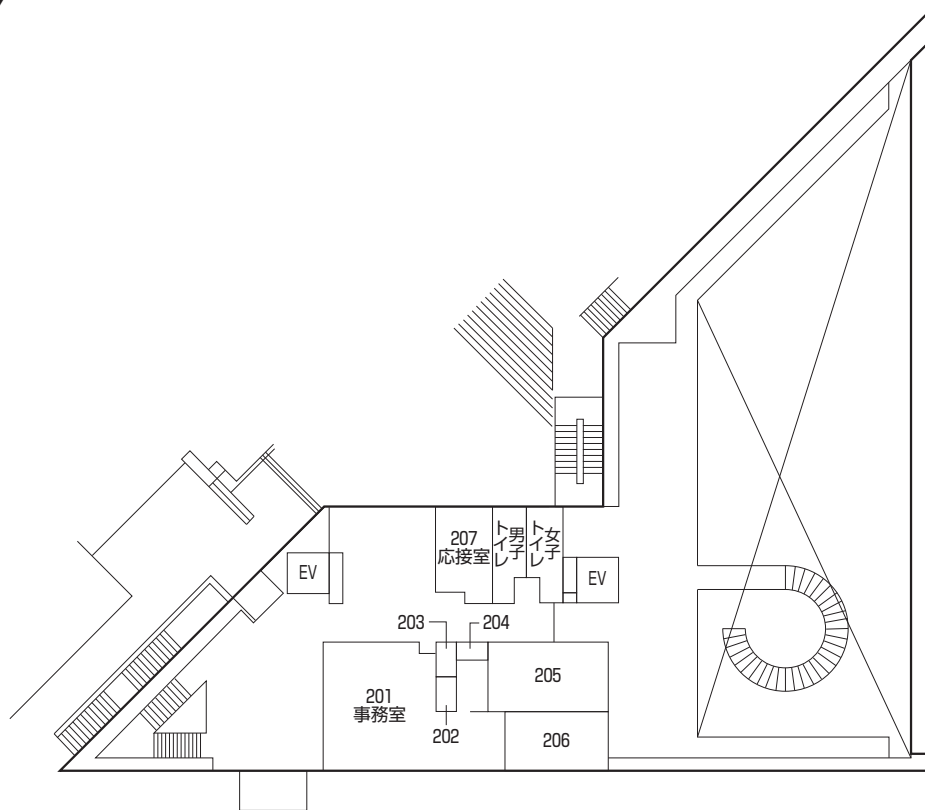
〈5階〉



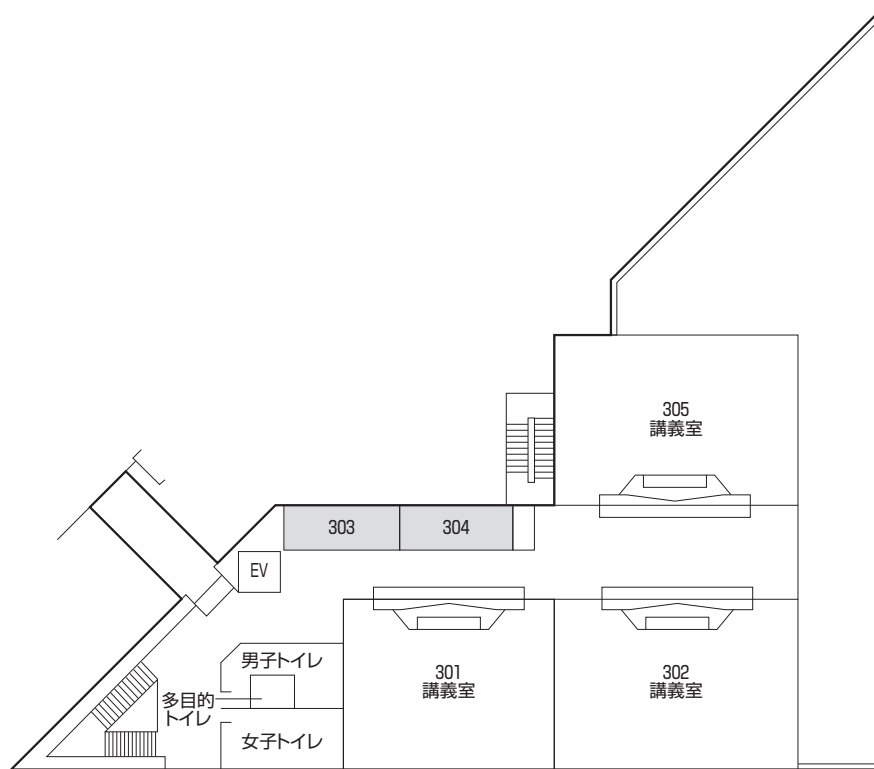
〈1階〉



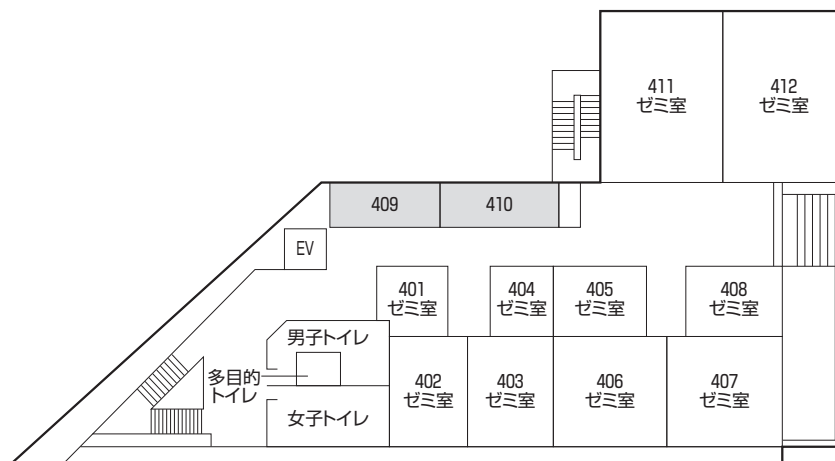
〈2階〉



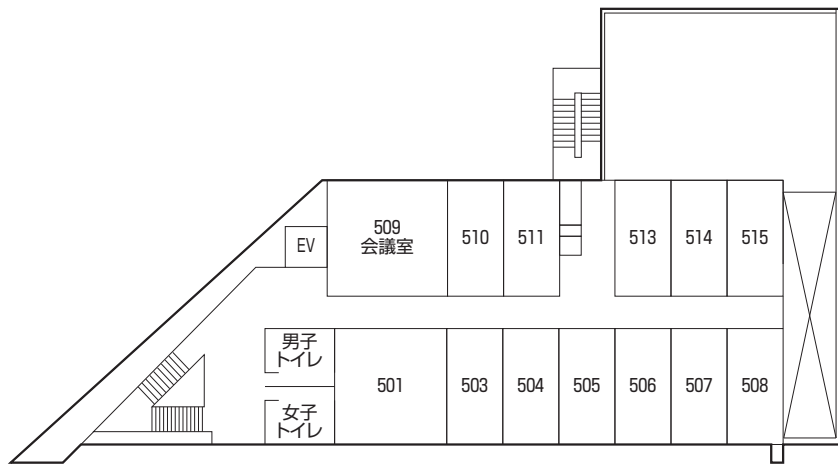
〈3階〉



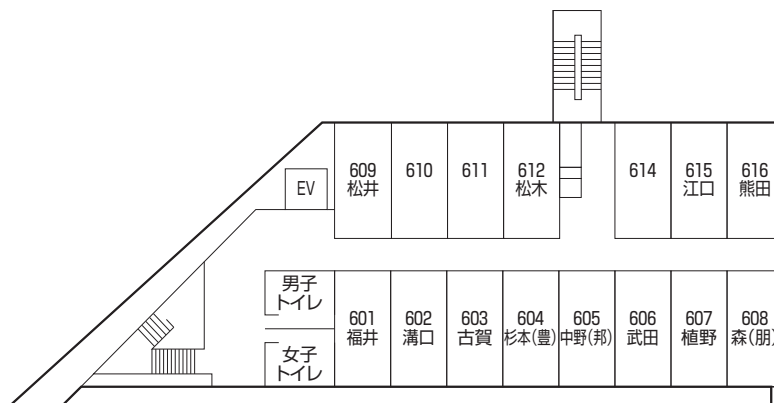
〈4階〉



〈5階〉



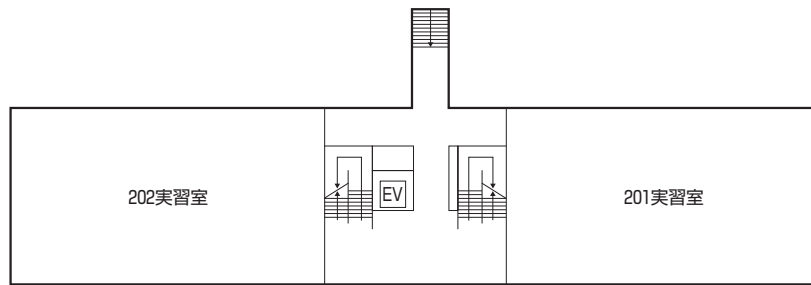
〈6階〉



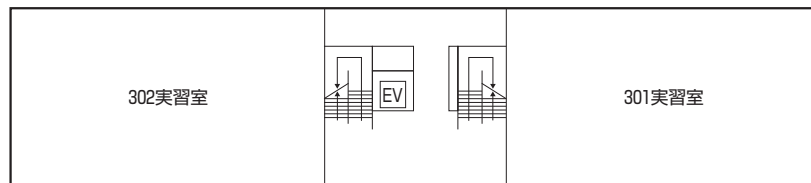
<1階>



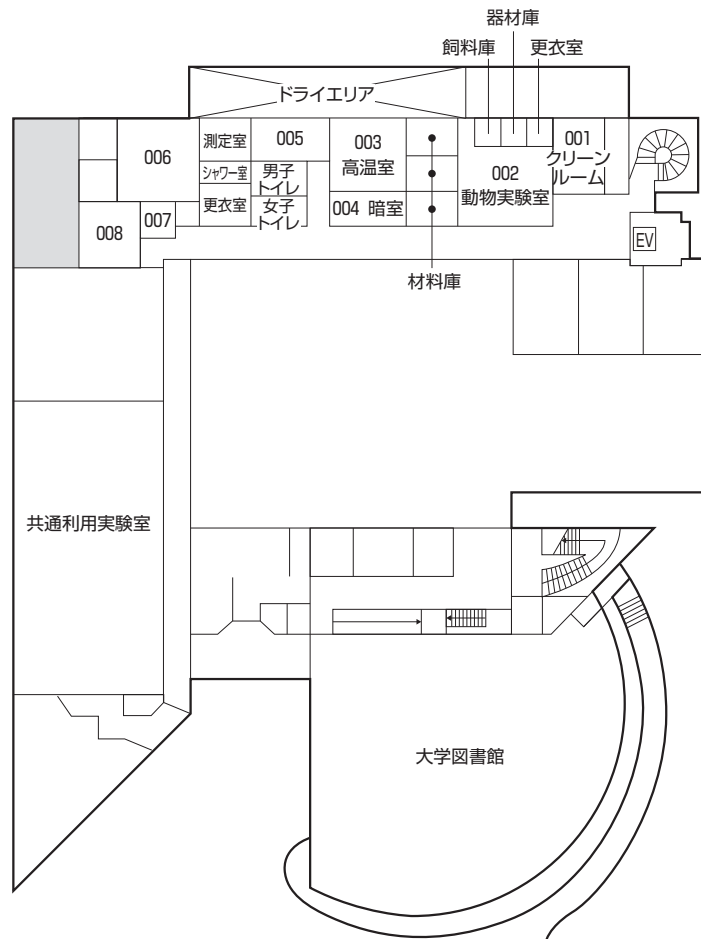
<2階>



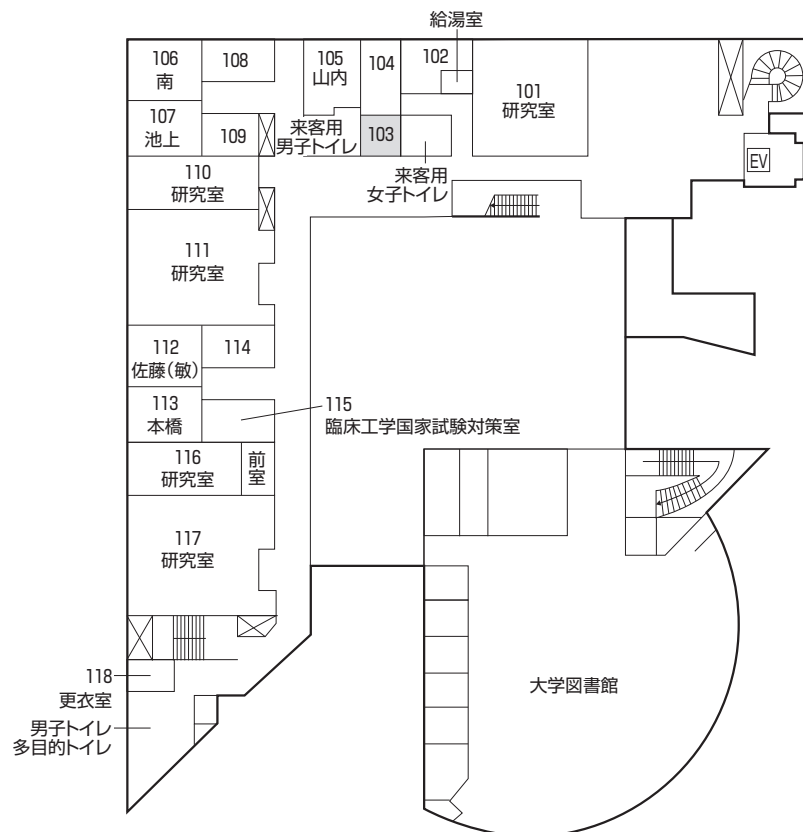
<3階>



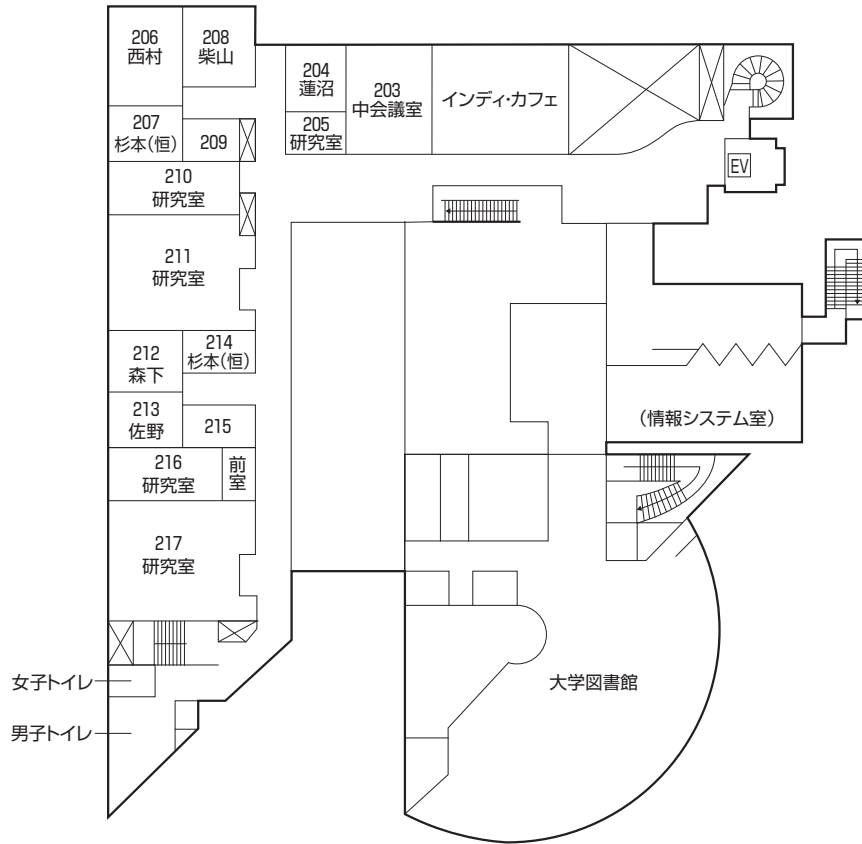
〈地階〉



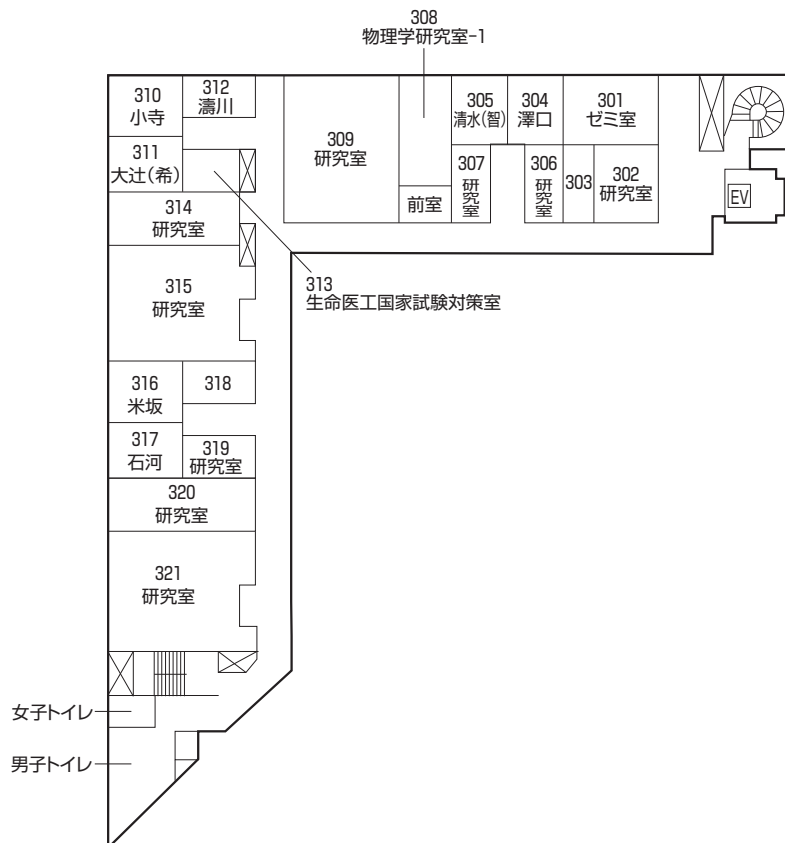
〈1階〉



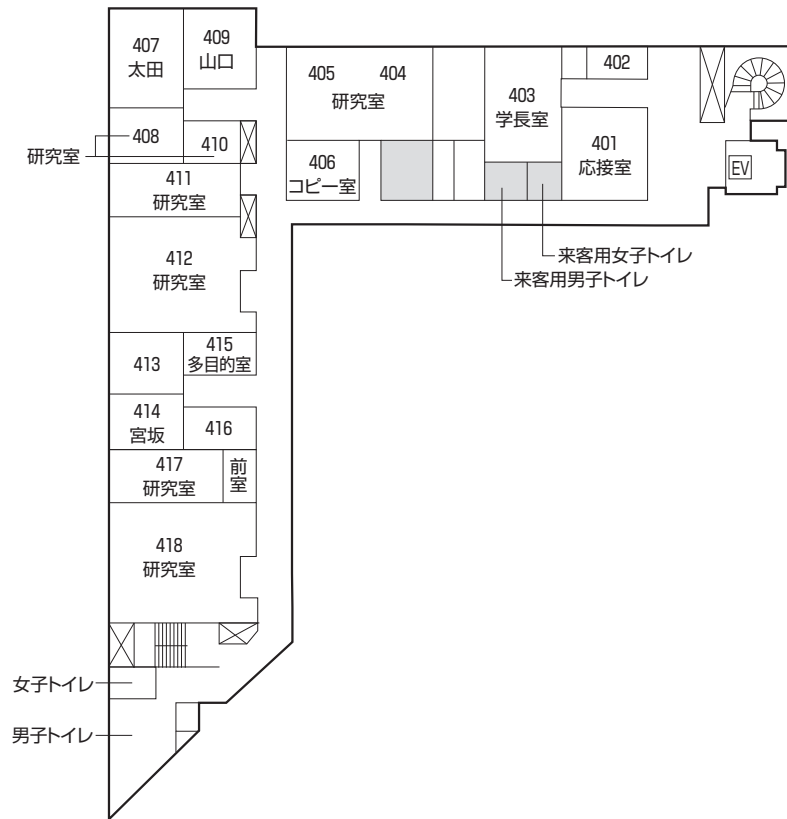
〈2階〉



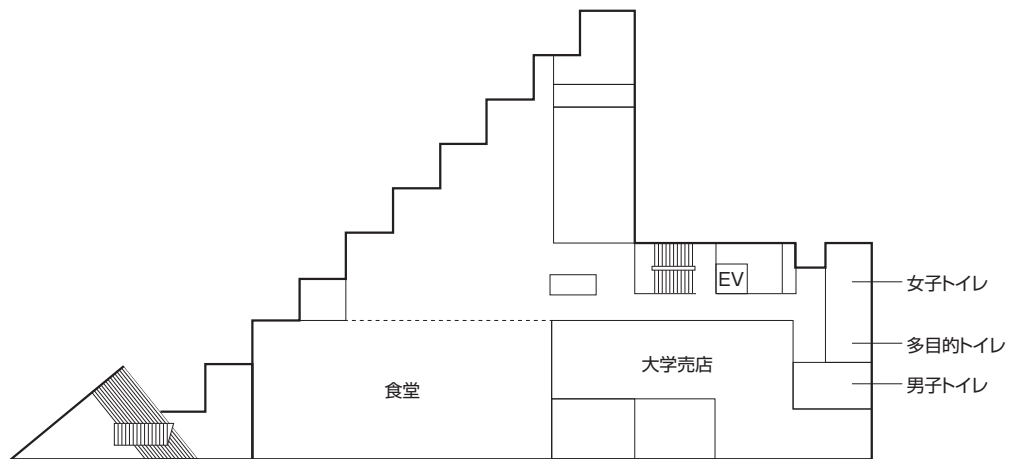
〈3階〉



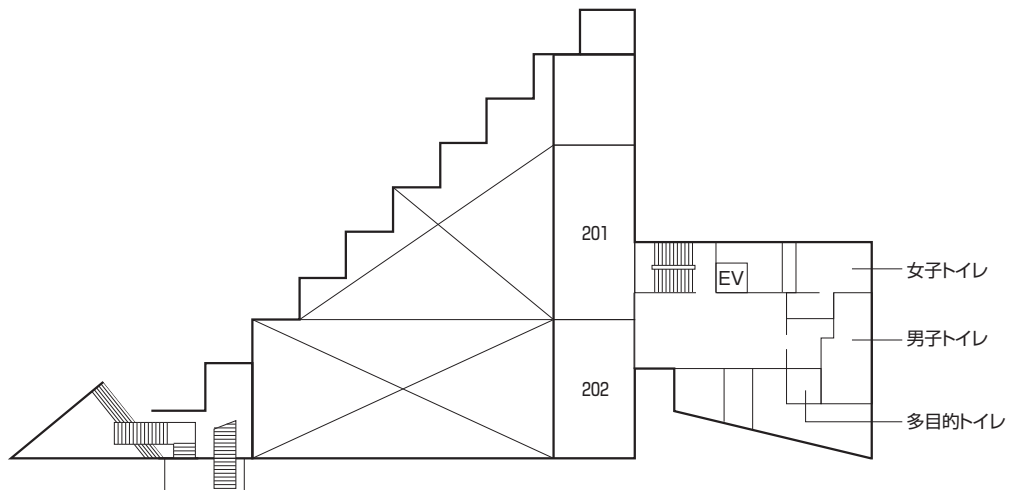
〈4階〉



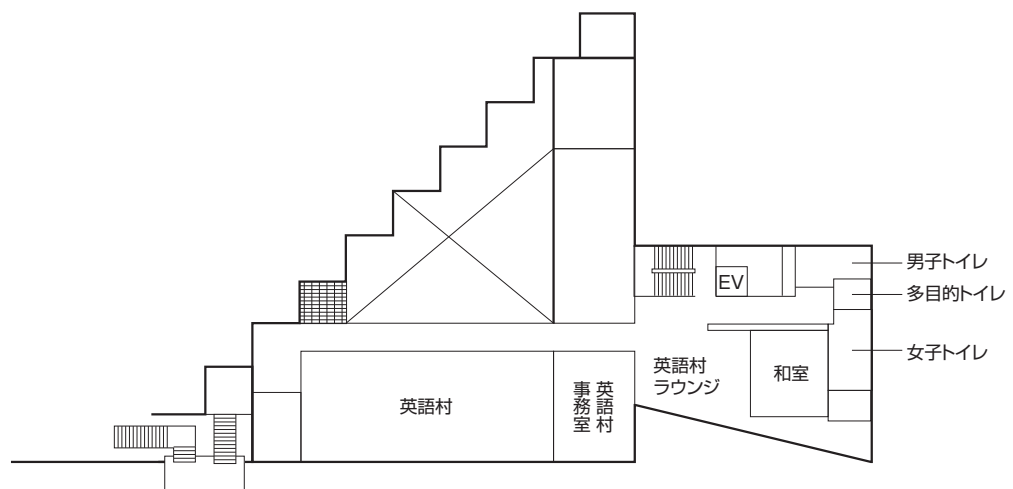
〈1階〉



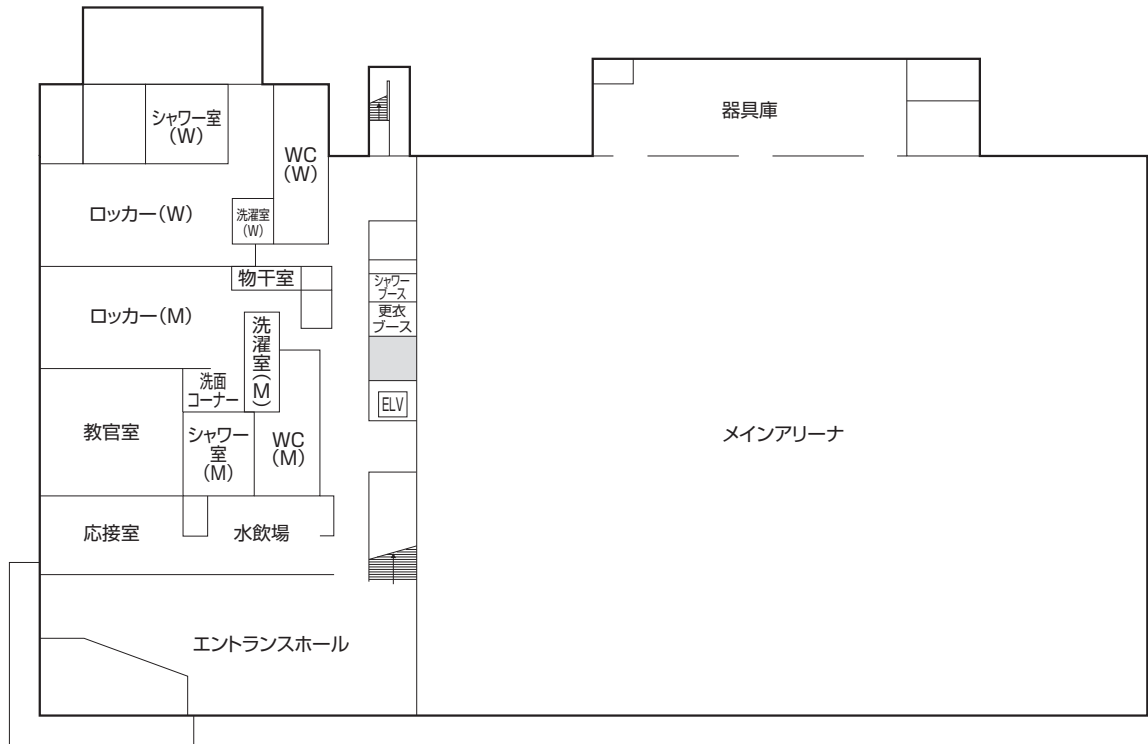
〈2階〉



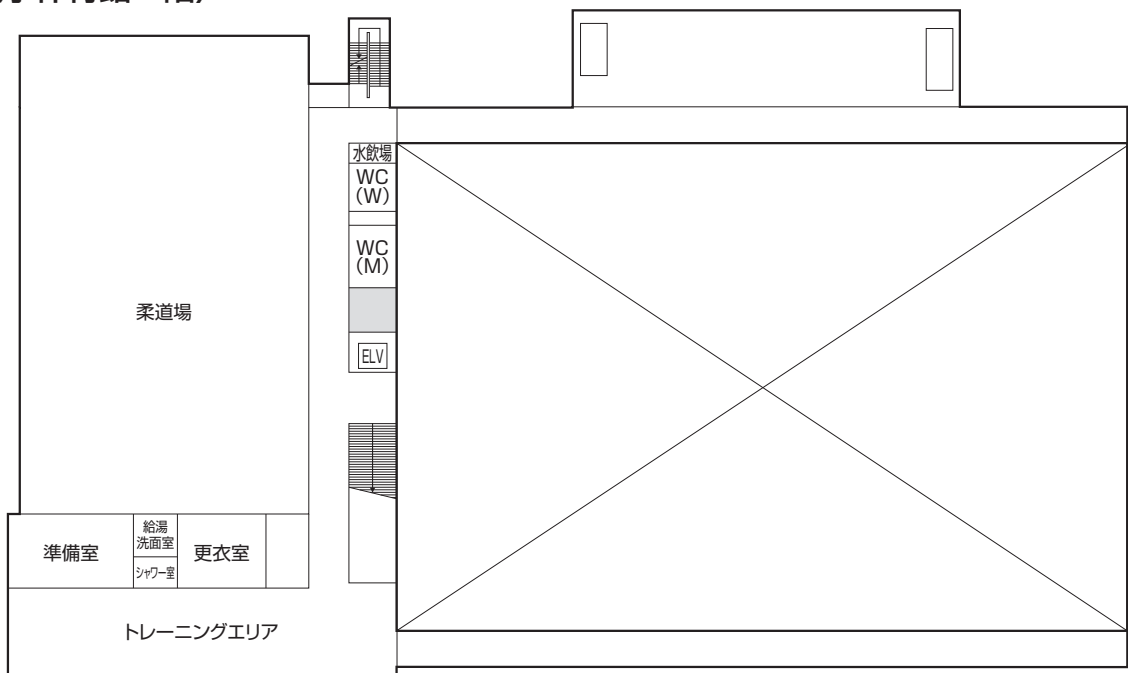
〈3階〉



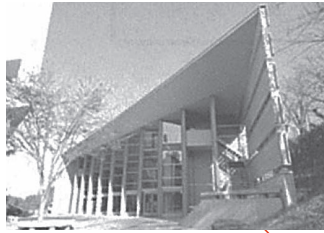
〈大学体育館 1階〉



〈大学体育館 2階〉



キャンパスマップ



交流会館



野球場



Ⅲ号館



大学体育館



I号館



Ⅵ号館



大学図書館



Ⅱ号館



総合体育館 メインアリーナ サブアリーナ 外観

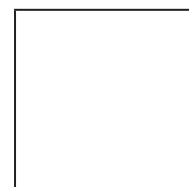
■ スポーツ科学部 教員連絡先一覧

No.	氏名	学科	研究室	内線	研究室 E-mail	専門分野
1	李 禧承	教育	C608	7845	heeseunglee@toin.ac.jp	教育方法学、教育工学
2	井口 成明	教育	C612	7080	nriguchi@toin.ac.jp	体育科教育法、保健科教育
3	今泉 隆裕	健康科学	C614	7065	imaizumi@toin.ac.jp	日本文学、宗教学
4	殖田 友子	健康科学	C605	7135	tueda@toin.ac.jp	スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
5	大石 進	(客員)	C523	7829	suoishi@toin.ac.jp	高等学校教育、保健体育科教育
6	大伴 茉奈	健康科学	C519	2258		機能解剖学
7	小笠原一彰	教育	C511	2297	kazuaki@toin.ac.jp	水泳、コーチング学
8	岡本 大	健康科学	C506	7075	okamotodai@toin.ac.jp	ハンドボール、球技戦術論
9	尾山 裕介	健康科学	C613	7847	y.oyama@toin.ac.jp	応用健康科学、測定評価学
10	加藤 知生	健康科学	C505	7078	tkato@toin.ac.jp	スポーツ医学
11	亀岡 聖朗	教育	C611	7720	skameoka@toin.ac.jp	教育心理学、環境心理学
12	河崎 賢三	健康科学	C603	7062	kenzo@toin.ac.jp	スポーツ医学
13	木原 洋一	教育	C512	2271	ykihara@toin.ac.jp	スポーツ教育学
14	木村 和宏	教育	C508	7079	kazukimura@toin.ac.jp	バスケットボール、コーチング科学
15	小山 桂史	健康科学	C610	7846	koyakei@toin.ac.jp	陸上競技、スポーツバイオメカニクス
16	桜井智野風	健康科学	C626	7851	sakurai@toin.ac.jp	運動生理学、スポーツ科学
17	佐藤 国正	教育	C621	7756	satoukunimasa@toin.ac.jp	バレーボール、スポーツ哲学
18	佐藤 豊	教育	C609	7061	yutaka.sato@toin.ac.jp	体育科教育、体育・スポーツ行政、野外教育、教員研修
19	渋谷 崇行	健康科学	C628	7852	shibukura@toin.ac.jp	スポーツ心理学
20	清水 由	教育	C503	7348	yshimizu@toin.ac.jp	体育科教育学、初等教育
21	谷本 直美	教育	C604	7063	tanimoto@toin.ac.jp	音楽科教育学
22	中野 英之	教育	C521	7067	nakatee@toin.ac.jp	理科教育、地域生活学、惑星科学
23	成田 崇矢	健康科学	C510	7842	t-narita@toin.ac.jp	アスレティックリハビリテーション
24	濱田由起夫	(客員)	C523	7829	y_hamada@toin.ac.jp	小学校教育
25	白比野暢子	健康科学	C526	7781	nobuko.t@toin.ac.jp	スポーツ政策学、スポーツマネジメント学
26	廣川 充志	健康科学	C601	7775	hirokawa@toin.ac.jp	運動生理学
27	廣澤 聖士	健康科学	C524	2280		情報処理
28	廣瀬 立朗	健康科学	C501	7841	thirose@toin.ac.jp	運動生化学
29	福浦 一男	健康科学	C513	7077	fukuura@toin.ac.jp	比較社会学、文化人類学
30	溝上 拓志	健康科学	C527	7786	hmizokami@toin.ac.jp	情報戦略
31	峰野 宏祐	教育	C522	7074	kmineno@toin.ac.jp	数学教育
32	宮津 大蔵	教育	C507	7073	miyazu.d@toin.ac.jp	国語科教育学
33	吉鷹 幸春	健康科学	C509	2259	yositaka@toin.ac.jp	柔道、コーチ学
34	吉原 昌子	(客員)	C523	7829	syoshihara@toin.ac.jp	中学校教育、保健体育科教育
—	学部長室	—	C622	7849	—	—

レポート提出用カバーシート

スポーツ科学部

レポート題目		
所属学科・学年	<input type="checkbox"/> : スポーツ教育 <input type="checkbox"/> : スポーツ健康科学	年生
学籍番号		
氏名		
授業科目名		
	年度 前期 ・ 後期 ・ 集中講義	
担当教員名		
提出日	年 月 日 ()	





2023年度 スポーツ科学部
履修要項



〒225-8503 横浜市青葉区鉄町1614